

2019 年度事業 報告書

- 1、全体の報告(成果と課題)…1
- 2、事業報告…2
 - A ボランティアセンター…2
 - B フードバンク宇都宮…3
 - C 災害救援・救援支援…7
 - D NPO活動推進センター…10
 - E とちぎコミュニティ基金…13
 - F とちぎ県北ボランティアネットワーク…27
- 3、その他の事業…
- 4、財政・組織運営…

1. 全体の報告（成果と課題）

①独立型社会福祉事務所の開設。

生活総合相談の相談員体制の強化

フードバンクと生活総合相談をセットに行うことで個別対応を行ってきたが、職員が相談対応を行ってきた。すべての相談を職員だけで対応することは困難なので、相談ボランティアの育成、配置が急務であった。十分とはいえないまでも若干名社会福祉士の有資格者や相談経験を有する相談ボランティアを配置することが可能となった。

②とちコミ災害対応がんばろう栃木募金の創設

とちぎコミュニティ基金は、地域の課題を調査し必要な資源を集める一連の活動を、多様な主体の参加によって実現するコレクティブ・インパクトを狙い推進した。台風19号の被害は栃木県内でも甚大な被害をもたらした。その災害救援活動をする団体を応援するためにがんばろう栃木募金を創設し、募金を集め活動団体に対して助成した。

2017年から子どもの貧困撃退円卓会議（子どもSUNSUNプロジェクト）を宇都宮市で実施し、宇都宮市内の清原地区でも円卓会議が行われた。清原地区円卓会議はとちぎYMCAが核となり、地元自治会や社会福祉法人巻き込んで運営しており、地区円卓会議のお手本としての展開となっている。

子どもSUNSUNプロジェクト(宇都宮)は総会、3回の公開会議、6回の会議を行った。下半期は台風19号や新型コロナウイルスの影響でほとんどの活動は停滞してしまった。集めた寄付金の配布は行わなかった。

子どもSUNSUNプロジェクトの寄付イベントであるサンタdeラン&ウォークでは過去最大の参加者を集め450万円を集めた。さらにたかはら子ども未来基金では、助成部門では3団体に助成、学生インターン部門には5団体に助成し、学生には5人助成した。

②学生、若者の活動者の増加。（Vレンジャー登場）

ミヤラジ「みんながけっぷちラジオ」の学生などの活躍で、宇大を中心に若者が若者を呼び安定して若者の参加があった。県北事務所と連動して子ども夏キャンプや子ども冬遊びを実施するまでに至った。家庭の事情で体験の少ない子どもたちに体験の場として実施された。

③拠点拡大に連動していな組織の縮小、会員の減少

県北事務所、F B日光事務所など拠点整備に取り組んできた。だが、そこに**集う人や会員は増えていない**。高齢化にともない会員の減少も続いている。

県北事務所は子ども食堂、無料学習支援教室を開催したが、自主財源（会費・寄付）の目標は未達成となった。本部も職員が1人交替し、事務の立て直しが続き、会員拡大がほとんどなされなかった。

④フードバンク（F B）事業のN P O法人化、災害救援活動

F B宇都宮は食品の流流量、困窮者支援数が増えきている。しかし通常の範囲での増加であり、**計画的な拡大ではない**。集めた食品数量も減少となった。応援する企業などは増えてきてはいるがまだ不十分である。

ボランティア希望者は増えていて、安定的に活動するものは15名に及んでいる。毎週の定例会議も平日の午後2時という時間にもかかわらず10名前後の参加になっている。

資金調達イベントのチャリティウォークは関係者の努力により過去最大の参加者となったが、**寄付は180万円程度に減少**した。資金と人集めの両立を考慮しイベントを立て直す必要がある。

なお、今期は宇都宮市内にF Bのサテライト拠点を増やす準備が始めたが、有効な広報口コミでの直接的な巻き込みをしなければ、ボランティアの増加も会員の増加も難しいだろう。

2. 事業報告

A. 【ボランティアセンター】

(1) ボランティア・コーディネーション事業（ボランティアとN P Oに関する啓発普及等事業）

ボランティアしたい希望者に活動の場を紹介し、「ボランティアの応援求む」S O Sニーズに対応するため需給調整をし、困難ケースは解決を図った。個別S O Sの解決は「総合相談支援センター」が担っている。

①総合相談支援センターの運営

総合相談支援センターは、F B宇都宮でのS O S対応とその後の生活支援、さらに若者支援や社協の困窮者自立支援事業からの依頼ケースに対応するため本会が行ってきた「**個別のS O Sに同行支援する方法**」を全面的に公開して実施した。この事業ではボランティアの個別性・柔軟性を最大限に活用することが、これからの地域福祉推進に必要な能力と考える。

【表1 相談者の状況のまとめ】 小澤さん完了

	のべ (回)	月平均 (回)	実数 (件)	内複数回 支援(件)	宇都宮市内/市外 ()は住所不定	世帯の人数	男/女
2012年度	30	2.5	30	5	19(9)/11(1)	単身:23、2人:5、3人以上:2	22/8
2013年度	75	6.25	46	11	32(10)/14(1)	単身:27、2人:14、3人以上:5	28/18
2014年度	196	16.08	135	25	72(47)/16	単身:101、2人:11、3人:6、4人:3、5人:5、6人:1、7人:3、10人:1	106/29
2015年度	243	20.25	165	49	102(11)/65(25)	単身:140、2人:25、3人:11、4人:7、5人:6、6人:4、8人:1	118/47
2016年度	350	29.8	185	49	144/18(23)	単身:126、2人:33、3人:10、4人:10、5人:3、6人:1、7人:1、10人:1	124/61
2017年度	572	47.7	248	182	177/15(29)	単身:158、2人:35、3人:11、4人:11、5人:6	160/61
2018年度	685	57.1	304	159	272(32)/32(20)	単身:218、2人:49、3人:19、4人:9、5人:4、6人:4、7人以上:1	217/87
2019年度	828	69.0	366	177	327(25)/39(7)	単身:271、2人:51、3人:26、4人:13、5人:3、6人:2、7人以上:0	261/105

【全世帯】366 世帯 —2019 年度— ●主な困窮の内容(複数)：仕事探し・失業・就職 192、病気・健康・障害 56、住居 6、金銭管理・所持金無し 178、精神疾患・人間関係など 33、日々の生活(低年金)275、債務(家賃滞納など含む) 81、子育て・介護 16、DV・離婚など 20 ●生活保護の世帯数： 受給利用中：75、手続き中：57 ●本会までの経路： 自治体(生活福祉課・子ども家庭課・保健所など) 119、社協(県内社協含む) 76、児童相談所 1、宮ハローワーク 23、地域包括支援センター17、NPO16、法律(法テラス)1、医療 2、介護福祉サービス 8、支援者(弁護士・議員・不動産関係・専門職含む) 16、ネット・テレビ 6、困窮者仲間(本人再利用含む) 38、交番・警察署 6、その他 37	【住居なし】32 世帯 ●男女比は、男 32：女 0 単身 32 世帯 ●年齢 10 代 0、20 代 2、30 代 4、40 代 9、50 代 7、60 代 8、70 代 2、80 代以上 0 ●困窮の内容(複数) 仕事探し就職 22、ホームレス 10(うち車上生活 2、移動中 3)、住居 2、精神疾患・人間関係 2、収入生活費・低年金 25、病気・健康 2、離婚 1 【女性相談者】106 世帯 ●単身 51/世帯持ち 55(内、母子家庭 30-子育て世代 17) ●困窮の内容(複数)：DV離婚など 12、病気・精神疾患 41、仕事探し・失業 39、金銭管理不能・債務 23、DV9、無・低年金 50、子育て・介護 5
---	--

今期基本方針の一つであった栃木ボランティアネットワーク独立型社会福祉士事務所が10月より設置開所することができた。今期の支援件数は366件(世帯)、のべ828回と、回数は前期の1.21倍になった。対外的、政策的には緒に就いたばかりであるが「個人からのSOSへの対応を行い社会課題の解決を図る」部門として自立的な活動が定着しつつある。

奨学米プロジェクトは、従来通りの活動の域を越えず、支援対象世帯は大幅には増えなかった。新たな周知方法や対応が必要である。しかし継続的な支援のなかで、協力という方ではあるが中央児童相談所との連携が生まれ始めている。21世帯(ウィメンズ栃木対応3世帯含む)、延べ100回、奨学米1,076kg、その他食品653.6kg、野菜配送188回であった。

表1は相談者の状況のまとめである。母子家庭など地域で定着している困窮者(世帯)への支援方策は増えてきたが宇都宮の母子家庭だけで2700世帯(推定)あり、掘り起しが必要である。また、**71%を占める単身男性**への支援方策はまだ見いだせていない。

②コールセンター栃木の運営支援

今期も厚生労働省**社会的包摂ワンストップ相談支援事業**を受託する(一般社団)社会的包摂サポートセンターの「コールセンター栃木」の運営支援をした。栃木では**13人のスタッフ**で年間**1801件の電話相談**に対応した。そのうち緊急支援の必要があるものについては本会のネットワークを使って同行支援をおこなった。

③ユニバーサル就労研究会の運営

生活困窮者の就労支援について『F B 通信』や民ボラ研修会での状況を関係団体に情報提供していたところ、**ふれあいコープの竹内理事長からの発案で「ユニバーサル就労についての研究会」**を開催した。9月から7回、毎月開催した。1月には先行事例である生活クラブ千葉や、NPO法人ユニバーサル就労ちばを招いての研修も行い、3月には「職員を配置して来期からの実施」を決定したが、新型コロナの緊急事態宣言により会議・事業を中断している。

9/12：困窮者支援のユニバーサル就労について協議(矢野/ふれあいコープ竹内・砂山他1、コープ塚原・菊池)
10/8：ユニバーサル就労研究会(矢野・小沢、ふれあいコープ/竹内・砂山・菊池、とちぎコープ/塚原・菊池)
11/7：ユニバーサル就労研究会(ふれあいコープ/竹内・砂山、とちぎコープ/塚原・菊池、小澤・矢野、にじみる/高田)
12/2：ユニバーサル就労研究会(ふれあい/竹内・砂山・菊池、生協/塚原・菊池、高田、矢野、服部弁護士)
1/30(木)ユニバーサル就労研究会(矢野・小澤、竹内・砂山・菊池/ふれあい、塚原・菊池/とちぎコープ、田畑/生協連、田中・五十嵐/コラボワーク、平田/ユニバーサル就労ちば)
2/20(木)ユニバーサル就労研究会(矢・小、ふれあい/竹内・砂山・菊池、生協/塚原・菊池)

(2)講師派遣事業(ボランティアとNPOに関する啓発普及等事業)

	回数	月日	講座名(内容)	主催等	場所	講師	聴講数(のべ)
1	4	4/9～	国際NPO 起業論	宇都宮大学・大学院	宇都宮	矢野	44
2	8	4/12～	「ボランティア論」	宇都宮短大	宇都宮	矢野	56

3	1	5/12	子どもの貧困について	栃木県内ロータリークラブ・社会奉仕部会	佐野	矢野、徳山、山口、早川、福田、塩澤	50
4	1	7/6-7	民ボラ分科会「民間非営利とは？」	全国ボランティア推進団体会議(民ボラ)	千葉	矢野	30
5	1	7/24	「子どもの貧困撲滅5か年計画」講師サンサンPの取り組みについて	小山市保健福祉課	佐野	矢野	50
6	1	10/17	「子どもの貧困」贈呈式講演	陽南ロータリークラブ	宇都宮	矢野	35
7	1	10/27	岩舟町災害講座	栃木市・岩舟支所	栃木	矢野	15
8	6	10/23～	「ボランティア入門」シルバー大中央校講座	シルバー大学(北・中央・南校)	宇、矢板、栃木	矢野	480
9	1	11/19	「NPO論」講義(FBと子どもの貧困)	独協医科大学・看護学部	壬生	矢野	120
計	24						880人

ボランティア活動、NPOの啓発普及のため役職員等を講師として派遣した。派遣は**25回**（聴講数のべ880人）で、講義は減少し、**5年前の116回からは5分の1に減少**している。子どもサンサンプロジェクト関連での「**子どもの貧困**」がテーマの講義が多かった。講義内容の変化はNPOやボランティアを学ぶことから「**社会問題の解決への実践とその糸口を見出したい**」という求めであろう。

事業報告 B.【フードバンク宇都宮】

(1)フードバンク事業（生活困窮者の支援）

賞味・消費期限内に食品を無償でいただく、無償で配るフードバンク（FB）活動は、今期は**10トンの食品受贈**があった。全体的に受贈数量が減少しているのは、企業からの飲料の入庫がほとんどないためである。企業の受贈は**スーパーカスミ**が2017年度より県内5店舗に協力いただいたが、他のスーパーからの食品寄贈は増えなかった。

奨学米プロジェクトは口コミのみでの広報で展開しているが、支援対象世帯は増減はあるものの全体数増えていない。行政との連携を強化していくことが急務である。

当会は、日本フードバンク連盟の正会員として活動している。19年度は**現地集合同会議（名古屋）を1回**行い、ネットを利用した会議を2回行い、各団体の情報交換と日本FB連盟の今後の方向性を話し合った。

月	受贈量 (kg)	寄贈量 (kg)
4月	728	858
5月	554	879
6月	422	523
7月	513	585
8月	872	742
9月	1228	686
10月	1673	945
11月	848	927
12月	739	701
1月	858	885
2月	539	801
3月	1109	970
合計	10,083	9,502
前年(2017)	15,481	13,497
増減	-5,398	-3,995

※内、企業からの寄贈は 5,900kg

①フードドライブの実施

フードドライブの食品受口として**食品受付箱（以下：きずなボックス）**を多くの人が出入りする場所に設置した。公共施設、店舗、会社事務所、病院、寺院等の**10か所**に設置した。一定の宣伝効果がある。しかし、きずなボックスの食品受取りについては、管理する店舗の善意と、ボランティアでの回収が前提なので、前期は増えなかった。今期は10か所以上は増やすことを目標とする。

フードドライブ（FD）は定期的の実施できたのは**とちぎコープ、宇都宮市役所ゴミ減量課、栃木保健医療生協、栃木県庁関係10回**、FDを行った。また市内・光琳寺では毎月1日に境内で行うラジオ体操時にFDを実施した。3月については、新型コロナウイルスの影響で全部中止となってしまった。

一方でFDでの食品量が増えたのに伴い、セカンドハーベスト・ジャパンからの供給される食品は飲料や冷凍食品などが多く倉庫のストックする食品の優先順位が低いものが多いのでほとんど受け入れはなかった。今後、新型コロナウイルスの影響で増大する困窮者によるFB活動の拡大に合わせて、**倉庫、ボランティア、食品、資金の調達**が急務になってきている。

フードドライブ：29 回 毎月 1 日(金)光琳寺 FD(きずな BOX 設置)12 回 5/19(日)：フェスタ my 宇都宮 F D 6/15(土)：県民の日 F D (伊東、曾根、夏目) 8/29(水)：福祉の集い F D (伊東、曾根、徳) 9/28(土)：もったいないフェア 2019(伊東、石江、夏目、徳) 10/11：JU 栃木チャリティーオークション F D (木下・徳) 10/6 (日)：食育フェア (伊東、曾根、木下) 10/26 パルシステムフェア F D (曾根、松葉、石江、徳)	10/27 (日) 双葉クリニック F D (石江、伊東、夏目、徳) 11/3：とちぎコープ越戸店 F D (石江、徳) 11/9：介護の日 (曾根、稲村、ガネ、徳) 11/16：益子町民まつり F D (伊東、曾根) パルティフェア (松葉、徳) 11/24(日)：とちぎコープフェスタ (F D) (石江、釜井、徳) 11/30(土)：エコテックライフとちぎ F D (伊東、曾根) 12/1：協立診療所健康祭り F D (石江、小澤、徳) 1/19：反貧困、FB 合同炊出し (徳山、他 35 人) 2/23：ハーベストウオーク (伊東、石江、曾根、徳山)
--	---

② F B 食品の利用

学齢期の子供がいる低所得の母子家庭等に対し毎月定期的に米を提供し、浮いたお金で学用品などを買ってもらう「奨学米プロジェクト」を実施した。年度末からは月 1 回の米の他に、合間に**野菜・パンの配達**もボランティアによって実施した。

母子家庭のほとんどは働いているが非正規が多く、また生活・通勤に都合で自家用車を持っている場合、生活保護を受けられない。低所得のうえ社会保障の給付の枠組みから外れていて、**事実上生活保護以下の暮らしをしている人も多い。**

お母さんたちは毎月定期的に支援者と話せたりすることで**困り事を言える状況が生まれ、母子家庭の孤立を防ぐことが主眼である**が、F B 内部の相談員や奨学米ボランティアの数が増えているが、支援世帯数を増やすまでには至らなかった。

日夜働き詰めの母との、接点の時間を確保することが困難であることが原因である。引き続き**女性支援ボラ等**を段階的に育成し、お母さんの悩みを聴ける体制を整える必要がある。

学齢期にある生活困窮家庭への“奨学米”プロジェクト要項	
1、目的 2010 年度の国の調査では、母子家庭のうち 65%が年収 180 万円以下であり、夫婦 2 人世帯の平均年収では 300 万円以上の差がある。また国民の相対的貧困率は 16.1%であるが母子家庭の貧困率は 54.3%である。様々な事情で身内や地域に頼れない人も多くフードバンクに頼れない(頼らない)人も多い。さらに 2014 年度に本会・フードバンク(FB)宇都宮が、女性(世帯)へ支援した割合は 3 割であり、非常に少ない。 こうしたことから、F B 宇都宮では学齢期の子供がいる母子家庭等に対し、米による家計負担の支援を定期的に行い、同時に生活の相談を行うことで困窮母子家庭の生活支援をしていく。 母子家庭等と、本会職員・ボランティアがつながりを持つことによって、何か困った時に頼ることができる関係＝縁を作り、一緒になって解決できるようにすることが重要である。	②対象世帯数 20 世帯。米の確保、倉庫の課題が解決されれば対象者数の増加も検討する。 ③米保有量は 4.8 t (10 k g × 12 月 × 20 世帯) ④配送方法は原則としてボランティア等が相手宅まで届ける。配送の際に相手宅の玄関をまたぐことが関係構築や状況把握の上で重要と考える。(場合によってはフードバンク事務所に本人が来ることも可とする。) ⑤配送日は原則として、火曜日 13：30-17：00。対象者の都合が悪い場合は要相談。 ⑥受付は V ネット事務所 (028-622-0021) で行う。 ⑦ボランティアは 5 人程度募集。同じ人が同じ家庭に継続的にかかわる。 ⑧保管は米で行いその都度精米する。保管場所は、当面 F B 大田原の倉庫とするが、宇都宮近郊で倉庫を探していく。 ⑨配送社は F B 所有のハイエースやボランティアの自家用車とする。
2、対象者 ・原則として県央地区に住む学齢期の子供がいる母子家庭等、20 世帯 ・低所得 (例/3 人家族で月収 20 万円、年 240 万以下) の世帯であり、身内や友人にたよることが難しい世帯。 ・生活保護世帯は対象外とする。	4、広報 ・米募集…インターネット及び、チラシを作成し J A やコープ等に営業。 ・対象世帯向け…対象世帯むけのチラシを作成。D V 関係 N P O、母子家庭関係者に対象世帯の選定、ピックアップの要請をする。 ・ボランティア募集…チラシの他、インターネットでの周知、本会会員・ボランティアに対しては電話、機関紙等での勧誘を行う。 (福祉プラザ、まちびあ、ピックアップ要請団体、若者支援系の団体)
3、内容 ① 1 か月白米 10-30 k g の支援を毎月行う。対象世帯の人数と状況を勘案し決定する。	

③県内ネットワークの拡大

宇都宮市駅東地区の今泉地区に市内 2 か所目のサテライト拠点を設置するに至った。しかし、台風 19 号被災者向けの食品倉庫的に使用した以外は本格的な稼働までには至らなかった。その他の地区については現状維持のみである。

④広報

拡散の波及威力の強いツイッターを中心にほぼ毎日のように更新するなど行いフォロワー数も 1000 近くに及んだ。ツイッターによるネットワークもできつつあるが、そのほかの広報についてはホームページを新設する以外には力を入れることができなかった。台風 19 号の被災者支援がらみにおいては、NHK 宇都宮、や各種の新聞に掲載されることができた。

⑤各拠点ごとの事業

全拠点の特徴として、行政や社協などの支援機関を通して食品支援を実施した。

＜フードバンク大田原＞支援機関の要請により食品支援の実施。学生向け奨学米プロジェクトを計画している。

＜フードバンク日光＞毎月第一日曜日に会議を実施。行政からの困窮者支援依頼を中心に対応している。

FB 日光会議：12 回 4/7、5/5、6/2、7/7、8/4、9/1、10/6、11/3、12/1、1/5、2/2、3/1

＜フードバンク那須烏山、フードバンク鹿沼＞フードバンク那須烏山、鹿沼は困窮者への行政、社協からの依頼の食品支援を中心に行った。

フードバンク(ボランティア)会議(毎週木)：49 回	9/19、9/26、10/3、10/10、10/17、10/24、10/31、11/7、11/14、11/21、11/28、12/5、12/12、12/19、12/26、1/9、1/16、1/23、1/30、2/6、2/13、2/20、2/27、3/5、3/12、3/19、3/26
4/4、4/11、4/18、4/25、5/9、5/16、5/23、5/30、6/6、6/13、6/20 6/27、7/4、7/11、7/18、7/25、8/1、8/8、8/22、8/29、9/5、9/12	

(2)ファンドレイジングの強化 (生活困窮者の支援)

①チャリティ・ウォーク 56.7 (CW56.7) の実施

フードバンクへの寄付集めと広報のため 10 月 5 日・6 日に寄付イベント「チャリティ・ウォーク 56.7」を開催した。結果 1,883,577 円の寄付があり、チャレンジャー 51 人、ウォーカー 5 人、ボランティア 60 人の参加が得られたが、競争の要素を取り入れ活性化を図ったが資金調達については十分な活動を展開することができず、昨年より 40 万円寄付金は減少した。

運営のために 6 月から実行委員会を組織し**実行委員会・ボランティア説明会を 9 回**実施した。さらにチャレンジャー個人や協力団体のファンドレイジング**事前(事後)イベント**が行われた。

天候は非常に良好な環境で実施することができた。CW56.7 は参加すれば非常に楽しいイベントであるが、参加者・寄付額とも第 2 回が最高で、その後はほとんど伸びていない。実施体制・組織の強化が必要であろう。

第 7 回 チャリティ・ウォーク 56.7 ～みんなで作るセーフティネット＝フードバンク～ 2018/10/5-10/6 (宇都宮・矢板—今市—中禅寺湖)	
1、開催趣旨 本会が行うフードバンク活動への資金造成(寄付)とフードバンク活動の理解促進のために 1 泊 2 日でチャリティイベントを実施する。 寄付を集めることとともに困窮した状況にある人たちの現状や制度の限界を伝えることで、「私たち自身がセーフティネットを作っていく」必要性を理解し、またこうした仕組みの存在があることで「やりなおしがきく社会」をつくる希望となることを伝える。	
2、日時・場所 ・2019 年 10 月 5 日・9 時—10 月 6 日・16 時頃(雨天実施) ・宇都宮市、日光市、矢板市、塩谷町 ■1 日目 10/5(土) ●宇都宮コース：(出発) 宇都宮市中央(まちかど広場) ⇒(経由) 長岡公園 ⇒(泊) 今市市街 ●矢板コース：(出発) 矢板市(長峰公園) ⇒(経由) 矢板市道の駅 ⇒(泊) 今市市街 ■2 日目 10/6(日) ※宇都宮、矢板コースは今市で合流します。 今市 ⇒(経由) いろは坂 ⇒(到着) 中禅寺湖畔	●「いろは坂」出迎えウォーク(日光) ・10 月 6 日、12:00~14:30 ・56.7km チャレンジャーを出迎えるためにゴールまでの約 7km(いろは坂)と一緒に歩いて登る。 ・個人/一口 2000 円以上の寄付+食品 1 品 ・集合場所/日光市 馬返し休憩所(いろは坂の一方通行分岐点) ※上記「参加費」はすべて寄付扱いとする。また「寄付」はなるべく自分以外の人から寄付を募ってくる。
3、内容 ＜メインイベント：①チャリティ・ウォーク 56.7＞ ●チャリティ・ウォーク 56.7 ・宇都宮市まちかど広場(レディオバレー前の公園)と矢板市長峰公園から日光市中禅寺湖畔の大鳥居までの 56.7km を 1 泊 2 日で歩く。 ・個人/参加費 10,000 円+5,000 円以上の寄付 ・チャレンジャーは、各自で寄付者を募る簡単な催しを行い、実行委員会事務局とともに表出する。各チームが独自にファンドレイジングをすると同時に、各種メディア、SNS 等で事務局に直接寄付できるようにする。	4、広報 WEB サイトによる広報。①チャレンジャーのイベントを逐次公開 ②フードバンクの周辺にいる困窮者の実情を記事で紹介する(毎週 3 回更新) 5、募集 ・参加者 ② チャリティ・ウォーク 56.7…100 人(団体：13 チーム、個人：30 人) ②送り出しウォーク…10 人程度(5 日のみ)

・またチームや個人は Just Giving 等 ネット上の寄付サイトにも登録。 【サブイベント】 ●送り出しウォーク（宇都宮、矢板） ・10月5日、9:30～11:00 ・56.7km チャレンジャーを送り出すためのサブイベントとして、①宇都宮市二荒山神社から長岡公園までの4km（往復8km）を一緒に歩く。 ②同様に矢板市長峰公園から道の駅矢板までの往復4km。公園でフードバンク等の簡単なスピーチやボランティアによる出し物を行い、盛り上げる。 ・個人／一口1000円以上の寄付＋食品1品 ・現地に直接集合也可。	③出迎えウォーク 6.7…10人程度（6日のみ） ・ボランティア…100人 ・宿所提供…自治公民館、体育館などルート上の公共または民間施設（30km 地点に設置。今市の市街地を予定） ・協賛企業…参加者への支援飲料、食品など 6、目標金額：300万円 7、開催までの日程 9/24CW ボランティア説明会 8、開催後の日程 10/13(日) CW打ち上げ（参加10人位） 10/20 県北事務所CW打ち上げ（20人）
--	---

C. 【災害救援・復興支援活動】

（1）救援・復興支援事業（災害救援事業）

①台風15号水害救援活動

9月の**台風15号（千葉）**、10月の**台風19号**での**栃木県内の救援活動**を行った。台風15号では調査派遣と県内からの救援活動の促進のため街頭募金をおこなった。現地活動を行っていた**チーム鹿沼へ20万円の活動資金の助成**をした。しかし栃木県内で水害が発生したため救援計画を中止した。

②台風19号水害救援活動

10/11に発生した**台風19号水害**について、翌日から救援活動を開始し10月13日～3月31日の5か月半（のべ118日）活動した。活動者は**職員2（のべ132日）、ボランティアリーダー6人（のべ87日）、ボランティア（のべ1684人）**であった。

本会の活動は大きく**（1）県全域への支援、（2）宇都宮市内の支援**であった。協力連携機関として、（1）は栃木県（県民協働推進室）、栃木県社協、ぽぽら、栃木市・くらら、風組関東、被災地NGO協働センター、JV OAD、全国カーシェアリング巨魁等であった。（2）の協力連携機関は、宇都宮市社協、とちぎYMCA、地元NPO、地域包括支援センター、特養いずみ苑等であった。

【栃木県全域への支援】

①**とちぎコミュニティ基金「がんばろう栃木！募金」**：とちぎコミュニティ基金内に災害救援活動を支援するため「がんばろう栃木！募金」を設置した。寄付金380万円のうち120万円を3団体に助成した。

②**物品寄付サイト「スマートサプライ」の運営**：必要な災害救援の物資を必要なだけ寄付できるオンライン物品寄付「スマートサプライ」を運営し、県社協等を通じて各地の災害ボランティアセンターに物品寄付をした。

③**情報共有会議の実施**：8回の会議を実施した（参加のべ145人）。会議の方法・進行もPPTやWEBでの広報などかなり工夫した。しかし県外からの参加も想定したものの3団体程度であり、また、社協、行政からの参加も少なかった。会議の位置づけや、県域の情報交換の意義が理解されていないこと、ボランティアが少ないことが原因であろう。

④**Facebook グループとHPの運営**：県域会議と並行して「支援者のfacebookグループ」と進行中の情報のHP

での定着を広報手段とした。WEB 導入などの着手は早かったが、情報の収集・加工の人材不足で外部に支援を求められず、本会職員が独自に実施せざるをえなかった。人材域性が県域プログラム全体の課題である。

⑤**各被災地の NPO・企業・社協等とのネットワーク形成**：被害が広域であるため、那須烏山、栃木、佐野、鹿沼の社協の災害ボランティアセンターを中心に、地元 NPO や中間支援団体のネットワークの形成支援をした。

A：ネットワークの形成：県の情報共有会議の主宰、情報提供の訪問・調整 47 回

B：「家の補修講習会」：6 回実施。（栃木 1、佐野 1、宇都宮 4 回）、

C：「復興寺子屋」の実施：1 回（栃木）。「被災後の暮らしと住宅ミニ講習会」1 回（栃木）。「足湯ボランティア」：14 回（宇都宮 4、栃木 10）。本会の職員とボランティアが定期的に実施した。

D：「DIY センター」の実施：独自に助成金を獲得し、栃木市、宇都宮市に「DIY 復旧センター」を設立した。軽トラ、家の復旧工具類の貸し出しをおこなった。

E：被災地カーシェアリング：全国カーシェアリング協会の支援で、栃木市「くらら」に拠点を設け県内全域に車両を貸し出した。栃木市を中心に 2 月末までに 25 件の利用があった。

④**緊急支援活動(宇都宮市千波・東鳩田・今泉地区)**：宇都宮市中心部の田川流域の両岸地区で炊き出しを実施。「炊き出しセンター」を設立して需給調整をした。

【宇都宮市内への支援】

①**「うつのみや暮らし復興支援センター」の運営**：11 月末までの「炊き出しセンター」終了後、これまで宇都宮市内で活動してきた NPO やボランティアを総合して「うつのみや暮らし復興支援センター」を設立。**特別養護老人ホームいずみ苑内**に拠点を移し 12 月からニーズの掘り起し、相談会、子供食堂/地域食堂を実施した。

A：日本財団 DIY 支援センター：日本財団の助成で DIY（自力での家の修繕）を行いたい人のための機材や軽トラックなどの貸し出しを行った。職員 3 人を配置して

B：イベント：3 回（1/5 お披露目もちつき、1/26 ローラー調査、2/24 ローラー調査・水害アーカイブ）

C：相談会の開催：「住宅相談会」4 回、「法律相談会」2 回

D：子ども食堂/地域食堂：9 回。毎週金曜日に実施。子どもたちは増えず、高齢者が数名参加した。この子供/地域食堂は当初地域の店舗再開のため支援として委託を構想したが、場所等の関係でオーナーとの折衝が上手くいかず、自力での開催とした。

②**避難行動・避難者調査、「水害アーカイブ」の実施**：社会調査の専門家の協力で「宇都宮の水害の記録と調査」を行った。自治会の協力を得て「避難行動、復興感、被害額等」などの内容アンケートを 1200 世帯に配布した。34%の回収率であった。また、水害時の写真持ち寄りと聞き取りのイベント「水害アーカイブ」を行った。調査報告は 5 月末に公表される。

【活動の成果と課題】

●**県域と地元（市域）の両方の活動**を行った。全体として**ボランティアが圧倒的に不足**したことが、災害ボランティアセンターや自治体の活動が創発せず「**できることを、やれる範囲で**」と**消極的な姿勢**にしてしまった。社協 VC の情報提供レベルの改善のため、本会 HP 上で情報まとめを試みたが、ボランティア希望者を誘導できなかった。

●**県域の災害救援活動を進めるために三者連携**を試みた。情報共有（支援プログラム、課題、成果）と情報活用が重要であるが、県域の調整を行う**人材が育っていないため迅速な情報提供態勢が作れなかった**。組織内、組織間の連携が課題である。

●**宇都宮市内**では社協、YMCA、NPO、老人ホーム等と**多様な資源のネットワーク**があったが、市社協(市)、市 NPO 支援センターとも**連携不足**で活動がバラバラだった。災害救援の経験不足と外部ボランティアが来ないことが、ニーズ調査、支援プログラム開発、資金にも大きく影響した。

一方で「炊き出しセンター」は、災害V C一辺倒の活動にあって、泥だし以外の活動となった。また「**床下、壁**」等の技術系ボランティアの活躍があった。さらに法律相談会も好評であったが専門家の協力はあまりなく課題である。炊き出しセンター以後、「うつのみや暮らし復興支援センター」を設立、拠点を設けてニーズ掘り起しと対応を進めたことで、埋もれた被災者の声に対応ができた。

●**栃木県内**では、D I Yセンター（2 か所）や災害時カーシェアリングなど外部団体の協力による活動促進ができた。栃木市ではフードバンク宇都宮のサテライトとして「被災地フードバンク」が活動を展開した。

10/13(日)災害対応：寄付 WEB サイト作り ①「がんばろう栃木！募金サイト」、②「水害にあったときにサイト」、災害どうするか会議①（矢・徳・小・柴田、山口、塩澤、荒井、米山、藤久保） 10/14(月)災害「スマートサプライ：物品寄付サイト」導入、災害どうするか会議②（参加14人） 10/15(火)災害調査：那須烏山V C訪問 10/16(水)県災害情報共有会議①(県庁・20人) 10/19(金)市災害会議（徳・矢・大・塩澤、荒井、山口、山本、八木・市社協） 10/23(水)県・災害情報共有会議②（土崎、大木本、矢野他20人） 10/24(木)災害V ネット内会議（徳・矢・大、伊東・曾根・石江V） 10/25(金)風組関東来所(水害後の講習会、カーシェアリング、DIY センター等) 10/26(土)災害街頭募金(AM2人、PM6人～8人)、市の災害会議（矢野・塩澤・荒井・小澤・山口・八木/社協） 10/27(日)災害街頭募金 10/28(月)研修：災害時の中間支援団体の12の役割(矢野、宮坂) 10/29(火)県庁で打合せ（松本・小林、矢野・土崎） 10/30(水)栃木市吹上公民館・災害情報共有会議③（20人） 11/1(金)県社協でコアメンバー会議（県社協/阿久津事務局長・齋藤、県/松本・小林・室井、矢野、町田・三橋/ばばら）、災害 WEB 仮サイト（内容：炊き出しセンター、今日の災害VC） 11/2(土)宇都宮情報交換会(塩澤・荒井、八木、山口、宮本、渡辺、徳山・小澤・矢野) 11/4(月)千波地区・水野・米山打ち合わせ、スマートサプライ打合せ、宇都宮情報共有会議(矢野、塩澤、山口、八木、J C、福田ち、渡辺、鈴木自治会長) 11/17(日)風組小林来所（日本財団D I Yセンター助成金の協議）、家の適切な補修・講習会(栃木/7人)、家の適切な補修・講習会(宇都宮/5人) 11/18(月)佐野社協、佐野駅南ボラセン訪問 11/22(金)栃木市・くららで頼政他4人インタビュー(中村、矢野、頼政、立部、柳下、毎日、作用町)、県情報共有会議③(20人+頼政一行)、災害：まちびあで会議（塩沢、安藤、矢野、山口、渡辺、福田） 11/23(土)佐野社協(矢野・立部、熊倉)⇒日光軒(矢野、立部、他4人) 11/24(日)被災地案内（カーシェアリング協会・吉澤さん） 11/25(月)災害：立部企画「応急処置対応ミニ講座（建築士、行政書士、住民3人） 11/26(火)来所対応（JPF 柴田+JVOAD 成田）、被災地・サロン往復 11/27(水)災害：復興寺子屋の企画調整、災害：DIY センター等調整 11/28(木)DIY センター助成金調整（中村、立部、矢野、財団/藤重・小池） 11/29(金)災害新HPサイト作成（ワードプレス版） 12/1/災害：復興寺子屋（くららで/協働センター：村井・立部、横田、稲垣、君島・矢野、中村） 12/3(火)災害：全国情報共有会議（矢野他、茨城、宮城、長野、いわき、相模原/100人） 12/6(金)災害：「うつのみや暮らし復興支援センター」会議（矢野・塩澤他5人/まちびあで）	12/8(日)D I Yセンター打合せ(風組関東・小林、中原、矢野)、宇都宮の現場見学(いづみ苑・東塙田)、日本財団とD I Yセンター予算調整(栃木くらら・矢野・小林/風組、藤重)、F Bサテライト開所内覧会 12/16(月)栃木・長寿園の足湯訪問(木村さん他6人位)、いづみ苑・復興支援センター会議（矢野・徳山他8人位） 12/18(水)県・災害情報共有会議（ばばらで） 12/20(金)/復興支援センター会議 12/21(土)/復興支援センターパンプ・製本&届け(いづみ苑往復) 1226 来所対応（関東風組）、復興支援の法律研修（矢野：県社協） 12/29(日)住宅相談会、復興支援センター会議（矢・徳・小澤、塩澤、西大路、山口他2・小林か、米山・八木、渡辺・井野、小林・石川・小竹） 1/5(日)復興支援センター、チラシまき&もちつき&家の補修講習会(小林、7組来所) 1/10(金)災害：栃木・くららで会議（矢野、立部/神戸、中村、小平・真家/市議）、田川地域食堂&復興支援センター会議 1/12(日)災害：復興支援センター・チラシ（8人×750枚） 1/14(火)害：WEB/FB 更新、災害：錦地区民児協で復興支援センターの広報（民生委員15人・猪俣/矢） 1/17(金)田川地域食堂・センター会議（5人） 1/18(土)来所対応（カーシェア協会・吉澤） 1/19(日)復興支援センターで活動（備品管理ラベル貼り）、 1/20(月)健康の森・石原さん講演会「災害とボランティア IN 栃木」 1/24(金)田川地域食堂・会議(矢・徳、坪井) 1/26(日)災害：さがみ典礼で調査ボラ・オリエンテーション&チラシまき&炊き出し&家の補修講習会（5人+ボラ30人） 2/2(日)鳥山-栃木DIY センター訪問（風組/小林・石川、浜野・小尾/矢） 2/3(月)カーシェア協会打合せ（県庁・吉澤・中村）、栃木市社協生活困窮(井出、吉澤・小林・) 2/4(火)さのボラネットに「D I Yワゴン」営業（若田部、高橋他5人） 2/1(金)田川地域食堂・センター会議 2/13(木)災害：D I Yセンターチラシ作成 2/14(金)田川地域食堂・センター会議 2/21(金)田川地域食堂・センター会議（山口、矢野、塩澤、坪井、地域住民3人） 2/24(月)炊き出し・調査・田川水害写真集め（坪井・山口・塩澤・橋本・西大路・大橋V、小林風組5人、真岡センター20人） 2/27(木)県情報共有会議（塚本・小尾、山口・塩澤・矢野、徳山、小林風組、柴田、佐野） 2/28(金)田川地域食堂(山口・坪井・矢野・西大路・) 3/6(金)田川地域食堂・センター会議（塩澤・矢野・山口・徳山） 3/16(月)困窮者カーリース、地域カーシェア営業(県社協・津布久、矢口、カーシェア吉澤/矢)、(鹿沼社協・神山、若色、カーシェア吉澤/矢) 3/20(金祝)災害：日本財団・共同募金会助成金の決算事務 3/27(金)、復興支援センター会議 3/29(日)復興支援センター・引っ越し
---	---

③復興支援活動：まけないぞうプロジェクト・復興わかめの販売

【まけないぞう】今期も東日本大震災被災地の復興支援のために「まけないぞう」の制作・販売を行った。寄付でいただいたタオルを、被災地のお母さんたちが手縫いで「ぞう」の形にした壁掛けタオルである。これを本会

が買い取って販売し売上の25%が作り手の収入になり、生きがいやコミュニティづくり、生業の支援になる。
当期は70頭、28,000円の売上となった。ほぼ昨年同様の売り上げとなった。

【復興わかめ】東日本大震災の被災地の復興支援のため、石巻十三浜のわかめを「まけないぞう」とともに販売した。今期は65個、26,890円の売上だった。

(2) 防災出前講座（ボランティアとNPOに関する啓発普及等事業）

講師派遣の要請が2回あった。

10/27(日) 岩舟町自治会災害講座（15人）矢野、11/30(土) 栃木市岩舟町防災講座（30人）矢野

(3) 「とちぎVネット災害救援ボランティア基金」（NPOの活動資金の援助事業）

台風15号水害の寄付が100万円となり、千葉への支援を行っていたチーム鹿沼に20万円の活動支援金を支援した。台風19号水害の寄付が420万円となった。共同募金のボラサポの助成金（115万円）とともに本会の救援活動に使った。

D. 【NPO活動推進センター】

(1) NPOに関する相談・協働事業（NPOの育成事業）

① 福島県からの避難者支援「福島県復興支援員事業」、「福島県外避難への相談・交流・説明会事業」

福島県から「復興支援員設置事業」と「生活再建支援拠点事業」の2つの事業を受託した。栃木県内には福島からの避難者が推定1700人いるが、この世帯に対して復興支援員（非常勤2人）は避難者の訪問支援活動をした。全戸訪問した名簿で毎月2回、要継続支援30人を対象に実施した。また広報誌『とちぎ暮らしの手帖』を4回発行した。

生活再建支援拠点事業は避難者が来訪し相談できる窓口を開設し職員1人が兼務する形で週3日開設した。「交流会事業」は2回実施。①6月に神奈川の避難者との交流会を行い18人の参加があった。さ②10月には「お祭り風交流会」として、福島からNPOや太鼓サークルを招き、宇都宮ロマンチック村で県内NPOのイベントとともに実施したが、参加者は10人と少なかった。

【「説明・相談・交流会」と提案事業】

① 広域避難者交流バス使（栃木・神奈川）●2019年7月19・20日（金土）	
●場所/栃木県下野市コミュニティセンター友愛館、日光市スパビレッジカマヤ ●内容 (7/19) 11:00-12:30/コミュニティセンター友愛館（神奈川到着、昼食交流会） バス同乗し移動⇒13:30-15:00 日光（大谷資料館見学）⇒16:30 日光市湯元（スパビレッジカマヤ）⇒18:00-20:00 夕食・懇親会 (7/20) バスで移動⇒9:00 スパビレッジカマヤ⇒10:00～11:30 日光東照宮参拝⇒12:50～13:40 道の駅しもつけ（昼食）⇒13:50 コミュニティーセンター友愛館（栃木の参加者下車） ・栃木スタッフ3人は友愛館-大谷⇒2人、大谷-湯本1人、湯本-友愛館2人と3人が入れ替わりながら同行した	●参加者の声 ・栃木の避難者 80代男性、浪江と栃木を行き来しながら農業を再開。遊休圃場の借受などで規模も拡大し、息子が継いでいるなどの話をする人もいた。 ・同郷の人に会えると思ってワクワクしてきました。 ・いつものメンバーでなく、他県の人と話すことで盛り上がっていた。前向きな発言が多かった。 ●成果 ☐ 同じ集落の同じ組（隣組）の人がいて、近況等を話していた。 ☐ 普段の様子とは違う避難者の様子を見た。泊りがけで支援者-避難者の距離が縮まった。 ☐ 自分以外の人の動向・消息などの交換をして、気持ちは一気に故郷にな

参加者数/45 人 ◎神奈川県からの福島県避難者 20 人 ◎栃木県からの福島県出身避難者 16 人 ◎スタッフ等 9 人	っていたようだ。 □拠点間でも情報共有ができてよかった。
--	--

② 浜通りお祭り風交流会 2018/10/20(日)	
●趣旨/双葉町の「標葉せんだん太鼓」のグループを招き、避難者同士の交流会を実施する。同時にいわき市からNPOを招き「未来会議」を実施することで、県内外の避難者と地元栃木の支援者も交えた対話の集会を行う。大きな交流集会を行うことでお祭りの雰囲気の中で年に一度でも自分（たちの）のことを話せる状況を作る。 栃木県の地元NPOのイベントに相乗りして実施することで集客などの相乗効果をねらう ●日時/2019 年 10 月 20 日(日)・10:30-14:30 ●場所/宇都宮ロマンチック村 ①1 部/予定の「標葉せんだん・・・」は先方の都合で来場できず、代わりに小浜風童太鼓をいわきから招いた。会場来場者 50 人と観客となった。うち約 10 人が福島県から避難者と思われる。(午後の未来会議には不参加) ②2 部/未来会は午後から会場内の栃木県民とともに実施。テーマが「台風の時何をした？」という対話も、お互いが対等に話せる話題になった。 ●参加者数/太鼓：①50 人（概数）、②未来会議：21 人	内訳：福島県からの避難者：①（推定）10 人、②3 人 福島県以外の県からの避難者①不明、②0 人 その他の参加者：①40 人、②18 人 ●成果/ ・太鼓のイベントでは、いつもは交流会に参加していない人が、同級生ということで来所した。いわき・富岡の現状などを演奏の合間に話した。 ・未来会議では、福島県からの避難者が 3 人とすくなくだったが、子どもやNPOのボランティアなど栃木県内の新たな支援者等と話ができた ●課題/・お祭り風の交流会というコンセプトだったが避難者の来場者が少なく課題である。 ・会場内でも 1 部、2 部の場所が離れており、時間の連続性も含めて運営が難しかった。 ・福島の避難者という枠組みが分断とひがみ（差別）を生み、また「もう支援しないでもいい」という人への押し付けになっているように思う。一方で栃木県内の支援者が増えない一因となっている。

②新 SAVEJAPAN プロジェクト

希少生物保護のプロジェクトから「災害弱者の防災」にテーマを変更して**損保ジャパン日本興亜(株)**のモデル事業として実施した。本会は「**外国人の防災**」をテーマに設定し、とちぎYMCA、宇大地域デザインセンターとともに**多文化防災講座、多文化子ども食堂、コミュニティFMのラジオ放送「TABOWATA（多文化防災に関心があるんです、私）」**を平日朝 8:55～9:00 の 5 分間番組として放送した。3 月に「外国人の多文化防災避難訓練」を実施する予定だったが、コロナ自粛要請により中止した。

「要配慮者を包摂した防災・減災」2019 年度事業 実施計画書	
●事業の目的/災害弱者の防災として、入管法改正にともなう外国人の急増が予想される宇都宮市清原地区の外国人の防災を行う。「防災」を切り口として地域づくりをおこなっている「地域包括支援センターきよはら」と外国人の関係性の構築、「清原国際交流会」への登録等による日常からの外国人と住民との交流促進と居場所/出番づくりを目的とする。 ●事業実施地域/宇都宮市清原地区 ●対象＝要配慮者/外国人。特に技能実習生など急増が予想される外国人 ●事業の概要/避難所運営時などに外国人にも伝わる「やさしい日本語」の普及と地域在住の外国人の掘り起こしを行う。 ①月 1 回、福祉施設等を巡回して実施する「子ども食堂・みんな食堂キャラバン」に合わせて、「ハラル食の防災&避難所運営者(日本人)のためのやさしい日本語講習会」を実施する。また、開催の前に、開催場所周辺の外国人受入事業所(事業主)に対して地区の外国人サポーター(清原国際交流会がすでに委嘱している)とともに参加の勧誘をする。◆3 回実施：12、1、2 月、◆対象者：自治会役員、民生委員、外国人 ◆参加人数：各回 30 人、うち外国人 15 人。	②「多文化避難所」開設訓練(1 回/3 月) ◆参加数 60 人(内外国人 30 人) ③コミュニティ FM による多言語防災ラジオの試験放送(または、キャンペーン) ◆他の FM 局や自治体等と共同し、周知広報と外国人によるモニタリングを検討する。◆聴取人数：100 人程度 ●対象者/2018：清原地区人口 3 万人中、600 人が外国人である。11 月以降、介護施設への技能実習生の受け入れが本格的にはじまり、急増が予想される。(参考：YMCA 福祉会も受入先になっている) ●問題意識・背景/同地区は地域包括ケアシステムとして「0 歳～100 歳までの地域包括ケア」を掲げ、「子ども食堂・みんな食堂キャラバン」などで多世代の居場所と出番を作る活動を行っている。「地域包括ケア・第二層協議会」では自治会等につながついていない人の掘り起こしと居場所への誘導の切り口として「防災」に着目している。「つながついていない人」として 80-50 問題の当事者や外国人を想定している。(自治会加入率 54%) なお同地区では(社福)YMCA 福祉会が特養ホームと地域包括支援センターを運営しており、YMCA では多文化共生と「子どもの貧困の撃退」をテーマに地域住民を巻き込みながら自主的な活動を行っている。また、清原地区には工業団地があり、外国人労働者が多数居住する地区である。 ●当事者以外の市民の関わり方/ラジオによる広報

③NPO に対する備品・機器の貸出事業

コピー機・輪転機・紙折り機等の貸出をおこないNPOへの便宜を図った。

■貸出・利用備品：輪転印刷機(有料)、紙折り機、ビデオプロジェクター、パソコンプロジェクター

④委員の委嘱などでの運営協力

各種委員に委嘱される等で会議、研修、講座の選考等に協力した。

特に**災害ボランティア支援体制づくり検討会**は2019年1月から4回の会議・視察を行い、災害時の救援体制の構築をはかった。結果的に10月に水害となり、**プレで災害時の支援体制を稼働**させた。2020年3月に「栃木県災害ボランティア活動連絡会議」が発足した。

①栃木県社会福祉協議会・ボランティア活動振興センター委員（矢野）②宇都宮市社協・生活困窮者自立相談支援事業/運営委員会（矢野）
③栃木県県民文化課・災害時ボランティア支援体制づくり検討会（矢野）

(2) ボランティアの啓発・普及事業（ボランティアとNPOに関する啓発普及等事業）

①『とちぎVネット・隔月刊ボランティア情報』『フードバンク通信』『県北通信』の発行

『隔月刊ボランティア情報』を**600部、年6回発行**した。WEBでの情報提供も実施し紙媒体と連動するようにした。また**2019年1月から『フードバンク通信』**を発行した。「今月のSOS」記事を4ページだけ別刷りにしたももだが、好評であり、当期末の第6号からは紙面も大幅に変更し、編集もFBうつのみや内部で行えるようにした。

さらに**2020年1月からは『県北Vネット通信』**を創刊。県北のフードバンクのSOS事例を掲載した4ページ通信を発刊した。

職員、学生ラジオパーソナリティ、新聞切抜き隊、ボランティアによる取材、執筆を行い、担当職員による印刷とボランティア2～3人による製本・発送で成り立っている。



月	号	特集記事	月	号	特集記事
3-4月	235	報告/県北学習ルーム/学生インターン受入NPO募集	9-10月	235	報告/県北：山の手子ども食堂/チャリティウォーク/学生インターン交流会/清原円卓・チャリコン/台風15号水害支援
5-6月	236	報告/子ども食堂キャラバン/子どもキャンプ/サンサンPJ総会	11-12月	244	報告/チャリティウォーク/台風19号水害・床下ボラ・足湯ボラ
7-8月	237	報告/子どもキャンプ/子どもSUNSU N：制服リサイクルバンク/定期円卓会議	1-2月	245	報告/暮らし復興支援センター/子ども冬遊び/FB炊き出し/水害DIY/とちコミ助成金

②「みんな崖っぷちラジオ」の放送

ラジオ局の運営を、コミュニティFM「ミヤラジ」の開局と同時に2017年3月から開始した。学生パーソナリティがゲストに話を聞き、職員等がコメントするスタイルである。取材・放送・ブログ作成までを学生が臨時職員（アルバイト）として担当した。今期は学生3人（笠原綾子、小林芽依、篠原紬）となり前年のラジオ学生も**ラジオ学生会議**などでサポートに入る体制にした。年末に「**学生ラジオパーソナリティ募集説明会**」を実施し、1月からラジオ学生が交替し4人（当真省吾、小熊優佳、山本桂輔、藤倉理子）となった。学生の中には**動画Youtubeで番組の宣伝**をする者もあらわれ、3月からはより活発な運営になっている。

「半径8キロしか聞こえない」コミュニティFMという媒体では、放送による広報（ラジオ聴取）力はあまりないかもしれないが、媒体作成・媒体出演者との関係性に学生が積み重ねることで、ユーチューバーが出現したり**学生自身の成長と本会関係者の変化**が見られた。

学生がもつネットワークの活性化（活動への導入）に必要な媒体であるだろう。また「**学生のアルバイト先としてのNPO**」という観点からいくつかの出演NPOを紹介した。学生にもNPOにも有意義な出会いとなった。

また、**子どもキャンプの学生チームや、とちぎコミュニティ基金の学生インターンとの相乗効果**により、かわる**学生数が15人以上**となっている。

【番組表】

回	月日	テーマ	ゲスト/所属	コメント、学生司会
1	4/2	県内唯一 視覚障害者の福祉作業所	佐久間孝子（とちぎライトセンター）	徳山、篠原紬
2	4/9	司法ソーシャルワーク「法テラス」	鈴木彩葉（法テラス）	中野、笠原綾子
3	4/16	薬物依存：やめ続けようと思ってる仲間と共に	不動 蓮（女性ダルク）	矢野、篠原
4	4/23	CIL 栃木	斎藤康夫（自立生活センター栃木）	矢野、小林芽依
5	4/30	「地域丸ごと崖っぷち」を考えた	塚本竜也（トチギ環境未来基地）	塚本、篠原
6	5/7	老人ホーム＋子どもの居場所	山口亮二（子どもの居場所・アットホームきよはら）	徳山、笠原
7	5/14	「就職の北極星」を一緒に探す場	湯本尊（とちぎ若者サポートステーション）	中野、篠原
8	5/21	月の家のボランティア	木村信夫（「月の家」ボランティア）	矢野、笠原
9	5/28	認知症 Cafe・認知症になっても安全な街に	金澤林子（認知症と家族の会栃木県支部）	矢野、篠原
10	6/4	FB 駅東にも拠点	曾根祐弥、伊東由晃（FBうつのみやボランティア）	徳山、笠原
11	6/11	成績・試験なし！のフリースクール	稲葉裕一郎（オルタの家）	中野、小林
12	6/18	通うタイプの通信制高校	山本明子（日々輝学園・宇都宮キャンパス長）	矢野、笠原
13	6/25	宇都宮空襲	大野幹夫（栃木の戦争と空襲を語り継ぐ会）	矢野、小林
14	7/2	シングル母に「よりそう保育」	鈴木実（フレンドキッズ保育園）	徳山、篠原
15	7/9	LD 特化型「放課後デイ」＆学習塾	伊川夢起（合同会社CREW）	中野、小林
16	7/16	自由ゼミ「学生のお悩み」	笠原綾子・小林芽依・篠原紬	（土崎）
17	7/23	子ども＋一人暮らし：地域食堂	砂山早苗（地域食堂・のどかの食卓）	矢野、篠原
18	7/30	園舎がない。森の幼稚園	栗田しのぶ（森のようちえん あいうえお）	塚本、小林
19	8/6	チャリティウォークを楽しむ秘訣	佐藤綾香（元・ラジオ学生：C W56.7参加者）	徳山、笠原
20	8/13	不登校・親・家族・本人によりそう	渡辺英子（NPO法人風車 代表）	中野、篠原
21	8/20	「入口はフードバンク」崖っぷち教えます	小澤勇治（とちぎVネット職員：生活困窮者担当）	矢野、小林
22	8/27	体験の貧困/子どもキャンプから見えたもの	県北子ども食堂・木村	矢野、篠原
23	9/3	「転勤族はボランティアしよう！」	松葉友恵（FB宇都宮・ボランティア）	徳山、篠原
24	9/10	昼カウンセラー、夜LD学習塾	大出勇（ブラネットキッズ）	中野、笠原
25	9/17	LGBT「カミングアウト」その後	みずのん（元ラジオ学生）	矢野、篠原、笠原
26	9/24	外国人の防災：多文化防災	坂本文子（宇大・地域デザインセンター）	矢野、笠原
27	10/1	「FBのボランティアが支えた」	小野塚暁子（フードバンク宇都宮・ボランティア）	徳山、小林
28	10/8	「独りにならない社会」	土橋優平（NPO法人キーデザイン）	中野、笠原
29	10/15	インターン学生に聞く①えんがお	曾田遥（白鷗大4年・たかはら未来基金インターン）	矢野、笠原
30	10/22	インターンシップから知るNPO	大木本舞（職員・とちぎVネット基金/インターン担当）	矢野、小林
31	10/29	NPOが残したもの	小林綾香、岩井俊宗	塚本、篠原
32	11/5	FBクラウドファンディング実施中	曾根祐弥、伊東由晃（FBうつのみやボランティア）	徳山、小林
33	11/12	ほんわかテラス	濱口博（ほんわかテラス）	中野、笠原
34	11/19	インターン学生に聞く②アットホーム清原	稲川夕梨＋大山（宇大3年）	矢野、笠原
35	11/26	インターン学生に聞く③サシバの里	桂野葵（宇大3年・たかはら未来基金インターン）	矢野、小林
36	12/3	会いに行く診療・地域医療	高橋昭彦（ひばりクリニック）	徳山、小林
37	12/10	水害ボランティア「技術系床下・壁ボラ」	米山里奈（チーム米山）	矢野、笠原
38	12/17	「今年も、サンタ de ラン！」	塩澤達俊（とちぎYMCA）	矢野、篠原
39	12/24	「手仕事」小さな社会参加	大藤園子（若年者支援機構・てしごとや）	中野、小林
40	1/7	新春：とちぎVネット代表に聞く	矢野正広（とちぎVネット理事長）	矢野/小林、當真昇吾
41	1/14	サバイバーに聞く①不登校からの脱皮！	野澤こなつ（ひよこの家・元利用者）	中野/小林、大塚菜南
42	1/21	サバイバーに聞く②養護施設の子	吉田さん（花の家ボランティア）	矢野/篠原、藤倉理子
43	1/28	薬物依存家族の会	安高真弓（宇大地域デザイン科学部・助教）	矢野/篠原、小熊優佳
44	2/4	FBの困窮者支援	小澤勇治（職員：生活困窮担当）	徳山/小林/曾根、山本
45	2/11	ひこもりサポーターの仕事	五十畑幸子（佐野市引きこもりサポーター）	中野、當真
46	2/18	障害者の「地域で暮らしたい」を実現する	永田元治（自立生活センター栃木）	矢野/小林、小熊
47	2/25	「オレンジサロン石蔵カフェ」	金澤林子（認知症と家族の会栃木県支部）	矢野/篠原、大塚
48	3/3	FB「賞味期限のものはどうなる」	田代美希（NPO法人ひまわり）	徳山、小熊
49	3/10	出資者＝経営者＝労働者：協同労働	小白井加代子（ワーカーズコープ）	中野、藤倉
50	3/17	小山/制服リサイクルバンク発足	望月晨子（城南地区学校生活応援リサイクルバンク）	矢野、山本桂輔
51	3/24	病児保育が必要な理由	山口真由美（NPO法人リスマイリー）	矢野、當真
52	3/31	NPOバイト・学生のブラックバイト	中村明彦（宇大3年/Vネット・Vレンジャー隊員）	小林、藤倉

(3) 震災がつなぐ全国ネットワークへの加盟・運営（ボランティアとNPOに関する啓発普及等事業）

災害時の全国的なボランティアネットワークを構築するため「震災がつなぐ全国ネットワーク（略称＝震つな）」へ加盟し、役職員を同ネットワークの顧問・理事として業務にあたらせた。また3年前から全国災害ボランティア支援連絡会（JVOD）にも加盟した。

(4) ボランティア推進団体会議（民ボラ）の運営（ボランティアとNPOに関する事業）

全国の市民活動やボランティア活動の中間支援団体が一堂に会し、市民活動の推進方策、中間支援団体自身の経営について研鑽し話し合う、「第37回ボランティア推進団体会議（民ボラ）」を7月6・7日に千葉で実施した。企画や準備のために本会職員1人を派遣し、年度末までに3回の会議に参加した。当期(2020)は7月に大阪の予定だが、コロナの影響で中止した。

E. 【とちぎコミュニティ基金】

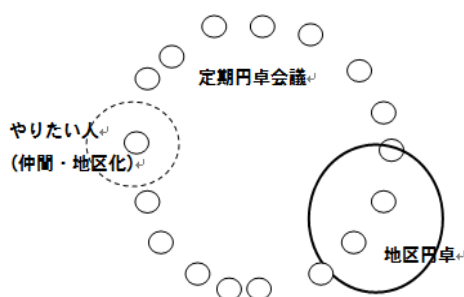
総評：3年前から職員を増員して「とちぎコミュニティ基金」の運営強化をした。2019年度は「台風19号・がんばろう栃木！募金」を実施し、380万円の寄付があり、3団体に120万円の助成を行った。また3期続けている「子どもの貧困撃退円卓会議＝子どもSUNSUNプロジェクト」は、台風19号の救援活動の影響と新型コロナの影響で中止・延期がつづいて寄付集めと事業立ち上げが本格化しなかった。子どもSUNSUNプロジェクトは853万円の寄付（うち、サンタdeラン&ウォーク450万円）があった。冠基金「たかはら子ども未来基金」は学生インターン助成として第3回目の配分を行った。学生・NPOとの報告会と講座を実施した。学生が編集した通信『たかはら日和』を2回発行した。

「定期円卓会議」を年4回開催します。仲間を増やそう！実現しよう！

- 「支援者/組織」と「やりたい人/団体」の出会い・情報・アイデア・企ての場
- 地域のなかで「核となるスペース」を定期円卓会議で出す。「不足していること」をテーブルに出す⇒やり方を皆で考える。

第2土曜日 9:30～ 6/17、8/11、11/10、2/9 座長：廣瀬隆人さん（元宇大教授）

次回会場は：8/11(土)は宇都宮中央生涯学習センター



(1) メイン基金の運営（NPOの活動資金の援助事業）

① 子どもSUNSUNプロジェクト＝子どもの貧困撃退円卓会議(宇都宮)

【経緯と今期の報告】

2017年3月、地域の課題を解決するプロジェクトとして「子どもの貧困」をテーマに円卓会議を開催し、2017年10月に調査報告を、2018年3月に実施計画を発表した。

(2018年度)

目標数の設定と資源集め事業の立ち上げを行った。宇都宮市内の各中学校区にこども食堂、無料学習支援、居場所、フードバンクの支援拠点セットをつくることを目標とした。そのために宇都宮の概ね中学校区ごとに地区円卓会議を開催していく計画とした。また、全体の課題を解決する場として定期円卓会議を年4回開催した。9月には清原地区子どもの貧困撃退・円卓会議が発足し、とちぎYMCAを中心に、地区内の社会福祉施設、自治会、民生委員児童委員等とともに地域ぐるみの活動になった。

また2018年度は市外への波及として大田原子どもの貧困撃退円卓会議を開催し、調査やファンレイジング講座を

開催した。

(2019 年度)

総会を 5 月 26 日に「地域養護について」湯浅誠さんを招き実施した。第 2 部からは星の家と共催でシンポジウムを開催した。また助成金額を積算するため助成金申請書/ファンドレイジング計画書の公募を行った。

●定期円卓会議：8 月 18 日に「子ども食堂をもっと増やすには」のテーマでワークショップを実施し 20 人が参加した。定期円卓は 3 回の予定だったが水害、コロナで実施できなかった。

●地区円卓会議：清原地区円卓会議では子ども食堂キャラバンを開始し、9 月には「子ども食堂チャリティコンサート」を地区で実施し 100 万円の寄付を集めている。宝木地区でも宝木こども未来応援隊が医療生協、村井クリニック、老人ホームの連携で発足し、元デーサービス施設で子ども食堂が定期的に開催されるようになった。

●ファンドレイジング：12 月のサンタ de ラン&ウォークや通年の子ども SUNSUN メイト(月額寄付)で総額 8,462,274 円の寄付を集めた。このうち 11 団体に 6,420,955 円を助成した。台風 19 号の被災による県内の救援活動の最中でのサンタ de ランとなったが、昨年並みの寄付額(458 万円)となり特にステージ参加者が充実した。イベントは盛況であった。

寄付の手法もイベント、クレジットカード(月額定期寄付)、子ども SUNSUN プロジェクト発起人(大口寄付)と、企業向けの寄付つき商品があるが、発起人寄付と寄付月商品は拡大できなかった。

【成果と課題】

A：子ども食堂、無料学習支援等の設立

子ども食堂、無料学習支援とも増加はなかった。「子ども食堂が」増えない理由を定期円卓会議で検討したが、水害・コロナ等が続き方策の実施に至らなかった。子ども食堂は活動開始に躊躇していて、一緒に設立までのハードルを乗り越えていくようなサポートが必要である。無料学習支援は、ボランティアの育成など戦略的な人材発掘・育成が必要である。原因は、サンサン PJ 全体として対応ができず、単独の団体(担当者)が孤立したまま各々団体の事業を進めたことによる情報共有の不足が原因である。

一方で、制服リサイクルバンクは、市内での拡大はなかったが小山での取り組みが始まった。県内 3 例目である。居場所/もうひとつの家は、2018 年に宇都宮市が 2 か所を清原地区に設置した。この事業は県単独事業(市単独)であったが、来期は国からの補助金が入り 800 万円から 1300 万円の補助金になった。国が居場所事業に国費を使い社会福祉制度として認めてきたといえる成果である。

一方で訪問型病児保育は、定期円卓会議で取り上げたが、災害とコロナで 2 回延期となった。利用料に補助金がないため低所得の一人親が利用できないことが課題である。

また、フードバンクは食品受贈量の拡大のために倉庫・車両などの設備が必要だが、10 月に宇都宮駅東地区に倉庫を確保、1 月の被災地フードバンク開設を機に車両も確保することができた。

B：寄付金の募集と配分

寄付は主に寄付イベント、個人寄付、企業寄付の 3 つである。個人寄付＝クレジットカードによる月額定額寄付(子ども SUNSUN メイト)は年間 100 万円、寄付イベント(サンタ de ラン)で 400 万円を集めた。

寄付の募集の前提となる数字を出すために助成金申請書を提出してもらい目標としたが、助成金審査会も災害・コロナで中断し配分金額が確定していない。また、大口寄付(発起人寄付)も、マンスリーサポーター(SUNSUN メイト)の拡大もなかった。一種のブームが終わり、広報・営業戦略の立て直しが必要である。寄付つき商品も拡大がなく、とちぎ TV の寄付広告も終了した。

C：催事・講座・会議の実施日・回数

■総会 5/26：子どもサンサンP J 総会(150 人) (基調講演 湯浅誠さん「みんなで何とかする、地域養護」+シンポジウム) ■定期円卓会議（1 回） 8/18 子ども食堂・ワークショップ（25 人参加） ■地区円卓会議（清原地区、宝木地区） 5/18(土)清原ポピーまつり「子ども食堂・みんなの食堂キャラバン」 9/16（月）清原円卓会議チャリティコンサート	■広報誌（1 回発行） 「サンサンP J+「ンタ通信」発行 1 回（4/7：第 2 号発行） ■月例会（6 回） 4/11 月例会（矢野、徳山、広瀬、塩澤、山口、宮本、星の家/木村信・福田、並木） 6/21 月例会（山口、大久保、宮本、徳山、矢野） 7/18 月例会（矢野、宮本、徳山） 10/25 月例会（塩澤、山口、荻津、矢野） 12/27 月例会（矢・徳、塩澤、荻津、山口、中野、並木） 1/23 月例会（矢野、塩澤、荻津、山口、宮本） ■寄付つき商品、寄付付き自販機（6 か所） やきとり竜鳳、藤井産業、済生会宇都宮病院）
--	--

②サンタ de ラン&ウォークの実施)

12/22 サンタ de ラン実施（300 人参加）4, 581, 830 円

■春のボランティア&実行委員 説明会（1 回）5/17（30 人）
当日ボランティア説明会（2 回）12/4(15 人)、12/7(15 人）
ポスター張り（2 回）11/10(8 人)、11/16(5 人）

■サンタ・事前イベント（15 回）
12/1（宇都宮）、12/8（小山）、12/14（那須塩原）
全体企画/映画上映会「隣る人」 合計 65 人 55,600 円
10/13 リスマイリー企画「泊まり de 飲み会」台風で中止に
10/27 だいじょうぶ企画「ピクニック」40 人 52,500 円
11/23 リスマイリー&星の家企画「お寺 de 合コン」20 人 40,000 円
11/2 参加者企画「ひろやくんとわたるちゃん Live」不明
12/1 とちぎ YMCA 企画「サンタ de 街頭募金」不明
12/7~20 リスマイリー企画「チャリティバザー」不明
12/7,8 V&未来基地企画「サンタ de 街頭募金」52,093 円
12/7 県北 V ネット企画「サンタ de 街頭募金」50,247 円
12/11 参加者企画「チャリティ飲み会 in 鹿沼」不明
12/15 トチギ環境未来基地「森ノキッチン」不明
12/20 県北 V ネット企画「チャリティボーリング」不明

■実行委員会（16 回）
3/22(8 人)、4/18(9 人)、6/12(21 人)、7/10(23 人)、8/7(15 人)、9/11(12 人)、10/9(10 人)、10/23(17 人)、11/5(16 人)、11/13(14 人)、11/27(22 人)、12/11(18 人)、1/15(16 人)、2/27(12 人)

（2）冠基金の運営（NPO の育成事業）

①冠基金「花王ハートポケット倶楽部・地域助成」

花王㈱の同助成金を活用しNPOへ助成金を贈る地域助成を行なった。第 13 回目の助成金配分である。審査は 12 月 5 日の第 1 次審査で 6 団体を選考し、それらを、花王ハートポケット倶楽部の社員 1700 人の投票により 3 団体にしぼる方法とした。メイン助成は 20 万円が 1 団体、10 万円が 2 団体、サブ助成各団体 3 万円の総額 49 万円である。応募は台風 19 号災害の影響もあり少なく、9 団体だった。3 月 14 日に贈呈式を実施する予定だったが、コロナ感染のため中止。

栃木県内の NPO・市民活動団体を応援

—2019 年度 花王・ハートポケット倶楽部地域助成（栃木地区）— 【とちぎコミュニティファンド・冠ファンド助成】

花王㈱では社員有志による社会貢献寄付プログラム「ハートポケット倶楽部」を組織し、全国・地域の NPO を社員と企業で応援しています。今年は、栃木事業場のハートポケット倶楽部が、栃木県全域の全ての分野で活動する NPO や市民活動団体から、「心温まる活動」「地域で必要とされる活動」を対象に助成します。

1、助成内容 ・助成総額：49 万円 ・助成団体数：6 団体 ・助成金額/メイン助成：20 万円（1 団体）10 万円（2 団体） サブ助成：3 万円（3 団体） ・1 次選考（書類審査）を通過した団体のうち 2 次選考にもれた 3 団体にサブ助成として各 3 万円 2、選考までの流れ ◎応募受付開始：10 月 1 日 ◎応募用紙提出締切：11 月 20 日必着 ◎一次選考：12 月中旬。とちぎコミュニティ基金運営委員会により 6 団体を選出。 ◎二次選考（投票選考）：1 月中旬。花王ハートポケット倶楽部に参加している社員に応募申請書を公開し、投票で採択団体を決定します。 ◎贈呈式・レセプション：3 月 2 日。1 次審査通過団体においていただき、贈呈式・レセプションを行います。 ◎活動報告：助成金を使った様子を所定の書式で簡潔ご報告ください。 3、応募団体の条件 ①営利を目的とせず、公益的・社会的な活動をすでに 1 年以上継続的に行っている栃木県内の NPO・市民活動団体・ボランティア団体（法人格の有無は問わない） ②昨年度「メイン助成」を受けた団体でないこと（1 年お休みのあとの応募は可）。 ※とちぎコミュニティ基金の「NPO データバンク（CANPAN）」への登録は必須ではありません。	4、応募・問い合わせ先 とちぎボランティアネットワーク「花王・ハートポケット倶楽部係」 栃木県宇都宮市埴田 2-5-1 電話 028-622-0021 FAX028-623-6036 tochicommi.org ■選考結果 ◎メイン助成 壬生町おもちゃ博物館おもちゃ病院(20万円) 宇都宮共和大学子育て支援研究センター内 Tiny (10万円) NPO法人セブンスターサリィ (10万円) ◎サブ助成（各3万円） 一般社団法人子ども食堂ノエル もおか環境パートナーシップ会議 NPO 法人ナルク栃木「とちの実会」 ■年間日程 8/25(日)花王助成金の説明会（こらぼ一れもおか主催） 9/27(金) 花王助成の説明会（まちびあ主催） 12/5(木) 花王助成審査会 3/14(土) 花王ハートポケット倶楽部地域助成贈呈式+たかはら子ども未来基金インターン報告会」だったが中止になった。
--	---

②冠基金「たかはら子ども未来基金」

2017 年から矢板市の篤志家からの寄付で「たかはら子ども未来基金」を創設し、今年は特に学生インターン部門を中心に実施した。「境遇や生育環境に関わらず、全ての子どもや若者が等しく人生を拓く機会を得られること」が目的である。子どもの貧困に関するボランティア・NPO の活動に対し、栃木県北地域を中心に助成を行った（2017 年から 10 年間継続して寄付を受け、助成を行う予定）。

学生インターン部門には 6 団体の応募があり 4 団体に助成した。学生は 8 人の申込があり 5 人に助成した。なお、今年は 1 団体（とちぎ YMCA）が特別助成枠で 2 人を受け入れた。**助成部門**の応募は継続助成のみ 2 団体の応募があり審査中。

とちぎコミュニティ基金・冠基金【たかはら子ども未来基金】 （申込締切） ①助成部門：2020/3/31 ②学生インターン部門：団体 2019/5/31 学生 2018/7/10	
1. たかはら子ども未来基金とは？ たかはら子ども未来基金とは、子どもや若者の未来を応援する目的で、平成 29 年に矢板市在住の夫妻が設立した基金です。現在、家庭の経済的困窮が要因となり、子どもや若者の「未来への可能性」を奪う様々な不利が生じています。境遇や生育環境に関わらず、全ての子どもや若者が等しく人生を拓く機会を得られるように「たかはら子ども未来基金」が創設され、特に栃木県北地域の子どもの未来を支えていくこと ます。 ②助成部門は、新規の応募は受け付けず、2 年目以降の継続のみとします。（要項は別紙です） 3. 対象となる団体 ① 子どもの食事と居場所を支える活動をする団体 例)こども食堂の運営支援、新規設立支援。 ② 子どもの学習を支える活動をする団体 例)無料学習支援、学びなおしの支援。学用品の物品支援など。 ③ 子どもの体験を支える活動をする団体 例)自然体験や文化体験などの子どもの心の成長を支える活動を支援。 ④ 若者の社会参加や就労、生活を支える活動をする団体 例)若者の居場所づくりや就労訓練プログラムを支える活動を支援。困窮学生支援。 ⑤ その他、子どもや若者の未来をつくる活動を支える団体 例)環境分野の団体で、子どもへの自然体験活動を行っている団体、国際協力分野の団体だが、若者の国際交流活動を行っている団体など。 (1)助成する団体の条件 ・営利を目的とせず、公益的・社会的な活動をすでに 1 年以上継続的に行っている栃木県内の NPO・市民活動団体・ボランティア団体(法人格の有無は問わない) ・県南をのぞく、栃木県内全域を対象とし、特に県北の活動団体を優先して助成します。 ・対象となる市町：矢板市、塩谷町、高根沢町、さくら市、大田原市、那須塩原市、那須町、那珂川町、那須烏山市	2. 2019 年度の助成事業 ①学生インターン助成は、若者と NPO や市民活動団体が共に成長できる仕組みを作ることを目的としています。学生が一定期間、NPO や市民活動団体にスタッフ見習いとして研修すること（＝インターンシップ）の活動を応援します。学生に一定期間、奨励金を渡し活動することによって、若者の積極的な参加を促し、若者世代の継続的な応援者を増やすことを目標とします。学生の中には、奨学金の事情やアルバイトのために、ボランティア活動ができない学生がおり、そのような学生を応援する目的でこの部門が設立されました。また、今年度は学生を受け入れることで、日常業務のサポートだけでなく、特に既存の事業の発展や新規の事業の立ち上げを行える団体に助成し《助成額について》 ・助成額：学生に 100,000 円をお渡しし、団体にも 100,000 円をお渡しします。 ＊未来の担い手であるインターンシップの学生を育成していただく目的で、金額が変わりました。 ・助成総額: 830,000 円(インターン生 4 人分と団体 4 団体分) ＊1 団体に 2 人のインターン生を受け入れていただくこともあります。 《審査と、団体と学生のマッチングの方法について》 今年度は、最大でインターン生 4 人分と団体 4 団体分に対して助成します。 ①第一次審査（団体の審査）：審査委員会で審査を行い、選考基準に満たしている団体には、4～6 団体程度までに、結果通知をお送りします。（6 月上旬） ②第二次審査（学生の審査）：審査委員会で審査を行い、選考基準に満たしている学生はマッチングに進みます。 ③下記の手順で、団体と学生のマッチングを行います。（7 月 10 日以降、学生申込の締切後） A 団体にすでに関わっている学生がおり、このインターンシップの仕組みを活用したい場合は、そのマッチングを優先します。（学生にも申込みフォームから申込みいただきます） B 団体に候補となる学生がおらず、また、学生が申込み時点で、その団体を希望している場合、このマッチングは成立となります。 C 団体に候補となる学生がおらず、学生の希望がなかった場合、今回はマッチング不成立となります。

宇都宮市、上三川町、壬生町、日光市、鹿沼市、芳賀町、市貝町、益子町、茂木町、真岡市 (該当する地域に事務所がある団体か、地域で活動している団体に助成する) (2)選考基準 前出の条件を満たす団体の中から、以下の選考基準で選考いたします。 1. 子どもや若者の未来の可能性を本気で応援したい団体 2. 地域で必要とされ、一般の人に開かれて参加できる活動であること 3. 助成を受けることで、活動の基盤を強化できる団体であること 4. 学生のインターンシップを受け入れる体制が整っている団体であること 5. インターンシップの学生と一緒に、既存の事業の発展や新規の事業の立ち上げを行える団体であること 4. 学生インターン部門の内容 ・学生のインターンシップ(研修)の受入を希望する団体と、NPO 活動に関心の高い学生をマッチングします。 (内容) ・6ヶ月間 24日ほど(1ヶ月4日程度×6ヶ月)、団体の必要な業務や、ボランティア活動を行っていただきます。 ・学生インターン生は、1 団体につき、1 人または2 人までを助成します。 ・団体からの推薦者となる学生がいる場合は、その学生を優先します。	④第三次審査(マッチング): マッチングを行った上で、助成限度である4人の学生以上がマッチング成立した場合、審査委員会を通して審査を行い、最大4人の学生、4団体に最終結果通知をお送りします。 *注意事項 ①の第一次審査の時点で、4団体以上が選考基準に満たしている場合、②と③のマッチングまでを行い、④の最終結果通知の時点で、落選となることもあります。あらかじめご了承ください。 ■選考結果 ◎学生インターン部門 ・一般社団法人 えんがお: 會田未来さん(白鷗大学) ・NPO 法人オオタカ保護基金サシバの里自然学校: 桂野葵さん(宇都宮大学) ・たかねざわぼかぼか食堂: 岡浜陸さん(白鷗大学) ・子どもの居場所アットホームきよはら: 稲川夕梨さん(宇都宮大学) ・子どもの居場所アットホームきよはら: 大山春香さん(宇都宮大学) ◎助成部門(2年目以上の継続助成のみ) ・審査中
---	---

③冠基金「とちぎゆめ基金」

今年度は募集要項の内容を変えて募集したが、台風19号災害のための募金を急遽立ち上げたことなどのため、集まらなかった。

2020とちぎゆめ基金「持続可能な地域づくり・SDG s 助成」 締切 12/25	
1、主旨 この助成は、持続可能な地域社会を作るために、複数の主体が参加して協働する地域課題解決の調査や実施に対して助成を行います。(1年目は調査助成のみ) 国連が決めた「持続可能な社会づくりのための17のゴール(SDG s)」達成は、2030年。複数の目標を地域のみんなで取り組む協働事業の設計(調査)と実施(継続するための仕掛けづくり)のスタートを支援します。みんなで10年取り組みれば、地域の課題が解決していく。みなさんの取り組みが他地域へ 3、伴走支援 必要に応じてとちぎコミュニティ基金が伴走支援を行います。 4、助成期間2020年4月1日～2021年3月31日 5、助成金額・件数 助成総額50万円 (1)調査助成: 1事業10～15万円×3団体程度 (2)継続するための仕掛けづくり助成(2年目以降): 10～20万円×2団体程度 ※今年度は(1)調査助成のみ募集 6、報告書・成果物 調査助成の場合には、報告書等の成果物、イベント等の開催実績報告書が必要です。 福祉施設、学校、住民組織等(※営利・非営利、法人格の有無問わず) (2)応募方法: ①応募申請書(所定の様式)に必要事項を記入の上、郵送かメー	の波及し、持続可能な社会へ変わるきっかけとなることを期待しています。 2、対象となる事業・条件 ・3～5団体以上の協働での応募であること。 ・持続可能な地域社会づくりの企てで、調査、人材育成、「継続する仕組み作り」に取組む内容であること。 7、応募について (1)応募資格: 栃木県内で対象事業を行うボランティアグループ、NPO、社会ルでお送りください。 (2)応募要項・応募申請書はホームページからダウンロード (3)応募締切: 2019年12月25日(水) (4)選考方法と選考基準 ①とちぎゆめ基金・運営委員等からなる選考委員会で決定します。 ②複数団体による応募を優先します。 ③地域・地方の複数の課題について、多様な主体が協働して課題解決するとともに、地域社会(全体)の持続可能性(SDG s)への促しを進めるもの。 ④広義の福祉を中心とした応募を優先します。 ⑤波及効果があるもの、他地域、後続団体が真似していけるもの。 ⑥選考結果の発表: 2020年1月末、文書で連絡。

④「がんばろう栃木! 募金」 台風19号復興ボランティア支援

10月12日の台風19号、その後の大雨災害による被災地の災害支援のための寄付を募り、3,785,458円が集まった。このあ集まった寄付を財源にして、がんばろう栃木! 募金助成を行い、のべ4団体に助成した。

とちぎコミュニティ基金・がんばろう栃木！募金

第1回締切 11/15-11/30 第2回締切

1. 目的 2019年10月に発生した台風19号による被災地で災害支援、復興支援の活動を行うボランティア団体、NPO、災害ボランティアセンターなどに助成します。ボランティアは10万人必要とされています。みんなで取り組むことで、1日も早い復興のために解決していくことを応援します。 2. 対象となる事業・案件 (1) 対象事業 下記の活動などに対して、助成します。 ・栃木県内の災害復旧（片付け、ボラセンサポート、炊き出し、足湯など）に取り組む活動 ・栃木県内の災害復興（農地支援、居場所支援、お茶会、保育や託児、在宅避難者支援、地域福祉、コミュニティ形成、被災者のしごとづくりなど）に取り組む活動 ・ボランティアを県内外から集める仕組みをつくり、コーディネート活動 ・物資マッチングや情報発信、ネットワークづくりなどに取り組む活動 (2) 対象となる経費 ・人件費を含む活動に必要な経費 *人件費は助成額の4割を上限とする。なお、営利組織の場合の人件費は対象になりません。 3. 助成期間 第1回 2019年10月20日～2020年3月31日 *今回は災害発生後からを助成期間とします。すでに実施済みの活動への資金充当も可能です。 4. 助成金額・件数 第1回 助成総額 50万円（1団体10～20万円×最大5団体） *今後も集まった募金額に応じて、継続して募集を行います。 5. 報告・成果 指定の様式による報告書をご提出していただきます。また、チラシや成果物などありましたら、あわせてご提出をお願いします。 6. 応募について (1) 応募資格：栃木県内で対象事業を行うボランティアグループ、NPO、社会福祉施設、学校、住民組織等（非営利、営利、法人格の有無を問わない、個人での申請は不可）	(2) 応募方法：指定の応募申請書に必要事項を記入の上、郵送かメールでお送り下さい。 (3) 助成金の使途の書き方について： ①項目→ 人件費、旅費交通費、印刷費、消耗品費、謝金 *営利組織の場合の人件費は対象になりません。 ②内訳→ 具体的な算出根拠を記入 例：ブルーシート 3枚×1,500円＝4,500円 (4) 応募締め切り：2019年11月30日（土） *郵便の場合、消印有効 (5) 選考方法と選考基準 ・書類及び必要に応じてヒアリングにより、「がんばろう栃木！募金」選考委員会で決定します。 (選考基準) ・波及効果があり、ほかの地域や後続団体のモデルとなる先駆的な取り組みであるか。 ・被災地や被災者のニーズを反映して、必要とされる取り組みであるか。 ・一般の人に開かれ、参加できる取り組みであるか。 ・助成金の使途が適切であるか。 7. 選考までの流れ ・第1回募集 11月15日～11月30日 ・審査、結果通知 12月中旬 ・助成金振込 12月下旬～1月上旬 ・助成期間 10月20日～2020年3月31日 ・活動報告期限 2020年4月30日（予定） ・活動報告会 2020年夏ごろ（予定） ■選考結果 ①NPO法人トチギ環境未来基地「なすから暮らし復興支援センター運営事業」 ¥140,000 + ¥300,000 ②NPO法人ハイジ「災害から育むお互いさまの心プロジェクト」¥300,000 ③吹上地区各種団体連絡協議会「吹上地区災害ボランティア」¥139,628
--	---

F. 【とちぎ県北ボランティアネットワーク】

2019年度は、常時、事務所にスタッフやボランティアがいることにより、生活困窮者などの相談対応や子ども達の支援、広い世代の地域交流の場として来所者数を増加することができた。

子ども達の支援としては、夏休み期間中に学習ルーム開催日を増やし対応した。また、学生ボランティアが中心となり企画したヤングボランティアカフェも動き出した。

事務局としては‘県北運営会議’を毎月開催することができた。[県北会員の集い]については1回開催できたが、会員活動の活性化や、会員増加などのアクションはあまりできず、**自主財源（会費・寄付）の確保は前年度と同じく未達成**となった。**台風19号の災害**により、足湯ボランティアを被災地に派遣できたが職員の負担が増えたことにより会員を増やすことや、寄付を増やすということの活動は停滞してしまった。運営するボランティア不足ということが大きな原因の一つではあるが、体制はできつつあった。**年度末に新規の拠点**が決まり新たな活動に向けてのハードウェアも整備できつつある。

2019 年	受入 件数	個数	重量 k g	支援 件数	個数	重量 k g
4 月	20	137	184.9	48	345	250.8
5 月	15	116	152.1	40	222	271.65
6 月	23	407	254.1	31	232	174.8
7 月	17	130	231.1	39	247	278.3
8 月	32	755	296.6	24	126	122.1
9 月	34	355	705.4	36	390	426.3
10 月	53	474	569.8	39	450	506.3
11 月	31	252	285.2	29	228	209.6
12 月	39	297	233.3	25	235	198.0
1 月	32	219	232.3	25	262	232.8
2 月	28	700	693.7	27	234	263.8
3 月	1	4	.6	41	651	920.2
合計	325	3,846	3,839	404	3,622	3,855
月平均	27	321	92.3	100	94	97

(1)生活困窮者支援

①フードバンク大田原の活動

フードバンク大田原では、今年度 **3.8 トンの食料を集め**、そのうち **3.8 トンを生活困窮者に届ける**ことができた。

広報活動として、**講師派遣を3回（宇都宮大学、那須清峰高校、西原小学校）**、また、世代間交流喫茶いってみつけと連携し**大田原市や那須塩原市で計12回のイベントに参加**しPRした。その効果もあり個人・企業・団体からの食品提供が増加となった。支援件数は33.6件/月（前年比－3件）、提供物量は331kg/月（前年比＋18kg）、**支援先は那須塩原市が多い**。困窮者の相談は社会福祉協議会を通じて寄せられるケースが多いが、行政機関からの紹介や**直接来所するケースも増加**した。ベテランボランティアの活躍により、年々協力の輪が広がり、支援の量も増加している。

引き続き、フードバンク協力者の輪を広げながら、困窮者への食糧支援を継続していく。



(2)子どもの貧困対策

子ども食堂の運営の加え、学習支援の機能や体験活動も付加し、子どもたちの生活と学びを支える。

①「やまのてこども食堂」の運営

やまのてこども食堂は毎週**金曜日18～20時**に開催した。**年間50回、1061人**(子ども286人、大人775人)が利用した。子どもたちの安心できる食事の場、居場所として、また、様々な世代の交流の機会としても利用いただいている。利用者の中には非常に生活困窮している子もいて、必要に応じてフードバンクと連携し支援を行った。

運営面では毎回2～3人のボランティアで調理・運営を行い、旬の食材を取り入れ手間暇をかけ一つ一つ手作りし、パンラスの取れた食事を提供している。継続して開催することで1年前は小食でほとんど残していた子どもが、残さずきれいに食べるようになっておかわりもするようになった。また、女子はボランティアからおかずの作り方を教わったり等、**食育の場**にもなっている。スタッフとボランティアは子どもたちの成長を日々直接感じる事ができている。

地域の方々からの食材の差し入れも増えてきたり、近隣の企業にも、こども食堂の時間帯は駐車場を無料で利用させていただいたりと協力をいただいている。また、子どもと子ども食堂をつなぐという点では、スクールソーシャルワーカー、**社会福祉協議会、学校の先生など様々な方との連携**をつくることができた。下野新聞や社協だよりなどにも紹介されたことで、認知度も高まってきた。しかし、ボランティアに関しては、**慢性的な人不足**が続いているため1人ひとりの負担が増えて

いるのが現状であり、チラシ配布や社会福祉協議会便り・新聞等でボランティア募集をしているが夜の時間帯が夜という事もあり難しい。今後、安定した**ボランティア確保が課題**である。

②無料学習支援の実施

(やまのて学習ルーム)

2017年12月から**毎週金曜日 15～20 時に開催している**。今期は**64 回、185 人**が利用した。子ども食堂を同日に行うことで、宿題が終わり 18 時になると 1 階に降りてきて、子ども食堂でご飯を食べる流れとなっている。また食べ終わると 2 階に上がりボランティアとおしゃべりをしたりゲームをしたりと元気いっぱい過ごしている。

(やまのてスマイルルーム)

2019 年 2 月から**学校を休みがちな子どもたちや、閉じこもりがちな親子を対象に、毎週木曜日 9 時半～19 時半に開催した**。やまのて学習ルームと両方を利用している子もいる。

相談や紹介は行政機関やスクールソーシャルワーカーとフードバンク大田原からが多く、それぞれと連携しながら支援を行う。昼食・夕食を提供しているが夕食は、学校給食や社員食堂、社会福祉施設等の食堂を運営する**イトランド(株)**と**ナスコ(株)**の協力で、**食事を無償提供**いただいている。同社は以前から社会貢献をしたいという想いがあり、今回の食事提供について快諾いただいた。

夕食を提供していただけることで**スタッフやボランティアが子どもたちと関われる時間を確保**できている。おしゃべりをしたり、勉強をしたり、本を読んだりと過ごし、17:30 からみんな一緒にご飯を食べるという流れで運営している。

学習支援&居場所の運営ボランティアは元塾講師の方や国際医療福祉大学の学生が中心となって行っている。

3. 事業報告【その他の事業】

その他の事業は実施しなかった。

4. 財政・組織運営

(1) 会員

会員数は**518 人 (団体21、支持198、賛助299)**、会費は**191 万円**になった。会員の減少傾向は治まらない。**長期の低落傾向が続いている**。会費収入は昨年より-25 万円である。

通常の会員拡大の方策は、①団体会員などの新規会員の拡大、②現会員の継続の 2 つである。会費の振り込み手続きが面倒であることも予想され、「**つつい未納**」になることが多い。**クレジットカード**での振り込み（ホームページから手続き）、会員総会、V ネットの集い等で**現金で納入**できることも周知している。

会員拡大は事務局の職員が中心に行うことが多く、声をかける人が限定されているのも会員増加につながっていない、会員になる目的をもっと打ち出せるようにしなければならない。

対応策として新型コロナウイルスの影響もあり従来の人を集める手法に代わる活動を打ち出し、ネット環境を使い接点を増やすことや、会員への電話かけでのコミュニケーション方法を見直している。また、フードバンクや寄付ハイクなど**ボランティアやファンドレイジングと連動した活動**にするように事業を変えている。

(2) 寄付

年間寄付額は 1,960 万円になった（前期 1,844 万円）。今期は災害等の臨時の寄付が多かった。本体への寄付より**ちコミ**への寄付が **275 万円減少**した。SUNSUN プロジェクトの活動が災害対応で停滞した分、災害による寄付金が植え

たので全体では増えることになった。

とちコミの冠基金「**たかはら子ども未来基金**」に継続的に拠出する寄付（毎年100万円）があった。

また、NPO法人会計基準によるボランティアの活動時間を「ボランティアによる役務の提供の評価額」とし、最低賃金で換算して寄付として充当した。今期は**ボランティア活動評価益は245万円**となり前期より94万円増加した。

現在の寄付金の項目は以下の通り。

① 一般寄付	通常の寄付（災害救援ベンダーの寄付も含む）	銀行引落し 年1回とマンスリーサポーター（毎月引落）の方法が選べる。	オンライン寄付 ホームページからクレジット決済ができる。マンスリーサポーターになれる
② 年末年始募金	年末年始のキャンペーン時の寄付。12月1日～1月末まで		
③災害救援ボランティア基金	災害救援目的の寄付		
④サンクスVクラブ	Vネット“後援会”寄付金(後述)		
⑤フードバンク寄付	フードバンク宇都宮に対する寄付	銀行引落し 年1回とマンスリーサポーター（毎月引落）の方法が選べる。	オンライン寄付 ホームページからクレジット決済ができる。マンスリーサポーターになれる
⑥プレミアム寄付コース	A：SOSを出している人の人生寄り添いコース：50,000円 B：創意工夫のある郷土づくりコース：100,000円		
⑥とちぎコミュニティ基金	「とちコミ」のメイン寄付。認定NPO法人の利点を活かして、本会特別会計で預かっている ①とちコミ寄付 ②SUNSUN プロジェクト寄付	オンライン寄付 ホームページからクレジット決済ができる。マンスリーサポーターになれる	

（３）事業収入

講師派遣事業は昨年度並み。受託事業収入も647万円と若干増えた。また助成金も、災害(639万)FB(49.7万円)など4つの助成金をうけることができた。台風による災害が発生したのと、一部助成金を獲得する体制ができたことが要因である。

バランスのとれた財源構成が重要だが、安定した委託事業等はない。大局的には社会的苦難な状況の時こそ存在意義を発揮し、本来事業を伸ばすことが必要である。寄付をのばすなど、中期計画に沿った努力が必要である。

（４）組織：会員総会

支持会員・団体会員による会員総会は6月2日に実施した。

定期会員総会は137人出席（うち委任状118人）があり会員総会が成立した。議案のすべてが原案どおり可決成立した。また本会員総会に先立って、5月25日に監事による業務監査・会計監査が実施され、会員総会で「適切に事業運営、適正に会計処理」されている旨の監査報告がなされた。

（６）理事会（役員会）

理事会を3回開催した。

月日	議題/出席者
5/25 監査	菅又、趙
5/15 第1回理事会	① 2019年度事業報告・決算について、矢野、塚本た、中野、徳山、二見、藤田、鈴木、大金、柴田、岩井、大木本
1/25 第2回理事会	① 2019年度事業報告、決算予測について ② 中期計画会議について ③ 労働審判について 矢野、塚本た、中野、藤田、大金、柴田、徳山、大木本、飯島、
3/28 第3回理事会	① 2020事業計画・予算について ③ 矢野、徳山、大金、中野、塚本、藤田、大木本、廣瀬、飯島

（７）職員会議・運営委員会・ケース検討会

第2・4水曜10時から、職員会議を毎月2回開催した。うち1回は運営委員会とした。総合相談支援センター運営の情報共有と事業執行についての会議をおこなった。ケース検討会は第1・第3水曜に総合相談支援センターのケースの情報共有を行った。

●運営委員会・職員会議 4/10、4/24、5/8、5/29、6/12、7/17、7/24、8/21、9/4、9/11、10/9、10/23、11/13、11/27、12/11、12/25、1/8、1/22、2/12、2/26、3/12、3/26
●ケース検討会：4/3、4/17、5/2、5/15、6/5、6/26、7/10、7/24、8/7、8/28、9/4、9/18、10/2、10/16、10/30、11/6、11/21、1/30、3/6

(8)役員、職員、Vネットサポーターの研修など

前記は、理事が一部担当制になったことで研修システムが利用されだしたが、今期も民ボラについてはこの研修規定を使って会議・研修に行っている。(交通費・参加費の7割を本会が負担)。民ボラ、ファンドレイジング大会、に参加させた。また、役員・職員・ボランティアの懇親を目的に2回の交流会(飲み会)を行った。

8/24/サマーパーティ (32人) 12月/サンタ de ラン打上&忘年会(25人)

(10)サンクスVクラブ(後援会)

サンクスVクラブは、年間2万円以上の寄付をいただけること、クラブ員の親睦のため年に2回の定例会(親睦会)を行うことの2項目だけを条件にした「ゆるやかな」つながりが持てる会である。今期は、懇親会は1回実施した。

サンクスVクラブ 会則 2005年7月30日 (第1条) 本会はサンクスVクラブと称する。 (第2条) 本会の事務局を宇都宮市塙田2丁目5番1号とちぎボランティアネットワーク内に置く。 (第3条) 本会はとちぎボランティアネットワークの応援をすることを目的とする。 (第4条) 本会は前条の目的を達成するため次の事業を行う。	1. 寄付に関すること 2. クラブ員の親睦に関すること 3. その他、目的達成に関すること。 (第5条) 本会は栃木県内のボランティア、NPO、企業及び本会の目的に賛同するものを会員とする。 (第6条) 本会に次の役員を置く。 [1] 代表 1名 [2] 副代表1名以上	[3] 会計 1名 (第7条) 本会の経費は寄付金、その他の収入をもってこれに当てる。 (第8条) 本会の会計年度は毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。 役員名簿 代表：高橋昭彦さん 副代表：高木敏江さん 会計 &事務局：菊池順子
3/22 サンクスVクラブ (14人)		

(11)委員会・チームの会議、ボランティアの活動日

①新聞切り抜き隊+しみん情報玉手箱

…毎週水曜日 13時半から活動を行う。各自新聞の切り抜きを持ち寄り、ファイリング、要約、パソコンへ入力を行う。情報の収集・提供のためのボランティアチーム現在3~4人。

② フードバンク会議

…毎週木曜15:00から会議。3月からは14:00から会議となった。(詳細は、FBで報告)

(12)中期計画会議

①中期計画 (2020年度~2023年)

3年に一度中期計画会議を実施して昨年4回の会議を開いて中期計画を策定した。会議の参加者は職員及びスタッフ的なボランティアを中心に集めて意見やアイデアをいただき職員により最終的にまとめた。

3月にはお披露目会を実施した。

月日	議題/出席者
6/5 第1回中期計画会議	矢野、土崎、木下、伊東、曾根、小澤、大木本、柴田、宮坂、小野塚、徳山
7/20 第2回中期計画会議	矢野、大木本、山本、塩澤、菊池、徳山、宮坂、
7/27 第3回中期計画会議	矢野、大木音、小澤、君島、菊池、松葉、塩澤、矢野浩美、徳山
9/7 第4回中期計画会議	矢野、大木本、菊池、塩澤、山本、土崎、徳山
3/22 中期計画お披露目会	15名

2020 年度事業報告書(案)

- 1、全体の報告(成果と課題)…16
- 2、事業報告…17
 - A ボランティアセンター…17
 - B フードバンク宇都宮…19
 - C 災害救援…22
 - D NPO活動推進センター…25
 - E とちぎコミュニティ基金…29
 - F 県北Vネット…34
- 3、その他の事業…36
- 4、財政・組織運営…36

1. 全体の報告 (成果と課題)

①コロナの功罪—困窮者の増加と「助け合い意識」の拡大

コロナ禍で非正規の労働者が失業し困窮者が増えた。半面、「助け合い意識」も芽生え、フードバンク（以下FB）や子ども食堂など困窮者支援の活動が活発化した。ボランティアは20人（FB8人、Vネット12人）の増加、寄付はFBで298万円、チャリティウォーク県北で214万円となり、FB食品寄付も36.7tと昨年費の3.6倍になった。

②あってよかったフードバンク。「私たち自身によるセーフティネット」として機能

13年前のリーマンショックで、本会（日本）では困窮者の救済ができなかった。これを教訓に「今後の経済不況での失業者の救済」のためにFBを構想したが、今回のコロナ禍でフードバンクは「困窮者と助きたい人」を結びつける受け皿となり政府が機能してなくても、「私たち自身によるセーフティネット」として機能したことを証明した。また、相談援助機能があるFBは全国でもほぼ唯一であり、大学と連携して統計データを素早くモニタリングし情報発信したことにより、マスコミから注目され行政等へのアドボカシーになった。FB県北も困窮者支援、定期配布会の開始、チャリティウォーク県北18など活発に活動した。利用者からは「フードバンクがあって助かった」といわれている。

③とちぎコミュニティ基金の伸張—コロナ禍での寄付の拡大

とちぎの寄付は前年比1.57倍の1,870万円となり大幅に増加した。これは、コロナで苦境のNPOの新たなコロナ対策プログラムのためが**がんばろう栃木！コロナ支えあい基金**を開始し**760万円**を集めた。時機を得た素早い企画・実施により、今までとちぎに寄付をしていない人や企業から多額の寄付金を集め活動団体に分配することができた。また、サンタdeランはコロナで活動が制限されることから、企画を大幅に変更したことや、高校生・大学生によるファンドレイジングなどの創意工夫があった。寄付月間の全国大賞の1位（196団体中）となり表彰された。

④新人職員の採用と若手（ボラ）スタッフの増加

本会でラジオやインターンをした学生を新卒職員として採用し、長年の課題だった職員の高齢化に歯止めがかかった。さらに若い職員がいることで学生・若者ボランティアチーム「Vレンジャー」や「泉が丘おたすけ隊」FB学生ボランティアなどが活性化し、若者ボランティアが24人になった。今後は、若手職員や若者ボランティアチームの研修とボランティア・コーディネーションが必要になっている。

⑤休眠預金の資金分配団体になる。新たな栃木の活動推進の仕組み

前期年度末に、日本民間公益活動連携機構（JANPIA）の「新型コロナウイルス対応緊急支援助成」の資金分配団体として応募し、本会・とちぎコミュニティ基金が採択された。今期2900万円を配分する計画である。

本会だけでは、休眠預金事業の事務局運営ができなかったため、NPO法人とちぎユースサポーターズネットワークと協働して運営を行っている。休眠預金事業の実施で、栃木県内のNPOや市民活動にあらたな財源と伴走支援のしきみができることになった。

⑥フードバンクの総合相談の増加とスタッフの疲弊

コロナ禍でFBに来る困窮者も昨年比1.35倍の495人になった。この事態に相談支援のスタッフ（職員・ボランティア）の人数・能力が追いついていない。長期化・複雑化したケースには継続的な相談支援が必要であり、専従職員の負担が大きくなっている。

また、FBからの出口の開発が必要である。そのためには中間的就労事業所が多数必要であり、それらをネットワーク化する中間支援機能が求められている。こうした課題を解決するために、ふれあいコープ、とちぎコープ等とユニバーサル就労研究会を実施し、今期には活動を開始する方向になった。

⑦「対面活動」での県北Vネットの活動の停滞

年度当初に新拠点に引越して活動を開始したが、コロナ禍で子ども食堂、地域サロン、学習支援など「対面活動」が思うようにできなかった。「無料配布会、相談支援つき定期配布会もできたFB県北」とは対照的である。地域のボランティアも、子ども食堂利用者も、積極的に宣伝ができず人が集まらない状況が続いた。いまだに子ども食堂、学習支援も通常の開催とはなっていない。コロナ禍で苦境が続いている

2. 事業報告

A. 【ボランティアセンター】

(1)総合相談事業（ボランティアとNPOに関する啓発普及等事業）

ボランティアしたい希望者に活動の場を紹介し、「ボランティアの応援求む」SOSニーズに対応するため需給調整をし、困難ケースは解決を図った。個別SOSの解決は「総合相談支援センター」が担っている。

①総合相談支援センターの運営

総合相談支援センターは、FBうつのみやでのSOS対応とその後の生活支援、さらに若者支援や社協の困窮者自立支援事業からの依頼ケースに対応するため本会が行ってきた「個別のSOSに同行支援する方法」を全面的に公開して実施した。この事業ではボランティアの個別性・柔軟性を最大限に活用することが、これからの地域福祉推進に必要な能力と考える。

【表1 相談者の状況のまとめ】

	のべ (回)	月平均 (回)	実数 (件)	内複数回 支援(件)	宇都宮市内/市外 ()は住所不定	世帯の人数	男/女
2012年度	30	2.5	30	5	19(9)/11(1)	単身:23、2人:5、3人以上:2	22/8
2013年度	75	6.25	46	11	32(10)/14(1)	単身:27、2人:14、3人以上:5	28/18
2014年度	196	16.08	135	25	72(47)/16	単身:101、2人:11、3人:6、4人:3、5人:5、6人:1、7人:3、10人:1	106/29
2015年度	243	20.25	165	49	102(11)/65(25)	単身:140、2人:25、3人:11、4人:7、5人:6、6人:4、8人:1	118/47
2016年度	350	29.8	185	49	144/18(23)	単身:126、2人:33、3人:10、4人:10、5人:3、6人:1、7人:1、10人:1	124/61
2017年度	572	47.7	248	182	177/15(29)	単身:158、2人:35、3人:11、4人:11、5人:6	160/61
2018年度	685	57.1	304	159	272(32)/32(20)	単身:218、2人:49、3人:19、4人:9、5人:4、6人:4、7人以上:1	217/87

2019 年度	828	69.0	366	177	327(25)/39(7)	単身：271、2人：51、3人：26、4人：13、5人：3、6人：2、7人以上：0	261/105
2020 年度	1298	108.2	495	247	446(29)/49(10)	単身：368、2人：74、3人：36、4人：10、5人：4、6人：0、7人以上：3	340/155

【全世帯】495 世帯 —2020 年度— ●主な困窮の内容（複数）：仕事探し・失業・就職 363、病気・健康・障害 62、住居 5、金銭管理・所持金無し 58、精神疾患・人間関係など 54、日々の生活（低年金）299、債務（家賃滞納など含む）98、子育て・介護 19、DV・離婚など 24 ●生活保護の世帯数： 受給利用中：23、手続き中：29 ●本会までの経路： 自治体（生活福祉課・子ども家庭課・保健所など）160、社協（県内社協含む）95、宮ハローワーク 15、地域包括支援センター19、NPO2、ネット・テレビ 17、その他 96				【住居なし】39 世帯 ●男女比は、男 35：女 4 単身 39 世帯 ●年齢 10代0、20代7、30代4、40代11、50代10、60代6、70代0、80代以上1 ●困窮の内容（複数）仕事探し就職8、ホームレス19（うち車上生活2、移動中4）、住居1、精神疾患・人間関係5、収入生活費・低年金4、病気・健康3、離婚1、孤立3 【女性相談者】155 世帯 ●単身 84/世帯持ち 71（内、母子家庭2-子育て世代2） ●困窮の内容（複数）：DV離婚など5、病気・精神疾患41、仕事探し・失業3、金銭管理不能・債務23、DV1、無・低年金1、子育て・介護1			
--	--	--	--	--	--	--	--

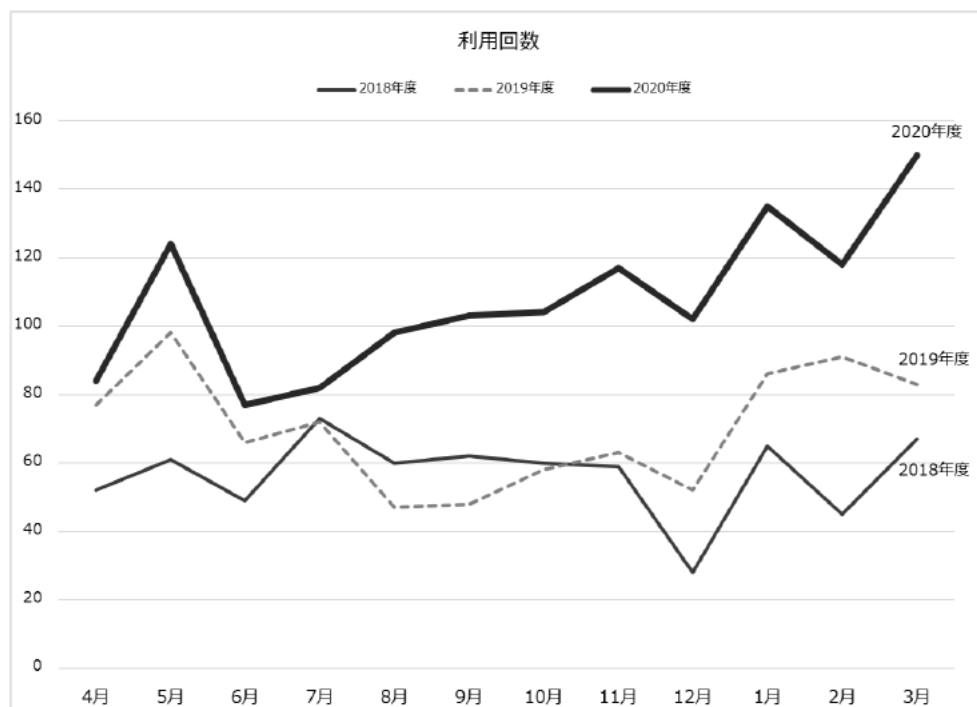
「とちぎボランティアネットワーク独立型社会福祉士事務所」として総合相談支援を行い、行政や社会福祉協議会、地域包括支援センターなど数多くの支援実績を積み重ねることができた。今期の支援件数は495件（世帯）のべ1298回と、回数は前期の1.57倍になった。「個別SOSへの対応とともに社会課題の解決を図る」部門として自主的な活動が定着しつつある。

奨学米プロジェクトは21世帯（のべ60回）、奨学米638kg、食品549kg、野菜配送21回となった。従来通りの活動であり支援対象世帯は増えなかった。しかし継続的な個別支援をするなかで、児童相談所や市役所の子ども家庭課との連携もできた。

表1は相談者の状況のまとめである。母子家庭など地域で定着している困窮者（世帯）への支援方策は見えてきたが宇都宮の母子家庭だけで2700世帯（推定）あり、掘り起しが必要である。また、57%を占める単身男性への支援方策はまだ見いだせていない。

表2では、2018年度から2020年度のフードバンク利用回数を月別に表した。2020年度は前年度、全々年度に比べどの月も利用回数が多い。増加の要因としては①コロナ禍で実際に困窮する人が増えたこと、②フードバンク自体の認知度が高まったこと、③複数回の利用者が増えたこと、つまり一度の支援では生活が立ち直らなくなっていることが考えられる。

【表2 フードバンク利用回数（月別：2018～2020年度）】



②コールセンター栃木の運営支援

今期も厚生労働省社会的包摂ワンストップ相談支援事業を受託する（一般社団）社会的包摂サポートセンターの「コールセンター栃木」の運営支援をした。栃木では13人のスタッフで年間2878件の電話相談に対応した。そのうち緊急支援の必要があるものについては本会のネットワークを使って同行支援をおこなった。

③ユニバーサル就労研究会

本会、ふれあいコープ、とちぎコープの3者を中心に、労働者協同組合、独立型社会福祉士事務所、弁護士などを加えて、2019年9月からユニバーサル就労研究会を毎月1回開催したが、今期は4月からのコロナ対応のため年末まで休止し、1月から再開した。現在は、来期9月にユニバーサル就労ネットワーク栃木（仮称）の開設に向けて準備中である。ネットワークは「中間的就労事業所」を県内に増やしていくために企業・事業所への営業を行う中間支援団体である。本会の独自財源をもとに、企業・事業所からの出向の営業担当者を迎えて、2021年9月の事業開始を目指す。

1/26：矢野・小澤、コープ/大島・菊池、ふれあい/渡辺・加藤・竹内、佐藤
2/23：矢野・小澤、コープ/大島・菊池、ふれあいコープ/竹内、渡辺、佐藤
3/30：矢野・小澤、コープ/大島・菊池、ふれあいコープ/菊池・渡辺・竹内、服部

（2）ボランティア・コーディネーション事業（ボランティアとNPOに関する啓発普及等事業）

①キャンプで救う子どもの貧困、Vレンジャー

「キャンプで救う子どもの貧困」をテーマに、子どもの「体験の貧困」をなくすために活動する若者ボランティアチーム、Vレンジャー。2019年夏から活動を始め2年目の活動になった。2020年度は子ども向けお便りと動画の作成（全14回：5～6月）、川遊び（8月）、芋掘り（10月）、冬企画を企画し、年間で計25回の会議をした。川遊び企画では子ども6人とボランティア12人、芋掘り企画では子ども10人とボランティア19人が参加した。芋掘り企画は農家に協力してもらうことができ、新たに人とのつながりが生まれた。冬企画は緊急事態宣言の影響で翌年度の4月に延期したが、コロナウイルス流行の影響と、年度初めで団体や子どもが忙しいこともあり、ボランティアメンバーのみでの活動となった。子ども向けの企画の他に、ボランティア募集のための活動説明会や、子ども支援団体が主催の企画へ参加もした。新聞等のメディアにも取り上げられ、活動の認知度が高まった。今年度で新しく大学1年生が4人、社会人ボランティアが3人増え、精力的に活動した。

企画名	主催	日程	外部参加者	参加者
新メンバー歓迎会	Vレンジャー	8/9	大人1	7人：中村、大小原、松葉、大木本、村上、宮坂、山崎
沼遊び企画	子どもとなり佐野	8/10	—	4人：大小原、村上、宮坂、小林
川遊び企画 @塩谷	Vレンジャー	8/29	子6、大3	9人：山崎、村上、中村、小林、宮坂、大小原、大木本、松葉、矢野
稲刈り	市貝子育てネット羽ばたき	—	—	4人：廣居、村上、小沢、宮坂
芋掘り @さくら	Vレンジャー	9/22	子10、大5	13人：山崎、廣居、村上、三上、田中、青木、中村、上野、畑沢、大小原、大木本、松葉、小浜
春企画@塩谷	Vレンジャー	4/4	—	10人：山崎、廣居、村上、三上、吉沢、青木、宮坂、大小原、大木本、布施

（3）講師派遣事業（ボランティアとNPOに関する啓発普及等事業）

ボランティア活動、NPOの啓発普及のため役職員等を講師として派遣した。派遣は11回（聴講数のべ381人）で、講義は減少し、5年前の116回からは10分の1に減少した。講義内容の変化は「NPOやボランティアを学ぶ」から「社会問題の解決への実践とその糸口を見出したい」という求めの現れであろう。

	回	月日	講座名（内容）	主催等	場所	講師	聴衆
1	4	7/9～	国際NPO起業論	宇都宮大学・大学院	宇都宮	矢野	24
2	8	6/5～	「ボランティア論」	宇都宮短大	宇都宮	矢野（小澤・大木本）	80
		7/8	たかはら基金インターン事例紹介	NPOインターンシップラボ	オンライン	大木本	15
3	1	7/21	「ZOOM助成金講座」講師（矢・大）	まちびあ	宇都宮	矢野、大木本	10

		9/4	ボランティアについて	CRT 栃木放送	ラジオ	大木本、矢野	不明
4	1	9/6	遺贈寄付ウィーク 2020・facebook 公開セミナー 出演	レガシーギフト協会	オンライン	矢野	30
5	1	9/18	フードバンク学習会	とちぎ生活協同組合	宇都宮	伊東、曾根	
		9/19	シンポ:たかはら基金インターン事例	NPO インターンシップラボ	オンライン	大木本	85
		9/25	zoom 助成金講座講師	まちびあ	オンライン	矢野、大木本	10
6	1	10/17	田川調査・報告会	東地区自治会連合会	東地区市民セ	坪井	40
		11/7	録画助成金講座講師	コラボーレもおか	真岡	大木本	20
7	1	11/26	NPO論（FBと子どもの貧困）	独協医科大学・看護学部	壬生	矢野	120
8	1	12/26	よりそいホットライン研修会(小)	よりそいホットライン	宇都宮	小澤	15
9	1	1/23	地域チャレンジ2days	栃木県庁、スースサポーターズ ネットワーク			
10	1	2/6	地域づくり講座・とちコミについて	ユースサポーターズネットワ ーク	宇都宮	大木本	15
11	1	2/20	「NPOとは」 内部研修講師	足尾に緑を育てる会	足尾公民館	矢野	20
12	1	3/18	きよすみふれあいサロン・FB説明会	地域包括支援セ・きよすみ	宇都宮	徳山	12
13	1	3/25	シルバー大学中央校 活動内容紹介	シルバー大学中央校	宇都宮	伊東	15

事業報告 B.【フードバンク】

(1)フードバンク事業（生活困窮者の支援）

賞味・消費期限内の食品を無償でいただき無償で配るフードバンク（FB）活動は、今期は **36.7 トンの食品受贈**があった。受贈数量の拡大は年度初めに要請したマスコミの報道の影響が大きかった。それまではほとんど寄贈が無かった企業や農協協同組合そして通販で食品を寄付してする人が増加した。

直接支援を求める人の数はP2に記載されている通りだが、増える相談者に対して相談支援のほかに食品配送、回収、管理ボラなどの運営スタッフを増やしていく必要がある。

月	受贈量 (kg)	寄贈量 (kg)
4月	3832	1185
5月	2650	1371
6月	2753	1741
7月	2486	2681
8月	1795	2680
9月	2849	1693
10月	7286	4482
11月	3536	2447
12月	3910	2128
1月	1571	2235
2月	2188	1803
3月	1868	1531
合計	36,724	28,977
前年 (2019)	10,087	9,502
増減	+26,637	+19,475

① 食品配布会の実施

2019年の台風災害で実施した食品配布をコロナ禍でバイト、日雇い、非正規で就労している人の生活が苦しくなっていることで、食品配布会を対面及び宅配便を使って **9回実施、1,156 世帯**に配布した。配布会に伴いアンケート等で大学生からはコロナ禍前は3食食べることができていたが、コロナ禍においては2食しか食べることができない人が多いことを実感した。その他外国人留学生についても困窮している人が多いことが判明した。

食品配布会：9回

1.4/4:栃木明徳会 250セット 宅配便 2.6/13 キーデザイン 113セット 手渡し 3.7/4:宇都宮城址公園 110セット 手渡し 4.8/1:ぽぽら 40セット 手渡し 5.8/28 8/29:泉が丘支所 120セット 宅配便 6.10/9 泉が丘支所 152セット 宅配便 7.10/31 泉が丘支所 120セット 手渡し 8.11/26-28 泉が丘支所 200セット 宅配便 9.1/16 泉が丘支所 51セット 宅配便

② フードドライブの実施

フードドライブの食品受口として**食品受付箱（以下：きずなボックス）**を設置するため公共施設、店舗、会社事務所、病院、寺院等の **10か所**に設置した。一定の宣伝効果があるが、きずなボックスの食品受取は、管理する店舗の善意とボランティアによる回収が前提なので、今期はコロナ禍の影響もあり3か所増えたのみだった。

フードドライブ（FD）を定期的実施した（**とちぎコープ、宇都宮市役所ゴミ減量課、ハーベストウォーク5回**）。また市内・光琳寺では毎月1日に境内で行うラジオ体操時にFDを実施した。3月は新型コロナウイルス

スの影響で全部中止となった。

一方でFDでの食品量増加に伴い、セカンドハーベスト・ジャパンからの供給される飲料や冷凍食品など「ストック食品の優先順位が低い」ものの受け入れはほとんどしなかった。今後は、新型コロナの影響で困窮者が増えることが予想される。**倉庫、ボランティア、食品、資金の調達**が急務になっている。

「きずなボックス」設置場所表		
	設置場所	協力団体、企業
1	戸祭地域コミュニティセンター	戸祭地区民生・児童委員地区協議会
2	とちぎコープ 越戸店（サービスカウンター）	とちぎ生活協同組合
3	とちぎコープ おもちゃのまち店（サービスカウンター）	とちぎ生活協同組合
4	とちぎコープ 鶴田店（サービスカウンター）	とちぎ生活協同組合
5	ヒカリ座	ヒカリ座
6	やさいくだもの村さくら店	やさいくだもの村
7	宇都宮市役所	宇都宮市役所環境部ごみ減量化
8	光琳寺本堂（毎月1日のみ）	清映山 松寿院 光琳寺
9	恵光寺	三芳山 恵光寺
10	栃木県社会福祉士会事務所	栃木県社会福祉士会（福祉プラザ3階）
11	宇都宮卸商業団地協同組合事務所	宇都宮卸商業団地協同組合
12	JU栃木事務所	JU栃木
13	ミヤラジ	（株）宇都宮コミュニティーメディア
14	さくら・ら心療内科 待合室	さくら・ら心療内科
15	医療生協 協立診療所	栃木保健医療生活協同組合
16	医療生協 ふたば診療所	栃木保健医療生活協同組合
17	はやぶさ交通事務所	はやぶさ交通㈱
18	しのいの郷	社福）房幸会
19	末日聖徒イエス・キリスト教会	末日聖徒イエス・キリスト教会
20	浄教寺	光谷山 浄教寺
21	アカデミックロード宇都宮校	アカデミックロードAR
22	栃木県ボランティア活動振興センター	栃木県ボランティア活動振興センター（福祉プラザ1階）
23	宇賀神新聞店（集金日回収）	宇賀神新聞店

フードドライブ：15回 ・毎月1日（金）光琳寺FD（きずなBOX設置）12回 ・10/9：JU 栃木チャリティーオークションFD（石江・徳）	・11/1：とちぎコープ越戸店FD（石江、釜、徳） ・3/21：ハーベストウォーク（伊東、伊藤、寺田、小浜）
---	---

②FB食品の利用「奨学米プロジェクト」

学齢期の子供がいる低所得の母子家庭等に対し毎月定期的に米を提供し、浮いたお金で学用品などを買ってもらう「**奨学米プロジェクト**」を実施した。月1回の米の他に、合間に**野菜・パンの配達**もボランティアによって実施した。母子家庭のほとんどは働いているが非正規が多く、また生活・通勤に都合で自家用車を持っている場合、生活保護を受けられない。低所得のうえ社会保障の給付の枠組みから外れていて、事実上生活保護以下の暮らしをしている人も多い。

「お母さんたちは毎月定期的に支援者と話すことで困り事を言える状況が生まれ、母子家庭の孤立を防ぐことが主眼である」が、相談体制がうまく構築できず、支援世帯数も増やせていない。日夜働きづめの母との接点の時間がないことが原因である。引き続き**女性支援ボランティア等**を育成し、お母さんの悩みを聴ける体制を整える必要がある。

学齢期にある生活困窮家庭への“奨学米”プロジェクト要項

1、目的

2010年度の国の調査では、母子家庭のうち65%が年収180万円以下であり、夫婦2人世帯の平均年収では300万円以上の差がある。また国民の相対的貧困率は16.1%であるが母子家庭の貧困率は54.3%である。様々な事情で身内や地域に頼れない人も多くフードバンクに頼れない（頼らない）人も多い。さらに2014年度に本会・フードバンク(FB)宇都宮が、女性(世帯)へ支援した割合は3割であり、非常に少ない。

こうしたことから、FBうつのみやでは学齢期の子供がいる母子家庭等に対し、米による家計負担の支援を定期的に行い、同時に生活の相談を行うことで困窮母子家庭の生活支援をしていく。

母子家庭等と、本会職員・ボランティアがつながりを持つことによって、何か困った時に頼ることができる関係＝縁を作り、一緒になって解決できるようにすることが重要である。

2、対象者

- ・原則として県央地区に住む学齢期の子供がいる母子家庭等、20世帯
- ・低所得（例/3人家族で月収20万円、年240万以下）の世帯であり、身内や友人にたよることが難しい世帯。
- ・生活保護世帯は対象外とする。

3、内容

- ①1か月白米10-30kgの支援を毎月行う。対象世帯の人数と状況を勘案し決定する。

②対象世帯数20世帯。米の確保、倉庫の課題が解決されれば対象者数の増加も検討する。

③米保有量は4.8t（10kg×12月×20世帯）

④配送方法は原則としてボランティア等が相手宅まで届ける。配送の際に相手宅の玄関をまたぐことが関係構築や状況把握の上で重要と考える。（場合によってはフードバンク事務所に本人が来ることも可とする。）

⑤配送日は原則として、火曜日13:30-17:00。対象者の都合が悪い場合は要相談。

⑥受付はVネット事務所（028-622-0021）で行う。

⑦ボランティアは5人程度募集。同じ人が同じ家庭に継続的にかわる。

⑧保管は米で行いその都度精米する。保管場所は、当面FB大田原の倉庫とするが、宇都宮近郊で倉庫を探していく。

⑨配送社はFB所有の車両やボランティアの自家用車とする。

4、広報

- ・米募集…インターネット及び、チラシを作成しJAやコープ等に営業。
- ・対象世帯向け…対象世帯むけのチラシを作成。DV関係NPO、母子家庭関係者に対象世帯の選定、ピックアップの要請をする。
- ・ボランティア募集…チラシの他、インターネットでの周知、本会会員・ボランティアに対しては電話、機関紙等での勧誘を行う。（福祉プラザ、まちびあ、ピックアップ要請団体、若者支援系の団体）

① 県内ネットワークの拡大

アルバイトがなくなった学生の支援に食品配布会（きずなセット配布）を実施した。その後、**8月1日、FB全県一斉配布会**を実施した。県北（大田原市、那須塩原市）、宇都宮市、日光市、真岡市、足利市の6か所の会場で配布をすることができ、緩やかであるが食品の供給の体制づくりの下地作りを形成することができた。総合相談のネットワーク、支援団体、福祉事業所とのネットワークもできつつありこのネットワークをどのように生かしていくのが今後の課題となってくる。

全県配付会配布実績表(8/1実施)

	参加団体名	場所	配布人数
1	フードバンクもおか	真岡市総合福祉センター駐車場	70人
2	フードバンク県北	大田原市社会福祉協議会	17人
		那須塩原市市民活動センター	17人
3	フードバンクあしかが	フードバンクあしかが事務所	8人
4	フードバンク日光	フードバンク日光事務所	44人
5	フードバンクうつのみや	ぼ・ぼ・ら	40人

② 広報

年度当初は、前期の台風被害者の食品支援の影響で在庫が枯渇していた。4月に新聞社を中心に食品寄付の呼びかけを行ったところ、今までにない反響を呼び個人や企業、団体などからも食品を例年の2から3倍の量を受贈することができた。その後実施したきずなセットの配布も大きな反響を呼び、フードバンクの宣伝を高め一定の成功を収めることができた。情報拡散効果が強いtwitterを中心にSNSでほぼ毎日の情報を更新した。フォロワー数も2000人以上になった。

⑤各拠点の事業

全拠点の特徴として、行政や社協などの支援機関を通して食品支援を実施した。

＜フードバンク県北＞支援機関の要請により食品支援の実施。毎月第2土曜日に食品配布を実施。

＜フードバンク日光＞毎月第1水曜日に会議を実施。行政からの困窮者支援依頼を中心に対応している。食品配布会を不定期に3回実施。

FB日光会議：12回	4/1、5/6、6/3、7/1、8/5、9/2、10/7、11/4、12/2、1/6、2/3、3/3
------------	--

＜フードバンク那須烏山＞行政、社協からの依頼のあった困窮者へ食品支援を中心に行った。

フードバンク(ボランティア)会議(毎週木)：49回 4/2、4/9、4/16、4/23、4/30、5/7、5/14、5/21、5/28、6/4、6/11、6/18、6/25、7/2、7/9、7/16、7/30、8/6、8/20、8/27、9/3、9/10	9/17、9/24、10/1、10/8、10/15、10/22、10/29、11/5、11/12、11/19、11/26、12/3、12/10、12/18、12/24、1/7、1/14、1/21、1/28、2/4、2/10、2/18、2/25、3/4、3/11、3/18、3/25
---	--

(2)FBのためのファンドレイジング(生活困窮者の支援)

①チャリティ・ウォーク県北18の実施

コロナ禍の中、チャリティーウォーク(CW)の実施の方策について検討し、「県北で1日だけのCWを実施する」ことにした。県北での身近な寄付イベントは初めてであり、コロナ感染への配慮を行いつつ、県北のFBスタッフ中心で事業を行った。10月5日に「チャリティ・ウォーク県北18」を開催した。参加者120人、ボランティア50人、214万円の寄付があった。今回の実施は県北でするものの、寄付は加盟団体(FBうつのみや、FB日光、FB那須烏山、FB真岡、FB足利)にも寄付の指定ができるようにして、全県のFBの合同ファンドレイジングとした。

運営のために7月から実行委員会を組織し実行委員会・ボランティア説明会を12回実施した。天候も曇りがちの晴れで、大田原市民をはじめ、県北の人たちにFBの宣伝をするいい機会になった。

第8回チャリティウォーク【県北18】 コロナでも、県北の助け合いはフードバンクから 10/3(土) 西那須野駅～大田原～黒羽 旧・東野鉄道18kmを歩く	
1、開催趣旨 フードバンク県北(那須塩原・大田原など)は、昨年600世帯に食品の支援をしました。今年はコロナによる解雇、失業、パートの減少が、もとも困っている家庭(病気、低年金、ひとり親、外国人等)を、さらなる生活困窮に追い込んでいます。助け合いの基本=フードバンク県北の活動を支えてください。 2、参加できる人 (個人)：食品5kg以上の寄贈、または定額給付金3,000円か5,000円か1万円以上を寄付した人 (団体)：1チーム3～5人。食品20kg以上の寄贈、または定額給付金3万円以上を寄付したグループ ※食品は(できれば)多くの人から集めてください。(ほしいもの：缶詰、レトルト、麺類)	※特別定額給付金の寄付も、身近な人から集めて寄付してもOKです。 3、募集 ・参加者/70人(団体10チーム、個人：20人) ・ボランティア/50人 ・協賛企業・施設/10社。寄付金および参加者への支援飲料、食品など 4、コロナ対策 ・密にならないような野外でのイベントです。 ・直前10日以内に発熱した人は参加できません。申し出てください。 ・当日は検温を実施します。 ・コロナの拡がりで、予告なくイベントを中止することもあります。事前の寄付金等の返却はしません。

C.【災害救援・復興支援活動】

(1)救援・復興支援事業(災害救援事業)

①台風19号水害「宇都宮暮らし復興支援センター・DIYセンター」

2019年10月に発生した台風19号水害について宇都宮市田川流域の復興支援のため、「宇都宮暮らし復興支援センター」を泉が丘地区の老人ホームいずみ苑内に開設した。さらに日本財団からの助成を得て、「復興支援DIY支援センター」を開始し、車両や家の補修の工具を貸出しをアルバイト職員を配置して実施した。

2020年4月から9月は、拠点を移して引き続きDIYセンターのみを開設した。コロナ禍であり、相談支援の数は多くなかったが、床下や壁への対応が6月までであった。

②台風 19 号・田川被災状況のアンケート調査

宇都宮暮らし復興支援センターでは、被害・復興状況をアンケート調査して、10 月に**田川流域の水害調査報告書（A 4 判 60 ページ）**を作成した。住民組織に公表するとともに、自治体、マスコミへ情報提供し今後の水害のための基礎情報を提供した。全国的にも N P O で、水害直後に調査を実施したことはほとんどなく、防災関係機関からは好評であった。

③復興支援活動：まけないぞうプロジェクト・復興わかめの販売

【まけないぞう】今期も東日本大震災被災地の復興支援のために「まけないぞう」の制作・販売を行った。寄付でいただいたタオルを、被災地のお母さんたちが手縫いで「ぞう」の形にした壁掛けタオルである。これを本会が買い取って販売し売上の 2 5 % が作り手の収入になり、生きがいやコミュニティづくり、生業の支援になる。**当期は 219 頭、85,780 円**の売上となった。

【復興わかめ】東日本大震災の被災地の復興支援のため、石巻十三浜のわかめを「まけないぞう」とともに販売した。今期は **42 個、21,000 円**の売上だった。

（2）三者連携/防災についての会議・研修（ボランティアと N P O に関する啓発普及等事業）

2019 年の台風 19 号水害を契機に、県、内閣府とも「三者連携」についての会・研修が増えた。「自治体、社協、民間（NPO など）の 3 者の連携が災害救援・復興には重要だ」という認識で、「これらが災害時に発揮されるためには事前の連携が欠かせない」ということである。県の**災害ボランティア連絡会議に 2 回出席、内閣府の中核人材合同研修会に 2 回、本会主催の自主勉強会を 1 回実施した。**

また福島県事業での**復興副大臣との懇談会**や、「**福島からの避難 10 年目調査**」、「**原発避難 10 年目ラジオ**」も実施した（P 11）

3/29(日) うつのみや復興支援センター・保育園跡地に引越し 5/21(木) 福島県・10 年目の避難調査・会議(矢野 2、門馬、坪井) 6/14(日) 水害 D I Y センター現場訪問(米山 V、矢) 6/17(水) 県・災害ボランティア会議(矢・君嶋・柴田、県 3、ぽぽら 3、県社協、日赤、共募) 6/27(土) 田川駐車場(D I Y センター)の草刈(矢野、小林) 7/7(火) とちテレ取材・田川水害調査(坪井) 7/18(土) 復興副大臣・懇談会(福島避難者 4 人、矢野 2、門馬、副大臣 5、県 2)、福島県事業・調査紙検討(坪井、矢野 2、門馬) 8/28(金) 県・県民文化課(県 3、矢野・坪井)&危機管理課(矢野・坪井) 9/2、「災害時の県域 N P O 支援センター相互支援協定」関東ブロック ZOOM 会議(矢野・坪井他、茨城 2・神奈川 3、東京 2、群馬 3、千葉)	10/6(火) 県・災害ボランティア会議(矢・坪井、推進室 2+危機管理/角田+保健福祉/榎田、他 6 人) 10/13-14(水) 田川駐車場(D I Y セ)引越し(矢野・坪井) 11/6(金) 県庁で内閣府・三者連携担当者研修(県庁/矢野・坪井、他 9 人) 12/18(金) 三者連携自主研修・V ネットで(坪井・矢野。柴田、県/3、県社協/佐藤・宮本、共募/2、土崎、町田、日赤 2) 12/23(水) 県庁で内閣府三者連携・担当者研修(矢・坪)、 2/19(金) 3 者連携会議(矢・坪、柴田、川井・榎淵)、福島県事業 ZOOM 会議(20 人) 3/7(日) 原発避難 10 年目ラジオ(①小峰・伊東、矢野、②佐々木・田中、矢野、③北村・佐藤、矢野)
---	--

（3）「とちぎ V ネット災害救援ボランティア基金」（N P O の活動資金の援助事業）

今期は実施しなかった。

D.【NPO活動推進センター】

(1) NPOに関する相談・協働事業（NPOの育成事業）

①福島からの避難者支援「福島県復興支援員事業」、「福島県外避難への相談・交流・説明会事業」

福島県から「復興支援員設置事業」と「生活再建支援拠点事業」の2つの事業を受託した。栃木県内には福島からの避難者が推定1700人いるが、この世帯に対して復興支援員（非常勤2人）は避難者の訪問支援活動をした。全戸訪問した名簿で毎月2回、要継続支援30人を対象に実施した。また広報誌『とちぎ暮らしの手帖』を3回発行した。

生活再建支援拠点は避難者が来訪し相談できる窓口として週3日開設した。今期は「原発避難10年目の調査」を実施し、避難行動、避難時の支援、現在の復興感などをアンケート調査し、報告書（A4判・40ページ）を発刊した。また、コロナ禍で交流会を実施できなかったため調査や避難者への取材をもとに、コミュニティFBで「原発避難10年目ラジオ」を3/6に3時間番組で放送した。なお、事前予告の放送として12月から5回にわたって、みんな崖っぷちラジオで避難者5人をゲストに招き3月の予告をした。

②委員の委嘱などでの運営協力

各種委員に委嘱される等で会議、研修、講座の選考等に協力した。特に災害救援での三者連携関係が多かった。「栃木県災害ボランティア活動連絡会議」は2回実施、内閣府研修会を2回、自主勉強会も1回実施した（P9）

(2) ボランティアとNPOに関する啓発・普及事業（ボランティアとNPOに関する啓発普及等事業）

①『とちコミSDGs通信』『フードバンク通信』『県北通信』の発行

『隔月刊ボランティア情報』を700部、年6回発行した。

2019年1月から『フードバンク通信』を発行、「今月のSOS」記事を4ページを別刷りにし、編集もFBうつのみや内部で行なっている。2020年1月からは『県北Vネット通信』を創刊。県北のフードバンクのSOS事例を掲載した4ページ通信を発刊した。

これらの措置のうえに2021年1・2月号からは誌名を『とちコミ・SDGs通信』と変更し紙面のコンセプトを変えた。これは、とちぎコミュニティ基金とSDGsを中心にした紙媒体を「特出し」することで、情報誌購読だけの会員増加を狙ったものである。いわばVネットのプラットフォームに「SDGs通信の会員」が乗ったものである。

また、ラジオ、youtube、WEB、SNSと紙媒体とを連動するようにした。職員、学生ラジオパーソナリティ、新聞切抜き隊、ボランティアによる取材、執筆を行い、担当職員による印刷とボランティア2～3人による製本・発送で成り立っている。

今後は、FBうつのみやの付録の情報誌としても使うことで、会員であるFB以外にも大きな広がりを感じられるような情報提供をしていくことで、「とちコミSDGs通信」のプラットフォームとしての価値を見せていく。

月	号	特集記事	月	号	特集記事
3-4月	241	報告/サンクスVクラブ&中期計画お披露目会/社会系ユーチューバー誕生	9-10月	244	報告/サンクスVクラブ秋/CW県北18/Vレンジャー夏川遊び
5-6月	242	報告/コロナ支え合い基金/コロナ除けお札/サンタdeラン/FB学生応援/県北FB配布会	11-12月	245	報告/サンタdeクリーン&Eスポーツ/とちコミ/Vレンジャー秋芋掘り
7-8月	243	報告/コロナ基金記者会見/Vレンジャー大活躍/県内FB合同配布会	1-2月	246	報告/外国ルーツの子の貧困/とちコミ贈呈式/若者会議

②「みんな崖っぷちラジオ」の放送

ラジオ局の運営を、コミュニティFM「ミヤラジ」の開局と同時に2017年3月から開始した。ラジオ学生がゲストに話を聞き、職員等がコメントするスタイルである。取材・放送・ブログ作成までを学生が臨時職員（アルバイト）として担当した。今期は学生4人（当真昇吾、藤倉理子、小熊優佳、山本桂輔）となり、前年のラジオ学生もラジオ学生会議などでサポートに入る体制にした。年末に「学生ラジオ学生募集説明会」を3回実施したが、

3月までラジオ学生が1人しか集まらなかった。3月からは学生3人（田中悠斗、佐藤里奈、小浜佳凜）、社会人1人（伊東由晃）で実施している。

学生の中にはyoutube動画で番組の宣伝をし、サンタdeランでは動画も作成する者もあられ、1月からはラジオ番組動画をホームページで毎回公開することにした。

また「原発避難10年目ラジオ」という特別番組を3月に放送したが、その事前放送で5回避難者をゲストに招いた。福島県の委託事業の予算で実施した。

「半径8キロしか聞こえない」コミュニティFMは、放送の広報（ラジオ聴取）力はあまりないが、媒体作成・媒体出演者との関係性に学生が関わることで、動画配信などの新しい活動や、学生自身の成長と本会関係者の変化がある。さらに学生チーム・Vレンジャーや、FBボランティアとの相乗効果により、かかわる学生数が10人以上となっている。学生にもNPOにも有意義な出会いとなった。

【番組表】

回	月日	テーマ	ゲスト/所属	コメント、学生司会
1	4/7	「キャンプで救う子供の貧困」Vレンジャー	宮坂真耶（Vレンジャー）	曾根、藤倉
2	4/14	趣味・小物・デザインで若者支援	小菅恵子	石川、當真
3	4/21	学生LGBTサークル	LGBT研究会にじみや・4人	矢野、藤倉
4	4/28	足尾に緑を育てる会	長野（足尾に緑を育てる会）	矢野、山本
5	5/5	「ピリギャル」男子の受験法	ジュリオ満（宇大・国際学部）	中野、藤倉
6	5/9	「たのしい、できる」がボランティア支援	平子めぐみ（とちぎ市民活動センターくらら）	曾根、小熊
7	5/16	観光地日光のコロナと子ども	金井聡（NPO法人だいじょうぶ）	矢野、山本
8	5/23	コロナ・医療崩壊…なんでも質問大会	趙達来（真岡西部クリニック）	矢野、藤倉
9	6/2	崖っぷちさんから、た助っ人さんに	吉成勇一（NPO法人ウエーブ）	徳山、山本
10	6/9	FBあしかが	高沢・吉田・関口（FBあしかが）	中野、小熊
11	6/16	性暴力被害者がつながった日	荻津守（性暴力被害支援センターとちエール）	矢野、藤倉
12	6/23	宇都宮空襲・沖縄戦を語り継ぐ	大野幹夫（とちぎの空襲と戦災を語り継ぐ会）、 菊池蓮（宇大国際学部4年）	矢野、當真
13	6/30	コロナと向き合う外国人	本田エリザ（TIA）、アイマン（宇大留学生）	山本、小熊
14	7/7	フードバンクしもつけ設立まで	小堀裕子/日出春（FBしもつけ）	徳山、當真
15	7/14	社協の若者支援	柴田さん（那須塩原市社協）	中野、藤倉
16	7/21	災害「個人の記憶を社会の記録に」	坪井塑太郎（Vネット職員）	矢野、小熊
17	7/28	次世代への森	塚本竜也（トチギ環境未来基地）	曾根、山本
18	8/4	時間預託・助け合い	走出政視（ナルク栃木）	矢野、藤倉
19	8/11	キャリア教育	川田奈美（キャリア教育インストラクター）	中野、小熊
20	8/18	鳥獣被害	高橋俊守（宇大地域デザイン科学部）	矢野、當真
21	8/25	「キャンプで救う子供の貧困」Vレンジャー	大小原翔太（社会人Vレンジャー）	矢野、山本
22	9/1	FBボランティア	大森敏臣（JU栃木）	徳山、小熊
23	9/8	不登校の子供・親支援	土橋優平（キーデザイン）	中野、當真
24	9/15	スマイル日光プロジェクト	小栗卓（成文社/日光）	矢野、山本
25	9/22	「ハまるのは一瞬、抜けるのは困難」女性DARC	きずきさん（ダルク女性センターとちぎ）	藤倉、矢野
26	9/29	みんなの崖っぷち事例大会	アンケートで構成	藤倉・小熊・當真
27	10/6	宮めし応援隊+済生会病院	ミヤ飯+荻津（済生会MSW）	曾根、藤倉
28	10/13	「教育機会確保法」高根沢教育長+よりそいHL	小堀康典（教育長）+横山	中野、山本
29	10/20	「アウトサイダーアート」+いのちの電話	五味渕仁美（もうひとつの美術館）+大橋	矢野、小熊
30	10/27	クリエイティブ・レインボー・プロジェクト	林香君（文星芸大名誉教授）	矢野、當真
31	11/3	「生協運動の目指すもの」	大島さん（とちぎコープ）	徳山、小熊
32	11/10	不登校支援30年	石林正男（栃木不登校を考える会）	中野、當真
33	11/17	たかはらインターン学生に聞く	君島怜奈（NPO法人うりずんインターン）	山本、矢野
34	11/24	コロナ禍の学生インタビュー	宇大学生2人	藤倉
35	12/1	ヤングケアラー	宮坂真耶（宇大4年）	徳山、當真
36	12/8	妊婦さんからの困窮母子家庭支援	鳥飼蓬子・工藤さん（空色コアラ）	小熊
37	12/15	福島・原発避難の10年①	佐々木茂夫（原発避難者・浪江町）	矢野、藤倉
38	12/22	ふりかえり①ラジオってどう？		山本、當真、小熊
39	12/29	ふりかえり②ラジオ1年やってみて		藤倉
40	1/5	FBうつのみやの活動	伊東由晃（FBうつのみや）	篠原、田中
41	1/12	キッズハウスいそりの子ども食堂	荻野友香里（若年者支援機構）	當真、中野

42	1/19	コロナ禍の就活事情を聴いてみた	宇大学生 2 人	山本
43	1/26	福島・原発避難の 10 年②	半谷八重子（原発避難者・双葉町）	矢野、小熊
44	2/2	社会的処方って何？	村井邦彦（村井クリニック院長）	伊東、中野
45	2/9	迷走人生と福祉の仕事の出会い	浜貴史（東京愛隣会）	徳山、田中
46	2/16	福島・原発避難の 10 年③	小峰和子（原発避難者・浪江町）	矢野、伊東
47	2/23	福島・原発避難の 10 年④	中山千代吉（原発避難者・富岡町）	矢野、田中
48	3/2	福島・原発避難の 10 年⑤	北村雅（原発避難者・双葉町）	矢野、佐藤
49	3/9	自主夜間中学 9 月開校	田巻松雄（とちぎに夜間中学をつくり育てる会）	中野、田中
50	3/19	災害救援 20 年	君島福芳（日本災害復興学会・理事）	矢野、伊東
51	3/23	障害者の就職支援	小野（県東障害者就労支援センター）	徳山、小浜
52	3/30	つつつぶ大学コラボ	宮ラジ・学生 3 人	田中

（３）震災がつなぐ全国ネットワークへの加盟・運営（ボランティアとNPOに関する啓発普及等事業）

災害時の全国的なボランティアネットワークを構築するため「震災がつなぐ全国ネットワーク（略称＝震つな）」へ加盟し、役職員を同ネットワークの顧問・理事として業務にあたらせた。また３年前から全国災害ボランティア支援連絡会（JVOAD）にも加盟した。

（４）ボランタリズム推進団体会議（民ボラ）の運営（ボランティアとNPOに関する事業）

全国の市民活動やボランティア活動の中間支援団体が一堂に会し、市民活動の推進方策、中間支援団体自身の経営について研鑽し話し合う、「第３８回ボランタリズム推進団体会議（民ボラ）」を**７月**に大阪で実施予定だったが、コロナのため次期に延期した。

E. 【とちぎコミュニティ基金】

（トピック）

コロナの緊急事態宣言から始まったとちぎコミュニティ基金（以下とちコミ）は、**NPOに対するコロナどうするアンケート**を実施、NPOリーダー同士の情報共有をHP、メーリングリスト、情報誌等で発信した。それらの分析をもとに、NPOに対して**コロナ対応事業・合同ファンドレイジング「がんばろう栃木！コロナ支え合い募金」**を実施した。また、**サンタ de クリーン& e スポーツ**は、**寄付月間・公式企画大賞**を受賞した。

（実績概要）

とちぎコミュニティ基金（以下とちコミ）は大きく「プロジェクト」「助成」「合同ファンドレイジング」の**３部門**がある。今期はプロジェクトは進まなかったが、合同ファンドレイジング（コロナ支え合い募金、サンタ de クリーン& E スポーツ）が活発になった。

５月から実施した**がんばろう栃木・コロナ支え合い募金**はNPOの13事業でキャンペーンを呼びかけた。寄付を集めた。現在までの**寄付は 700 万円**になり 3 か月ごとに寄付分配を行った。

子ども SUNSUN プロジェクトは**890 万円**の寄付があり、うち、サンタ de ランを「**クリーン大作戦&e スポーツ**」と企画内容を変えて実施し、**550 万円**を合同ファンドレイジングで集めた。全国団体で行う**寄付月間公式企画大賞（196 企画 1 位タイ）**を受賞した。助成部門の「**たかはら子ども未来基金**」は学生インターン助成として 4 回目の配分を行い、**8 人の大学生と 7 団体**に助成した。ゆめ基金では、新たに**3 年継続の調査助成「ゆめ・SDGs 助成」**を創設し、3 プログラムに総額 45 万円を配分した。

(1)プロジェクト（NPOの活動資金の援助事業）

①子ども SUNSUN プロジェクト＝子どもの貧困撃退♡円卓会議（宇都宮）

（経緯）2017 年 3 月から地域の課題を解決するプロジェクトとして「子どもの貧困」をテーマに円卓会議を開催し、2017 年 10 月に調査報告を、2018 年 3 月に実施計画を発表した。

（2018 年）

目標数の設定と資源集め事業の立ち上げを行った。宇都宮市内の各中学校区にこども食堂、無料学習支援、居場所、フードバンクの支援拠点セットをつくることを目標とした。そのために宇都宮の概ね中学校区ごとに**地区円卓会議**を開催する計画とした。また、全体の課題を解決する場として定期円卓会議を年 4 回開催。9 月には**清原地区子どもの貧困撃退・円卓会議**が発足し、とちぎYMCAを中心に、地区内の社会福祉施設、自治会、民生委員児童委員等とともに地域ぐるみの活動になった。また 2018 年度は市外への波及として**大田原子どもの貧困撃退円卓会議**を開催し、調査やファンドレイジング講座を開催した。ファンドレイジングとして、サンタ de ラン&ウォークや通年の子どもSUNSUNメイト(月額寄付)で**総額 846 万円**を集めた。

（2019 年）

5 月に**総会**を実施した。**助成金申請書/ファンドレイジング計画書**の公募を行った。定期円卓会議は 8/18「子ども食堂をもっと増やすには」のテーマでワークショップを実施し 20 人が参加した。**地区円卓会議**として、清原地区円卓会議では**子ども食堂キャラバン**を開始し、9 月には「**子ども食堂チャリティコンサート**」を地区で実施し 100 万円の寄付を集めた。宝木地区でも**宝木こども未来応援隊**が医療生協、村井クリニック、老人ホームの連携で発足し、元デーサービス施設で子ども食堂が定期的に開催されるようになった。寄付は**総額 550 万円**を集めた。

（2020 年）

コロナ禍のため 5 月に緊急オンライン会議を実施し今期の活動について協議した。総会と定期円卓会議（1 回）を中止し 2019 年度分助成金 92 万円を次期(2021)に配分することにした。

定期円卓会議は 2 回実施した。12 月「**コロナ禍での子ども食堂の再開**」をリアルと ZOOM で実施。3 月には「**にほんで生きる海外につながる子どもたち**」をテーマに ZOOM で開催した。

また、12 月のサンタ de ランは「ラン」を取りやめ、**サンタ de クリーン大作成&eスポーツ**として、リアルとオンラインの企画とした。今期は例年になく動画での宣伝や、学生・高校生のボランティアによる寄付集めも行われ、**過去最大の 550 万円**を集めて **13 団体に 415 万円**を分配した。

【成果と課題】

A：子ども食堂、無料学習支援、訪問型病児保育、フードバンク等の動向

子ども食堂はコロナ禍で、休止や弁当配布の活動になった所が多かった。一方でコロナで新たに臨時の食堂を行う所もあり、宇都宮市内では 2 か所増した。本会関係では 2 月から市内中心部で**宮っ子元気食堂**が本会理事 2 人のコラボにより開設した。現在のところイトランド(株)の協力により毎月 2 回の弁当の提供をしているが、待っている母子家庭も多数あり、毎回好評である。自治会や民生委員の協力もあり本格的な開催準備をしている。

無料学習支援の増加はなかった。訪問型病児保育はコロナ禍で活動ができず休止状態となった。

また、9 月から市の委託で親と子の居場所事業が 2 か所開設した。今後、中学校区に 1 か所開設する方向とおわれるため、この事業の市内への普及とネットワーク化を図ることを検討している。

フードバンクはコロナ禍であったため、注目度が高まり食品受贈量も拡大し活発に運営している。

B：寄付金の募集と配分

寄付イベントと個人寄付の 2 種がある。寄付イベント(サンタ de ラン)で **550 万円**を集めた。他に個人寄付＝クレジットカードで月額寄付(66 万円)と、個人・企業からの都度寄付(270 万円)の合計 **336 万円**の寄付があった。子どもSUNSUNプロジェクトの**寄付総額は 886 万円**となった。

寄付の募集の前提となる数字を出すために、助成金申請書を提出してもらい目標としたが、助成金審査会もコロナで実施せず、配分金額が確定していない。また、大口寄付(発起人寄付)も、マンスリーサポーター(SUNSUNメイト)の拡大もなかった。寄付つき商品も拡大もなかった。

C：催事・講座・会議の実施日・回数

■コロナSUN SUNプロジェクトZOOM会議（4回） 5/15（6人）、5/22（7人）、5/29（5人） 5/30（12人） ■定期円卓会議（2回） 12/12「子ども食堂の復活・継続会議」16人、トライ東で（リアル+ZOOM）	3/6「にほんで生きる海外につながる子どもたち」20人、日々輝学園で（ZOOM） ■月例会（8回） 4/8（7人）、9/24（6人）、10/29（6人）、11/10（5人） 12/12（8人）、1/16（7人）、2/13（8人）、2/27（8人）
---	---

②「サンタ de クリーン大作戦&e スポーツ」の実施

5回目のサンタ de ラン&ウォークは、飛沫が広がる懸念からラン企画を中止した。しかし「サンタ de ランの企画が変わっても続けることが大切」という実行委員の熱い思いに押されて「クリーン大作戦&e スポーツ」と形を変えて開催し、当日は約300人が集まった。実行委員会は4月～1月の10か月間、17回実施した。また、今回は学生の動きが活発化した。

●日光だいじょうぶで「サンタラン」を高校生たちが企画。

●日々輝学園高校のパソコン部制作オリジナルゲームでの協賛金の集め+当日「ぷよぷよ e スポーツトーナメント」の実施

●社会派 Youtuber による P R 動画作成

など、各地で様々な参加と協力の輪を広げた。結果的に参加者、ボランティアは300人となり、会場付近を通行する人や地元の人たち、そしてコロナ渦でも支援をよびかける必要性が伝わり、大きなインパクトを与えるものとなった。

	2020		2019	
預かり寄付渡先	集めた金額	配分→支払額	集めた金額	配分→支払額
とちぎVネット	802,155	838,243	958,352	1,004,951
子どものみらい応援隊	150,254	157,014	117,748	123,473
だいじょうぶ	621,402	649,358	558,983	586,163
とちぎVICA	523,912	547,482	550,543	577,313
トチギ環境未来基地	237,200	247,871	92,230	96,715
うりずん	282,137	294,830	298,103	312,598
フードバンクうつのみや	262,646	274,462	-	-
リスマイリー	340,000	355,296	305,384	320,233
青少年の自立を支える会	31,500	32,917	61,484	64,474
きよはら食堂キャラバン	595,000	621,769	-	-
ちゅんちゅんこども食堂	30,000	31,350	-	-
県北子ども食堂連絡協議会	97,335	101,714	-	-
栃木県若年者支援機構	-	-	116,672	122,345
さくらネット小山	-	-	126,921	133,092
ピリープ	-	-	90,610	95,016
サバイバルネットライフ	-	-	-	-
Makana 食堂	-	-	-	-
キッズシェルター	-	-	-	-
計	3,973,541	4,152,308	3,277,030	3,436,373
全体に寄付	1,562,869	-	1,304,800	-
とちコミ経費	-	1,384,103	-	1,145,457
	5,536,410	5,536,411	4,581,830	4,581,830
①集めた金額⇒団体指定の寄付				
②配分→支払額⇒75%分+「全体に寄付」を按分した配分				
①と②の総計金額の差異は按分で割切れないものがある。				

■サンタ・事前イベント、事前企画（8回） ●街頭募金3回 11/21-22 V ネット企画「サンタ de 街頭募金」87,120 円 12/12-13 V ネット企画「サンタ de 街頭募金」117,279 円 12/19 県北 V ネット企画「サンタ de 街頭募金」93,472 円 ●10 月末～ オリジナルゲーム、サンタ de ランで遊ぶ（日々輝学園高校パソコン部） 【協賛：作新学院、アカデミック・ロード、共栄、柏建設】 ●10 月～ P R のための Youtube 動画 2 回（徹底解剖、パブリカを踊ってみた）再生回数約 900 回 ●12/1-19：ぷよぷよ e スポーツ事前トーナメント	●11-12 月：サンタ de めりえ×モザイクアート約 1000 人参加 ●12/20：日光で走っちゃおう！サンタラン（高校生実行委員会）400,705 円がだいじょうぶに寄付 ■当日ボランティア説明会（2回） 12/5（15人）、12/9（15人） ・ポスター張り（2回）11/8（10人） ■実行委員会（17回） 4/8（7人）、4/22（14人）、5/1（14人）、5/27（20人）、6/16（14人）、7/7（12人）、7/29（15人）、8/20（13人）、9/2（13人）、9/23（16人）、10/15（14人）、10/31（15人）、11/4（14人）、11/19（17人）、12/13（16人）、12/15（15人）、1/14（16人）
--	--

(2)助成 (NPOの活動資金の援助事業)

①「花王ハートポケット倶楽部・地域助成」

花王㈱の同助成金を活用しNPOへ助成金を贈る地域助成を行なった。第14回目の助成金配分である。今年度から助成金額と団体数が見直され、20万円1団体、10万円3団体の50万円を助成することとなった。審査は12月23日の第1次審査で4団体を選考し、それらを、花王ハートポケット倶楽部の社員1700人の投票により1番票を集めた団体が20万円を助成することとした。**応募は12団体**だった。3月27日に贈呈式を実施し、前期(2019年)の助成団体の報告会も合わせて実施した。(前期の贈呈式がコロナ禍により中止となったため)

2020年度 花王・ハートポケット倶楽部地域助成(栃木地区) —栃木県内のNPO・市民活動団体を応援—	
花王㈱では社員有志による社会貢献寄付プログラム「ハートポケット倶楽部」を組織し、全国・地域のNPOを社員と企業で応援しています。今年度は、栃木事業場のハートポケット倶楽部が、栃木県全域の全ての分野で活動するNPOや市民活動団体から、「心温まる活動」「地域で必要とされる活動」を対象に助成します。	
1. 助成内容 助成内容 *2020年度から変更しました。 ・助成総額：50万円 ・助成団体数：4団体 ・助成金額 ・助成：20万円＝1団体、10万円＝3団体	②昨年度「メイン助成」を受けた団体でないこと(1年休み後の応募は可)。 ※「NPO データバンク (CANPAN)」への登録は必須ではありません。 4. 応募・問い合わせ先 とちぎボランティアネットワーク「花王・ハートポケット倶楽部係」 栃木県宇都宮市埴田 2-5-1 電話 028-622-0021 FAX028-623-6036 tochicomi.org
2. 選考までの流れ ◎応募受付開始：10月1日 ◎応募用紙提出締切：11月20日必着 ◎一次選考：12月中旬。とちぎコミュニティ基金運営委員会により6団体を選出。 ◎二次選考(投票選考)：1月中旬。花王ハートポケット倶楽部に参加している社員に応募申請書を公開し、投票で採択団体を決定します。 ◎贈呈式・レセプション：3月2日。1次審査通過団体においていただき、贈呈式・レセプションを行います。 ◎活動報告：助成金を使った様子を所定の書式で簡潔に報告ください。	■選考結果 ★20万円 NPO法人フードバンクうつのみや ★10万円 NPO法人そらいろコアラ マザーズガーデン子どもワクワク教室「あすなろ」 真岡児童館 やさしクラブ
3. 応募団体の条件 ①営利を目的とせず、公益的・社会的な活動をすでに1年以上継続的に行っている栃木県内のNPO・市民活動団体・ボランティア団体(法人格の有無は問わない)	■年間日程 9/25(金) 花王助成の説明会(まちびあ主催) 11/7(土)花王助成金の説明会(コラボーレもおか主催) 12/23(水)花王助成審査会 3/27(土)とちぎのミライをつくる大会(2019年度花王助成報告会と、2020年度助成贈呈式、2020年度ゆめSDGs助成の贈呈式、コロナ基金の報告会)

②「たかはら子ども未来基金」

2017年から矢板市の篤志家からの寄付で「たかはら子ども未来基金」を創設し、学生インターン助成を実施した。「境遇や生育環境に関わらず、全ての子どもや若者が等しく人生を拓く機会を得られること」が目的である。子どもの貧困に関するボランティア・NPOの活動に対し、栃木県北地域を中心に助成を行った(2017年から10年間継続して寄付を受け、助成を行う予定)。

学生インターン部門には11団体の応募があり7団体に助成した。学生は10人の申込があり8人に助成した。なお、今年は1団体(うりずん)が特別助成枠で2人を受け入れた。

とちぎコミュニティ基金 [たかはら子ども未来基金]・学生インターン助成 (申込締切) 団体：2020/7/15、学生：2020/8/10	
1. たかはら子ども未来基金とは? たかはら子ども未来基金とは、子どもや若者の未来を応援する目的で、2017年に矢板市在住の夫妻が設立した基金です。現在、家庭の経済的困窮が要因となり、子どもや若者の「未来への可能性」を奪う様々な不利が生じています。境遇や生育環境に関わらず、全ての子どもや若者が等しく人生を拓く機会を得られるように「たかはら子ども未来基金」が創設され、特に栃木県北地域の子どもや若者を支えていくこと	4. 学生インターンの内容 ・学生のインターンシップ(研修)の受入を希望する団体と、NPO 活動に関心の高い学生をマッチングします。 《助成額について》 ・助成額：学生に50,000円、団体にも50,000円を贈呈。 ・未来の担い手であるインターンシップの学生を育成していただく目的で、金額が変わりました。 ・助成総額：800,000円(インターン生8人分と団体8団体分) ・1団体に2人のインターン生を受け入れていただくこともあります。 ①第一次審査(団体審査)：選考基準を満たしている団体には、最大8団体程度までに、結果通知をお送りします。
2. 2019年度の助成事業 ①学生インターン助成は、若者とNPOや市民活動団体が共に成長できる仕組みを作ることを目的としています。学生が一定期間、NPOや市民活動団体にスタッフ見習いとして研修すること(＝インターンシッ	

ブ)の活動を応援します。学生に一定期間、奨励金を渡し活動することによって、若者の積極的な参加を促し、若者世代の継続的な応援者を増やすことを目標とします。学生の中には、奨学金の事情やアルバイトのために、ボランティア活動ができない学生がおり、そのような学生を応援する目的でこの部門が設立されました。また、今年度は学生を受け入れることで、日常業務のサポートだけでなく、特に既存の事業の発展や新規の事業の立上げを行える団体に助成します。	②二次審査(学生審査): 選考基準を満たす学生はマッチングに進みます。 ③マッチング手順 A 団体にすでに関わっている学生がおり、このインターンシップの仕組みを活用したい場合は、そのマッチングを優先。(学生にも申込みフォームから申込みいただきます) B 団体に候補となる学生がおらず、また、学生が申込み時点で、その団体を希望している場合、このマッチングは成立となります。 C 団体に候補となる学生がおらず、学生の希望がなかった場合、今回はマッチング不成立となります。
3. 対象団体 ① 子どもの食事と居場所を支える活動をする団体 例) こども食堂の運営支援、新規設立支援。 ② 子どもの学習を支える活動をする団体 例) 無料学習支援、学びなおしの支援。学用品の物品支援など。 ③ 子どもの体験を支える活動をする団体 例) 自然体験や文化体験などの子どもの心の成長を支える活動を支援。 ④ 若者の社会参加や就労、生活を支える活動をする団体 例) 若者の居場所づくりや就労訓練プログラムを支える活動を支援。困窮学生支援。 ⑤ その他、子どもや若者の未来をつくる活動を支える団体 例) 環境分野の団体で、子どもへの自然体験活動を行っている団体、国際協力分野の団体だが、若者の国際交流活動を行っている団体など。 (1) 助成する団体の条件 ・営利を目的とせず、公益的・社会的な活動をすでに1年以上継続的に行っている栃木県内のNPO・市民活動団体・ボランティア団体(法人格の有無は問わない) ・県南をのぞく、栃木県内全域を対象とし、特に県北の活動団体を優先して助成します。 ・対象となる市町: 矢板市、塩谷町、高根沢町、さくら市、大田原市、那須塩原市、那須町、那珂川町、那須烏山市、宇都宮市、上三川町、壬生町、日光市、鹿沼市、芳賀町、市貝町、益子町、茂木町、真岡市(該当する地域に事務所がある団体か、地域で活動している団体に助成する)	④マッチングを行った上で、助成限度である8人の学生以上がマッチング成立した場合、審査委員会を通して審査を行い、最大8人の学生と、8団体に最終結果通知をお送りします。 * 注意事項/第一次審査の時点で、8団体以上が選考基準に満たしている場合、②と③の(内容) ・4ヶ月間 12日ほど(1ヶ月3日程度×4ヶ月)、団体の必要な業務や、ボランティア活動を行っていただきます。 ・学生インターン生は、1団体につき、1人または2人までを助成します。 ・団体からの推薦者となる学生がいる場合は、その学生を優先します。マッチングまで行い、④の最終結果通知の時点で、落選となることもあります。あらかじめご了承ください。 * 特別追加枠について マッチングの時点で、団体への希望学生が多い場合には、団体が資金を用意すれば、学生にインターンシップに参加してもらえる「追加の枠組」です。オリエンテーションや振り返り会など、同じ枠組みで行います。 (想定される例1) →学生2人が団体Aにインターンを希望し、1人は助成金が通った場合、もう1人は特別追加枠として、参加。 (想定される例2) →学生1人が団体Bにインターンを希望したが、基金で通らなかった。だが、特別追加枠として、参加。
(2) 選考基準 1、子どもや若者の未来の可能性を本気で応援したい団体 2、地域で必要とされ、一般の人に開かれて参加できる活動 3、助成を受けることで、活動の基盤を強化できる団体 4、学生インターンを受け入れる体制が整っている団体 5、学生とともに既存の事業の発展や新規の事業の立ちあげを行える団体	■選考結果 ・村上茉鈴(宇都宮大学): 足尾に緑を育てる会(日光) ・君島玲菜(白鷗大学): うりずん(宇都宮) ・大木陽菜乃(宇都宮大学): うりずん(宇都宮) ・相馬夏妃(国際医療福祉大学): えんがお(大田原) ・藤田はるか(宇都宮大学): オオタカ保護基金サシバの里自然学校(市貝) ・村上朝輝(作新学院大学): キッズシェルター(那須塩原市) ・宮本奈緒(白鷗大学): まちづくりネットワーク笑顔(さくら) ・上野沙織(法政大学): 子ども食堂 森のこびと(鹿沼)

③「とちぎゆめ基金助成」「ゆめSDGs助成」

ゆめ助成、ゆめSDGs助成とも9月に応募開始し、1月に決定したが、コロナ禍で活動が思うようにできず、ゆめ助成は該当者なしであった。いっぽう、SDGs助成は調査助成＋運営助成（2年）と珍しい助成プログラムだったが4件の応募がありうち3件を採択した。

2020とちぎゆめ基金 「持続可能な地域づくり・SDGs助成」 締切 12/25	
1、主旨 この助成は、持続可能な地域社会を作るために、複数の主体が参加して協働する地域課題解決の調査や実施に対して助成を行います。（1年目は調査助成のみ） 国連が決めた「持続可能な社会づくりのための17のゴール（SDGs）」達成は、2030年。複数の目標を地域のみんなで取り組む協働事業の設計（調査）と実施（継続するための仕掛けづくり）のスタートを支援します。みんなで10年取り組めば、地域の課題が解決していく。みなさんの取り組みが他地域へ波及し、持続可能な社会へ変わるきっかけとなることを期待しています。	
2、対象となる事業・条件 ・3～5団体以上の協働での応募であること。 ・持続可能な地域社会づくりの企てで、調査、人材育成、「継続する仕組み作り」に取り組む内容であること。 3、伴走支援： 必要に応じてとちぎコミュニティ基金が伴走支援をします。 4、助成期間： 2020年4月1日～2021年3月31日 5、助成金額・件数： 総額50万円 (1)調査助成：1事業10～15万円×3団体程度 (2)継続するための仕掛けづくり助成（2年目以降）：10～20万円×2団体程度 ※今年度は(1)調査助成のみ募集 6、報告書・成果物 調査助成の場合には、報告書等の成果物、イベント等の開催実績報告書が必要です。	7、応募について (1)応募資格：栃木県内で対象事業を行うボランティアグループ、NPO、社会福祉施設、学校、住民組織等（※営利/非営利、法人格不問） (2)応募方法：①応募申請書（所定の様式）に必要事項を記入の上、郵送かメールで。②応募要項・応募申請書はホームページからダウンロード (3)締切：2019年12月25日（水） (4)選考方法と選考基準 ①とちぎゆめ基金・運営委員等からなる選考委員会で決定します。 ②複数団体による応募を優先します ③地域・地方の複数の課題について、多様な主体が協働して課題解決するとともに、地域社会（全体）の持続可能性（SDGs）への促しを進めるもの。 ④広義の福祉を中心とした応募を優先します。 ⑤波及効果があるもの、他地域、後続団体が真似していけるもの。 ⑥選考結果の発表：2020年1月末、文書で連絡。

④「がんばろう栃木！募金」台風19号復興ボランティア支援

今年は助成を実施しなかった。

(3) 合同ファンドレイジング（NPOの活動資金の援助事業）

①「がんばろう栃木！コロナ支え合い募金」

コロナ禍における支援を強化するために、合同寄付キャンペーンを5月から開始し、13のプログラムのNPO法人とともに寄付を募集している（期間は2022年3月末）。現在**7,113,941円(233件)**の寄付があり、3か月ごとに寄付の配分をした。また、全国のコミュニティ財団と連携して、「**47コロナ基金**」を開設し募金のよびかけを行った。

●コロナ対策プログラム（NPO）募集要項 栃木でがんばるNPOなどの「コロナ対策プログラム」を募集しています。一緒にプログラムを創り、育てましょう。目標プログラム数は30個！ とちコミ特設ページで、一緒に寄付を呼びかけて、この非常事態を乗り越えましょう！ 1、参加できる団体 ・栃木県内で活動するNPOならどこでも。（法人格を問いません） ・たとえば、子どものオンライン学習を支える、耕作放棄地を使った体験活動、リフレッシュできる機会をつくる、食を支える などなど、この非常事態を乗り越えるいろいろなアイデアを募集します。	
2、合同で寄付を呼びかけるメリット ・認定NPO法人への寄付となり、寄付した方が税制控除を受けられます。 ・一緒に呼びかけることで、より多くの人に活動を伝え、共感者を増やすきっかけになります。 3、寄付の集め方 ・寄付者が、応援したい団体を指定して寄付します。 ・寄付の申込みは、クレジットカードと郵便振替からとします。 ・集まった寄付からとちぎコミュニティ基金の事務局経費（20%）を引いた金額をすべて各団体にお届けします。 ・なるべく1団体125万円を目標として寄付を呼びかけてください。（100万円は団体に、25万円は事務局経費）	
■寄付総額（2021/3月末）7,113,941円(233人) N) だいたいじょうぶ 450,057円 N) うりずん 427,657円 N) トチギ環境未来基地 306,857円 N) オオタカ保護基金「サシバの里自然学校」 298,857円	一社) 栃木県若年者支援機構 313,257円 N) チャレンジコミュニティ 397,257円 N) FB うつのみや 1,288,701円 公財) とちぎYMCA 306,857円 一社) えんがお 310,857円 N) キーデザイン 281,490円 N) アニマルセラピー協会 219,890円 N) そらいろコアラ 545,437円 N) もうひとつの美術館 211,890円

②サンタdeクリーン大作戦&eスポーツ

前述P14の通り、子どもSUN SUNプロジェクトの一貫として実施した。

F.【とちぎ県北ボランティアネットワーク】

（概況）2020 年度は新拠点に移転し、新しく活動を再開しようとした矢先にコロナの緊急事態宣言となり、フードバンク以外の活動がほぼ制限された。常勤スタッフ体制も見直し週 2 日の本部からの通いの体制とした（6 月まで）。さらに 7 月からは週 1 日の通い体制とした。ボランティアベースでの運営となり、各事業ごと、日々の連絡、意思決定が滞りがちになったが、一方でフードバンク県北はケース記録（相談表）の入力の分業化をおこない、これまで個人がやってきた記録を皆が共有できるようにした。さらに、F B 食品の定期配布会を 9 月から開催するとともに、『県北通信+県北 F B 通信』を発刊した。

子どもへの支援は、学習ルーム、子ども食堂、ママカフェ等が 6 月まで休止（または弁当配布）、その後徐々に再開したが、いまだに完全な再開には至っていない。ボランティアベースで運営するため、県北事務所内に「スマイルハウス会」を新たに設立し、こども食堂・地域食堂、学習支援、ママカフェなどを本会県北事務所と共同運営している。今期はコロナ禍で「対面」活動ができず、新規のボランティアも、子どもも、地域の人も増えなかった。また、県北事務所全体とのすり合わせが十分でなく、各事業の将来像が見えていないのが課題である

(1)生活困窮者支援

①フードバンク県北

フードバンク県北では、2020 年度は 7.8 トンを受贈、うち 5.4 トン（573 件）を生

活困窮者に寄贈した。コロナ禍であり、イベント等の参加はできなかったが、8 月の FB 県内一斉食品配布会を契機に、毎月第 2 日曜日に定期食品配布会を行った

10 月の「チャリティウォーク県北 18」以降はフードバン

ク県北の知名度が向上して、

昨年の 2 倍の規模の食品を受贈した。支援件数は 47.3 件/月（前年比 +14 件）、提供量は 640 kg/月（前年比 212%）になった。支援先は那須塩原市が多かった。困窮者の相談は社会福祉協議会を通じて寄せられるケースが多いが、行政機関からの紹介や直接来所も増加した。

(2)子どもと親の困窮対策

①「子ども食堂」の運営と「学習支援」

やまのてこども食堂は、新拠点に移動してから、子どもサロン（毎週火）、地域サロン(毎週金)と名称を変更して開催した。子ども食堂は貧困家庭のためのものという偏見があり、食堂から「サロン」に変えた。また、地域の人たちにも来てほしいので子どもも地域の人も来られるように対象・目的を曜日で分けた。子どもサロンは、学習支援を主眼に実施するので給食会社（株）那須ココの協力でおかずの提供を受けた。

今期はコロナ禍であり、両サロンはすべて弁当で対応した。4 月中旬から 5 月は、子どもサロン、地域サロン、学習支援は開催しなかった。

6 月に再開し年間で 89 回実施、のべ 903 人（食）、1 回あたり 11 人の利用があった。ボランティアもののべ 471 人（1

2019年度							2020年度						
入庫			出庫				入庫			出庫			
月	件数	数量	重量kg	件数	数量	重量kg	月度	件数	数量	重量kg	件数	数量	重量kg
4月	20	137	184.9	48	345	250.8	4月	14	633	397.0	55	589	339.0
5月	15	116	152.1	40	222	271.6	5月	11	1276	589.6	35	369	462.0
6月	23	407	254.1	31	232	174.8	6月	24	720	420.8	32	355	321.5
7月	17	130	231.1	39	247	278.3	7月	21	351	406.8	25	324	191.6
8月	32	755	296.6	24	126	122.1	8月	42	640	335.8	68	1440	654.1
9月	34	355	705.4	36	390	426.3	9月	48	570	698.6	50	497	379.0
10月	53	474	569.8	39	450	506.3	10月	50	825	1496.5	46	651	487.2
11月	31	252	285.2	29	228	209.6	11月	20	87	448.8	41	452	459.5
12月	39	297	233.3	25	235	198.0	12月	51	1015	1389.1	53	687	513.8
1月	32	219	232.3	25	262	232.8	1月	32	426	458.6	46	573	374.0
2月	28	700	693.1	27	234	263.8	2月	27	1464	755.2	63	753	610.4
3月	1	4	0.6	41	651	920.2	3月	39	888	453.6	59	990	611.4
合計	325	3846	3838.5	404	3622	3854.6	合計	379	8895	7850.4	573	7680	5403.5
月平均	27.1	320.5	319.9	33.7	301.8	321.2	月平均	31.6	741.3	654.2	47.8	640.0	450.3
前年比	100.9	71.9	92.3	100.2	93.9	86.8	前年比	116.6%	231.3%	204.5%	141.8%	212.0%	140.2%

地域サロン・子どもサロン・学習支援報告										2020年4-2021年3月	
月	実施数	子どもサロン		地域サロン		学習支援		利用者計	ボランティア計		備考
		利用数(食)	ボランティア数	利用数(食)	ボランティア数	人数	ボランティア数				
4月	2回	23	10					23	10		地域サロン、学習支援はコロナで休止、子どもサロンは隔週で弁当配達
5月	0回							0	0		コロナで休止
6月	9回	35	28	46	14	19	12	100	54		弁当
7月	9回	41	17	34	18	30	23	105	58		弁当
8月	8回	49	17	26	12	25	22	100	51		弁当
9月	9回	59	18	35	18	23	26	117	62		弁当
10月	9回	56	26	43	20	24	15	123	61		弁当
11月	7回	38	20	12	16	14	11	64	47		弁当
12月	9回	54	28	30	22	10	11	94	61		弁当
1月	6回	43	8	15	6	0	0	58	14		弁当
2月	7回	42	9	20	12	2	2	64	23		弁当
3月	9回	66	14	20	12	4	4	90	30		弁当
計	84回	506	195	281	150	151	126	938	471		

回に5～6人)、うち学習支援ボランティアは1回に1～2人であった。コロナ第3派の12月～3月も学習支援は実施できなかった。

② 「パパ・ママカフェ」とFBの相談支援

2019年2月から学校を休みがちな子どもたちや、閉じこもりがちな親子を対象に「ママカフェ」を開催してきた。今期はコロナ禍で利用がほとんどなかった。3月からは「パパ・ママカフェ」と名称変更し毎月第4土曜日に実施している。FBや子ども食堂利用者は、話し相手がいなくて孤立している父母が多く「話したい」人が多い。

また、FB利用者への相談支援は、2001年3月から毎月第2土曜のFB食品定期配布会のときに、宇都宮事務所の相談支援員が出張して実施した。県北地域は困窮状態から脱することがなかなかできない家庭が多い。ケース記録によるアセスメント（評価）を実施し制度の利用とともに、継続的な支援と本人たちの成長・変化を促す伴走支援が必要である。そのためには、専門性のある人材の確保と支援ノウハウの伝授、FB・子ども食堂のスタッフによる個別ケースの共有化の必要がある。

3. 事業報告【その他の事業】

実施しなかった。

4. 財政・組織運営

(1) 会員

会員数は**518人（団体27、支持190、賛助303）**、会費は**206万円**になった。会員数はほぼ横ばい状態である。会費収入は昨年より+10万円である。

通常の会員拡大の方策は、①団体会員などの新規会員の拡大、②現会員の継続の2つである。会費の振り込み手続きが面倒であることも予想され、「**つつい未納**」になることが多い。**クレジットカード**での振り込み（ホームページから手続き）、会員総会、Vネットの集い等で**現金で納入**できることも周知している。更に会員更新のお知らせやお礼状を郵送で送ったことも未納者や退会者を最小限に抑えている。

会員拡大は事務局の職員が中心に行うことが多く、声をかける人が限定されているのも会員増加につながっていない、会員になる目的をもっと打ち出せるようにしなければならない。

対応策として従来の人を集める手法に代わる活動を打ち出し、ネット環境を使い多くの人と接点を増やす。また、とちコミの事業やフードバンクなど**ボランティアやファンドレイジングと連動した活動**にするように事業を変えている。

(2) 寄付

年間寄付額は2,673万円になった（前期1,960万円）。今期はコロナ過等の臨時の寄付が多かった。SUNSUNプロジェクトの活動がコロナ禍により停滞した分、新型コロナに関する寄付金が増えた。

とちコミの助成「**たかはら子ども未来基金**」に継続的に拠出する寄付（毎年100万円）があった。

また、NPO法人会計基準によるボランティアの活動時間を「ボランティアによる役務の提供の評価額」とし、

最低賃金で換算して寄付として充当した。今期は**ボランティア活動評価益は 295 万円**となり前期より 46 万円増加した。

現在の寄付金の項目は以下の通り。

① 一般寄付	通常の寄付（災害救援ベンダーの寄付も含む）	銀行引落し 年 1 回とマンスリーサポーター（毎月引落）の方法を選べる。	オンライン寄付 ホームページからクレジット決済ができる。マンスリーサポーターになれる
② 年末年始募金	年末年始のキャンペーン時の寄付。12 月 1 日～1 月末まで		
③災害救援ボランティア基金	災害救援目的の寄付		
④コロナ支えあい基金	コロナ禍に取り組む団体への寄付		
⑤サンクスVクラブ	Vネット“後援会”寄付金(後述)		
⑥フードバンク寄付	フードバンク事業に対する寄付	オンライン寄付 ホームページからクレジット決済ができる。マンスリーサポーターになれる	
⑦プレミアム寄付コース	A：SOSを出している人の人生寄り添いコース：50,000 円 B：創意工夫のある郷土づくりコース：100,000 円		
⑧とちぎコミュニティ基金	「とちコミ」のメイン寄付。認定NPO法人の利点を活かして、 本会特別会計で預かっている ①とちコミ寄付 ②SUNSUN プロジェクト寄付		

（３）事業収入

受託事業収入は**718万円**と昨年より71万円増えた。また**助成金は311,00万円**となった。

バランスのとれた財源構成が重要だが、安定した委託事業等はない。大局的には社会的苦難な状況の時こそ存在意義を発揮し、本来事業を伸ばすことが必要である。寄付をのばすなど、中期計画に沿った努力が必要である。

（４）組織

①会員総会

支持会員・団体会員による会員総会は 5 月 31 日に実施した。

定期会員総会は 132 人出席（うち委任状 117 人）があり会員総会が成立した。議案のすべてが原案どおり可決成立した。また本会員総会に先立って、5 月 23 日に監事による業務監査・会計監査が実施され、会員総会で「適切に事業運営、適正に会計処理」されている旨の監査報告がなされた。

②来年どうするか会議（創出会議）、ボランティアの出番ですよ会議（予算会議）

本会職員とボランティアスタッフを集め来年度の事業を考える**来年どうするか会議**をワールドカフェ方式で開催した。部門を超えて人が交わることで新たなアイデアやチーム（泉が丘おたすけ隊）を生み出すきっかけになった。来年どうするか会議に続き、必要な予算を話し合うために**ボランティアの出番ですよ会議**を実施した。予算の話よりも事業とボランティアのマッチングが主体の会議になった。

月日	会議名/出席人数
11/21	来年どうするか会議 / 23人（進行：矢野）
2/27	ボランティアの出番ですよ会議 / 20人（進行：藤咲）

③理事会

理事会を 5 回開催した。

月日	議題/出席者
5/23 監査	菅又、趙
5/31 第 1 回理事会	① 2019 年度事業報告・決算について ② 理事の退任、新理事の就任について 矢野、二見、徳山、藤田、大金、柴田、飯島、大木本
5/31 第 2 回理事会	① 理事長の選任について /矢野、徳山、藤田、大金、柴田、飯島、大木本、山本、荻津
11/5 第 3 回理事会	① 上半期の事業報告について /矢野、荻津、徳山、大木本、飯島、大金、藤田、高久
1/29 第 4 回理事会	① 規定について /矢野、中野、藤田、大金、柴田、徳山、大木本、飯島、荻津
3/31 第 5 回理事会	① 2021 事業計画・予算について /矢野、徳山、大金、塚本、藤田、大木本、廣瀬、飯島、荻津

⑤職員会議・ケース検討会

第2・4水曜10時から、**職員会議**を毎月2回開催した。うち1回は運営委員会とした。総合相談支援センター運営の情報共有と事業執行についての会議をおこなった。**ケース検討会**は第1・第3水曜に総合相談支援センターのケースの情報共有を行った。対面だけでなく、zoomでも参加できるようにした。

●運営委員会・職員会議	4/8、4/22、5/13、5/27、6/24、7/8、7/22、8/12、8/26、9/9、9/23、10/14、10/28、11/9、11/25、12/9、12/23、1/13、1/27、2/10、2/24、3/10、3/24
●ケース検討会	4/1、4/15、5/20、6/2、6/17、7/1、7/15、8/5、8/19、9/2、9/16、10/7、10/21、11/2、11/18、12/2、12/16、1/6、1/20、2/3、2/17、3/3、3/17

⑥若者会議、Vレンジャー

(ア) 若者会議

Vネットに関わる学生や若者ボランティアが増えたことを受け、交流や新たな活動の創出を目的に、若者を大賞に会議をおこなった。ラジオ学生やVレンジャー、フードバンクのボランティア等が計15人参加した。積極的に行動する同年代の話を聞いたり、ボランティアや子どもの貧困について話し合ったりすることで、「自分ももっと視野を広げて行動したい」、「ボランティアに対する見方を共有できた」などの感想を聞くことができた。

日時	内容	参加者
1/16	第1部 先輩に聞く「Vネットと私」体験談 第2部 ボランティアとは〇〇だ！WS 第3部 フードバンクと子どもの貧困勉強会	計15人参加 〈対面〉宮坂、松葉、山崎、村上、田中、大小原、三上、中村、廣居、大木本 〈zoom〉佐藤、藤倉、木原、佐藤、他1人

(イ) Vレンジャー

Vレンジャー会議は月に2～3回おこなった。企画についての打ち合わせや、企画直前は準備をおこなった。さらに、会議の他に親睦を深めるための時間を設けたり、新メンバーが参加した際は随時活動の紹介をしたりした。

月 / 回数	詳細
4月 会議4回	4/1会議（小林、棚網、阿部、小沢、大木本）、4/9会議打合せ（小林、大木本、矢野、宮坂）、4/15会議（小林、中村、山崎、浅野、大木本、松葉、並木、小沢、矢野、左雲、宮坂）、4/22会議（小沢、小林、山崎、宮坂、松葉、大木本）
5月 会議3回	5/2会議（小林、山崎、小沢、中村、田中、大木本、松葉、宮坂）、5/16会議（小林、田中、山崎、小沢、中村、松葉、大木本、宮坂）、5/30会議（中村、山崎、小沢、小林、田中、松葉、大小原、大木本、宮坂）
6月 会議2回	6/6会議（小林、山崎、小沢、中村、田中、大木本、松葉、宮坂）、6/23会議（小林、山崎、松葉、宮坂）
7月 会議2回	7/14会議、7/28会議（小林、山崎、村上、中村、大小原、大木本、宮坂）
8月 会議6回 活動2回 企画1回	8/4会議、8/8活動説明会（宮坂、中村、大小原、村上、大木本、松葉、田中、山崎）、8/9トチギ環境未来基地竹伐採ボラ（3人）、8/10AM竹の水鉄砲づくり（田中、大小原、上野、小林、村上、宮坂）こどものとなり佐野ボラ（4人）、8/21会議（小林、中村、山崎、小沢、村上、大木本、松葉、宮坂、廣居）、8/25会議（中村、山崎、村上、宮坂、小林、大小原、松葉、大木本）、8/27会議、8/28会議、8/29子どもデイキャンプ@塩谷
9月 会議2回 活動1回	9/8会議（松葉、大小原、中村、佐々木、村上、大木本）、9/22いちかい子育てネット羽ばたき・稲刈り（村上、小澤、廣井、宮坂）、9/29会議（大小原、村上、廣井、大木本、山崎、宮坂）
10月 会議2回	10/20会議、10/31会議（小浜、大小原、三上、山崎、松澤、村上、上野、畑沢、廣居、小林、大木本、宮坂）
11月 会議2回	11/12会議（伊東、大木本、大小原、中村、畑沢、廣居、三上、村上、山崎、山本）、11/27会議（宮坂、山崎、大小原、松葉、大木本、中村、村上、廣居）
12月 会議3回	12/10打合（5人）、12/11 会議（11人）、12/23会議（3人）
1月 会議2回	1/15会議（7人：山崎、村上、布施、大木本、大小原、小林、宮坂）、1/22会議（10人：山崎、廣居、村上、大小原、中村、三上、伊東、松葉、大木本、宮坂）
2月 会議3回	2/10会議（廣居、山崎、村上、布施、大木本、大小原、小林、宮坂）、2/17会議（大小原、山崎、村上、中村、廣居、宮坂、松葉、大木本）、2/26打合せ（廣居、山崎、大木本、宮坂、田中）
3月 会議2回	3/9 会議（山崎、宮坂、廣居、村上、鳴埜）、3/25会議

(5)チームの会議・活動日

①新聞切り抜き隊+しみん情報玉手箱

…毎週水曜日 13時半から活動を行う。各自新聞の切り抜きを持ち寄り、ファイリング、要約、パソコンへ入力を行う。情報の収集・提供のためのボランティアチーム現在 3～4 人。

② フードバンク会議

…毎週木曜12:00から会議。3月からは14:00から会議となった。(詳細は、F Bで報告)

③サンクスVクラブ(後援会)

サンクスVクラブは年間2万円以上の寄付をいただいた人が来られる寄付感謝会である。メンバー制をとっているが、クラブ員の高齢化のため、参加が少ない。年2回の定例会(親睦会)を行う「ゆるやかな」つながりが持てる会であるが、参加方法、内容などの見直しが必要である。今期はコロナ禍であるが、感染に注意して屋上で2回開催した。

サンクスVクラブ 会則 2005年7月30日 (第1条) 本会はサンクスVクラブと称する。 (第2条) 本会の事務局を宇都宮市塙田2丁目5番1号とちぎボランティアネットワーク内に置く。 (第3条) 本会はとちぎボランティアネットワークの応援をすることを目的とする。 (第4条) 本会は前条の目的を達成するため次の事業を行う。	1. 寄付に関すること 2. クラブ員の親睦に関すること 3. その他、目的達成に関すること。 (第5条) 本会は栃木県内のボランティア、NPO、企業及び本会の目的に賛同するものを会員とする。 (第6条) 本会に次の役員を置く。 〔1〕 代表 1名 〔2〕 副代表1名以上	〔3〕 会計 1名 (第7条) 本会の経費は寄付金、その他の収入をもってこれに当てる。 (第8条) 本会の会計年度は毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。 役員名簿 代表:高橋昭彦さん 副代表:高木敏江さん 会計&事務局:菊池順子
サンクスVクラブ 9/27 (24人)、3/28 (13人)		

監査報告

2020年度の業務および、一般会計決算書、特別会計決算書は監査の結果、適正に処理されていることを報告します。

2021年 月 日 監事

監事

2021 年度事業報告書

1、全体の報告(成果と課題)…	16
2、事業報告…	17
A ボランティアセンター…	17
B フードバンク宇都宮…	19
C 災害救援…	22
D NPO活動推進センター…	25
E とちぎコミュニティ基金…	29
F 県北Vネット…	34
3、その他の事業…	36
4、財政・組織運営…	36

1. 全体の報告（成果と課題）

①知名度が増したとちぎコミュニティ基金

前期から行ってきた「とちぎのミライをつくる大会」は助成金活用の報告会のみならず、県内の主要なNPOの交流の場として重要な役割を果たした。参加者から「他団体との交流が持ててよかった。」と好評を得るなど、とちぎの存在や知名度を高める重要な大会となった。

合同ファンドレイジングイベントについては、サンタ de ランのほかにチャリティウォーク(CW) 県北・宇都宮を加えることになった。CWは大田原市と宇都宮市の2か所で開催することができ、前期を上回る寄付金を集めることができた。

②社会福祉士を活用した総合相談体制の確立

フードバンクへの困窮者の訪問が前年度比 1.28 倍(1,658 件)に増えた。それに伴い職員スタッフの相談に対する負担が増えていた。対応策として、相談ボランティアの増員と社会福祉士の資格を持っている3名を相談員に配置した。制度では解決できない多種多様な相談事例に対応することで、社会問題を解決するソーシャルワークを担う下地作りができてきた。本会の相談事例をもとに行政に対して政策を提言する関係づくりを構築する必要がある。

独立型社会福祉士事務所開設から3年が経過したことにより、社会福祉士養成のための実習生の受け入れを開始し、1名の実習生を受け入れた。

③期待値が高いユニバーサル就労支援事業

働きづらさを抱えているすべての人の出口の一つとして、ユニバーサル就労研究会を立上げて取り組んできた。昨年10月17日にユニバーサル就労ネットワーク栃木の発足会を行った。発足会に参加した行政職員も関心と期待が高いことを実感した。しかし、受入れ先の認定就労訓練事業所の登録数が少なく、現状では利用者と企業のマッチングが困難なことが判明した。受入れ企業の開拓により5社増やすことができたが、更に多種多様な受入れ業者が必要である。受入れ企業の開拓や、業種毎の研修プログラムの整備が急務である。

④資金助成や団体基盤強化を行う「休眠預金事業」

2020 年度末に、日本民間公益活動連携機構(JANPIA)の「新型コロナウイルス対応緊急支援助成」の資金分配団体として応募し、本会・とちぎコミュニティ基金が採択され1900万円を配分した。

休眠預金事業の実施で、栃木県内のNPOや市民活動にあらたな財源と伴走支援のしくみができることになった。団体自ら周囲を巻き込んでいくファンドレイジングやボランティアコーディネートを高めていく組織基盤強化に重点を置いている。今期も資金分配団体に採択され継続化する事業となっている。

⑤活性化した県北事務所

県北事務所はコロナ禍の影響で子ども食堂など対面による活動が停滞していたが、**チャリティウォーク県北やクリスマスウォーク**の開催で30代から60代のボランティアの寄付集めが成果を上げている。

毎月第2土曜日の**食品配布会**も定例となっている。

次期は3年間の日本財団の**子どもの第3の居場所事業**の助成金も獲得した。高齢の既存スタッフの世代交代と助成事業終了後に自主運営ができる寄付金を集める体制づくりが課題である。

⑥Vレンジャーなど若者ボランティアの活躍

学生若者ボランティアチーム「**Vレンジャー**」や、**みんながけっぷちラジオ学生、しもつけ自然のアルバムインターン学生、フードバンクインターン学生、ボランティア**など、**総勢50人を超える**学生が集まっている。本会で実施した、アイデア出しとボランティア間の交流を目的とした「**来年なにをするか会議**」や「**来年これしたいコンペ**」にも若者ボランティアが積極的に参加した。若者からは「自分にもやれることがたくさんあると気付いた」「大学生活では出会えない大人と出会えていい機会になった」などの感想があった。チームを横断して交流が生まれ、お互いの活動への行き来を通じて視野が広がることで、積極的に活動に参画する若者も増えている。また、前期から実施している年に1回の「**若者会議**」は、若者ボランティアの有志が企画・運営から携わった。社会問題の学びの機会になった。今後も若者が社会とつながり、課題を考える場をつくり、成長を促していく。課題としては、学生かつボランティアという特性上、入れ替わりが激しい中で、ボランティアマネジメントを効果的に行えるスタッフ・ボランティアの育成が求められる。

⑦コンテンツが充実したラジオとYoutubeやネットによる発信

「**みんながけっぷちラジオ**」、「**次世代に伝える原発避難10年目ラジオ**」を宇都宮コミュニティFM「**ミヤラジ**」で放送した。またSAVE JAPANプロジェクトの「**しもつけ自然のアルバム**」を下野コミュニティFM「**FMゆうがお**」で放送した。各放送とも動画撮影を行い、**Youtube (VCHANNEL)**でも視聴できるようにした。コンテンツの数も増え、SDGsに関する話題も豊富にある。しかし、視聴回数が2桁回数に留まっているので、声掛けなどの地道な広報が必要である。

ブログやSNSについても発信回数を増やし、閲覧回数を飛躍的に伸ばした。

⑧コロナ禍で加速、フードバンク利用件数2年で2倍

コロナ禍において「**困窮者**」と「**困窮者を助きたい人**」を結ぶ受け皿として機能した。食品配布会では、県北、宇都宮と合わせ**1,929世帯**へ食品を届けることができた。2年間で、相談件数は2倍の1,658件、食品寄付(40.1t)と食品支援(38.9t)はともに4倍に増えた。困窮当事者だけでなく行政や社協の現場担当者からの「**フードバンクがあってよかった**」の声に支えられ、国内でほぼ唯一の相談援助機能があるフードバンクとして「**私たち自身によるセーフティネット**」が機能したことを証明する結果となった。

しかしながら、県内の困窮者の数は減少していない。当事者・担当者だけではなく、広く社会にフードバンクを知ってもらい、ともに協力していくことが必要である。

2. 事業報告

A. 【ボランティアセンター】

(1)総合相談事業（ボランティアとNPOに関する啓発普及等事業）

ボランティアしたい希望者に活動の場を紹介し、「ボランティアの応援求む」SOSニーズに対応するため需給調整をし、困難ケースは解決を図った。個別SOSの解決は「総合相談支援センター」が担っている。

①総合相談支援センターの運営

総合相談支援センターは、F B うつのみやでのSOS対応とその後の生活支援、さらに若者支援や社協の困窮者自立支援事業からの依頼ケースに対応するため本会が行ってきた「**個別のSOSに同行支援する方法**」を全面的に公開して実施した。この事業ではボランティアの個別性・柔軟性を最大限に活用することが、これからの地域福祉推進に必要な能力と考える。

【表1 相談者の状況のまとめ】

	のべ (回)	月平均 (回)	実数 (件)	内複数回 支援(件)	宇都宮市内/市外 ()は住所不定	世帯の人数	男/女
2012年度	30	2.5	30	5	19(9)/11(1)	単身:23、2人:5、3人以上:2	22/8
2013年度	75	6.25	46	11	32(10)/14(1)	単身:27、2人:14、3人以上:5	28/18
2014年度	196	16.08	135	25	72(47)/16	単身:101、2人:11、3人:6、4人:3、5人:5、6人:1、7人:3、10人:1	106/29
2015年度	243	20.25	165	49	102(11)/65(25)	単身:140、2人:25、3人:11、4人:7、5人:6、6人:4、8人:1	118/47
2016年度	350	29.8	185	49	144/18(23)	単身:126、2人:33、3人:10、4人:10、5人:3、6人:1、7人:1、10人:1	124/61
2017年度	572	47.7	248	182	177/15 (29)	単身:158、2人:35、3人:11、4人:11、5人:6	160/61
2018年度	685	57.1	304	159	272(32)/32(20)	単身:218、2人:49、3人:19、4人:9、5人:4、6人:4、7人以上:1	217/87
2019年度	828	69.0	366	177	327(25)/39(7)	単身:271、2人:51、3人:26、4人:13、5人:3、6人:2、7人以上:0	261/105
2020年度	1298	108.2	495	247	446(29)/49(10)	単身:368、2人:74、3人:36、4人:10、5人:4、6人:0、7人以上:3人	340/155
2021年度	1658	138.25	542	290	514(28)/28 (5)	単身:377、2人:75人、3人:62人、4人:17人、5人:5人、6人:2人、7人以上:4人	353/189
【全世帯】542世帯 —2021年度— ●主な困窮の内容(複数): 仕事探し・失業・就職、290 病気・健康・障害 67、住居 9、金銭管理・所持金無し 393、精神疾患・人間関係など 34、日々の生活(低年金)212、債務(家賃滞納など含む) 37、子育て・介護 10、DV・離婚など 7 ●生活保護の世帯数: 受給利用中: 88、手続き中: 38 ●本会までの経路: 自治体(生活福祉課・子ども家庭課・保健所など) 163、社協(県内社協含む) 51、宮ハローワーク 13、地域包括支援センター13、NPO1、ネット・テレビ 28、その他 83 【住居なし】24世帯 ●男女比は、男 20:女 4 単身 24世帯 ●困窮の内容(複数) 仕事探し就職 8、ホームレス 19(うち車上生活 2、移動中 4)、住居 1、精神疾患・人間関係 5、収入生活費・低年金 4、病気・健康 3、離婚 1、孤立 3 【女性相談者】189世帯 ●単身 86/世帯持ち 103(内、母子家庭 2-子育て世代 2) ●困窮の内容(複数): DV離婚など 5、病気・精神疾患 41、仕事探し・失業 3、金銭管理不能・債務 23、DV1、無・低年金 1、子育て・介護 1							

「とちぎボランティアネットワーク独立型社会福祉士事務所」として総合相談支援を行い、行政や社会福祉協議会、地域包括支援センターなど数多くの支援実績を積むことができた。今期の支援件数は542件(世帯)のべ1659回と、回数は前期の**1.28倍**になった。「個別SOSへの対応とともに社会課題の解決を図る」部門として自立的な活動が定着しつつある。

奨学米プロジェクトは23世帯(のべ60回)、奨学米524kg、食品486kg、野菜配送41回となった。従来通りの活動であり支援対象世帯は増えなかった。しかし継続的な個別支援をするなかで、児童相談所や市役所の子ども家庭課との連携もできた。

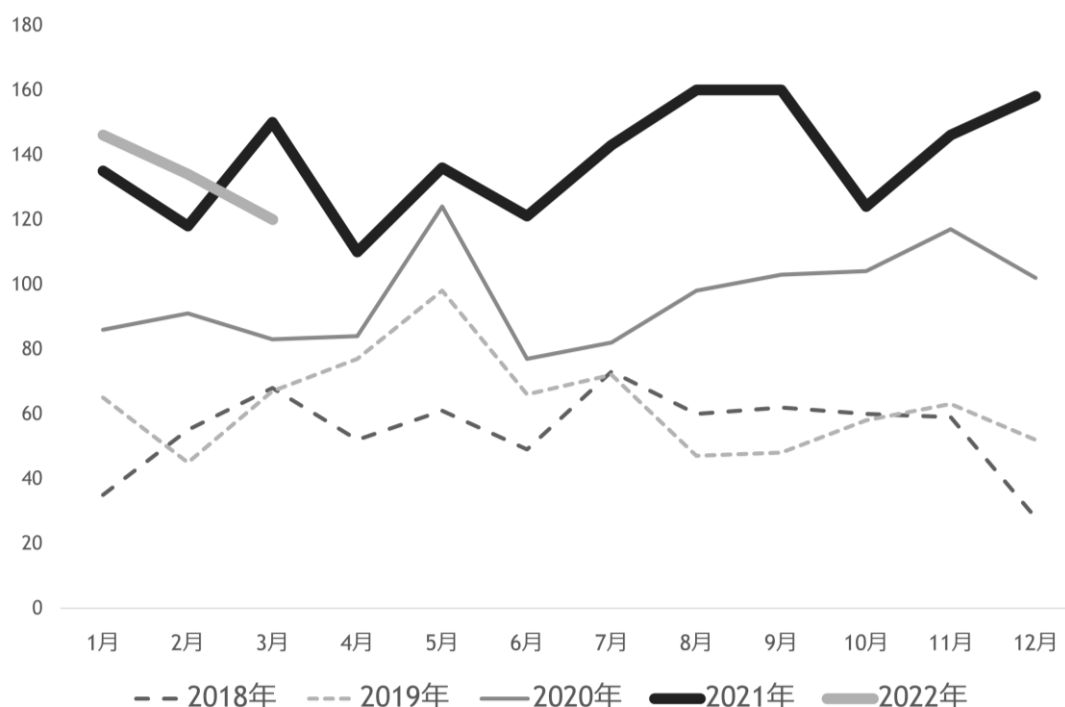
表1は相談者の状況のまとめである。母子家庭など地域で定着している困窮者(世帯)への支援方策は見えてきたが宇都宮の母子家庭だけで2700世帯(推定)あり、掘り起しが必要である。

表2では、2018年度から2021年度のフードバンク利用回数を月別に表した。2021年度は前年度、全々年度に比べどの月も利用回数が多い。増加の要因としては①コロナ禍で実際に困窮する人が増えたこと、②フードバンク自体の認知度が高まったこと、③複数回の利用者が増えたこと、つまり一度の支援では生活が立ち直らなくなっていることが考えられる。

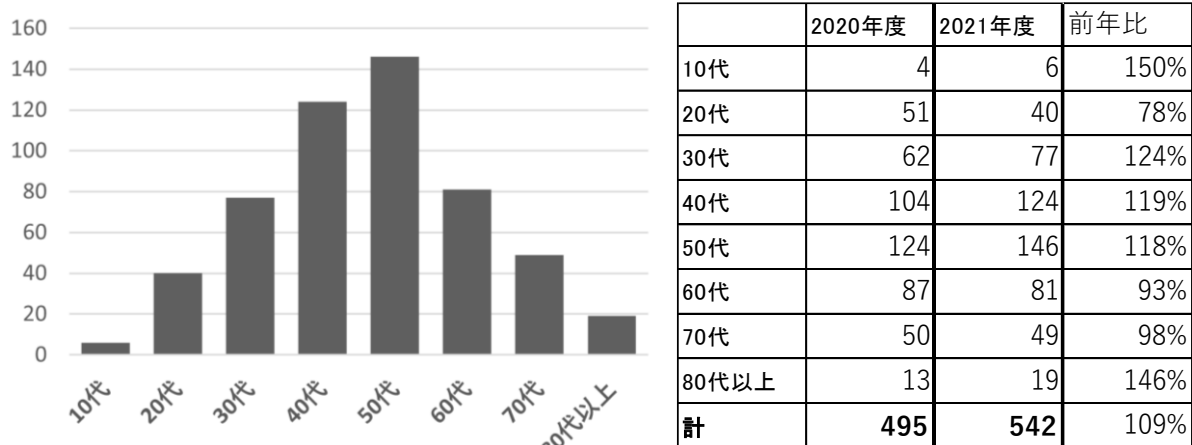
表3では、2021年度の世代別利用世帯数を表した。2021年度は前年度と同様、50代が146世帯、40代が124世帯と、働き盛りや子育て世代の利用が多かった。その他、10代、30代、80代以上の利用も増加した。ただし、記録

は相談者の代表者の年代であるため、子育て世帯の困窮≡子どもの貧困も視野に入れる必要がある。

【表2 フードバンク利用回数（月別：2018～2022年度）】



【表3 世代別利用者数（2021年度）n=542】



②コールセンター栃木の運営支援

今期も厚生労働省社会的包摂ワンストップ相談支援事業を（一般社団）社会的包摂サポートセンターを通し「コールセンター栃木」の運営をした。栃木では16人のスタッフで年間2205件の電話相談に対応した。そのうち同行支援の必要があるものについては、継続相談員が直接面会をするなどの同行支援をおこなった。

（2）ボランティア・コーディネーション事業（ボランティアとNPOに関する啓発普及等事業）

①キャンプで救う子どもの貧困、Vレンジャー

「キャンプで救う子どもの貧困」をテーマに、子どもの「体験の貧困」をなくすために活動する若者ボランティアチーム、Vレンジャー。2019年夏から活動を始め3年目の活動になった。2021年度は子ども向けお便りと動画の作成（全4回：8～10月）、子どもの部屋たんぼぼとのオンライン企画（6回：9月～）、年間で計23回の会議をした。8月にキャンプ、2月に凧揚げ企画を予定していたが、新型コロナの緊急事態宣言の影響でどちらも中止となった。子ども向けの企画の他に、ボランティア募集のための活動説明会や、他団体主催の企画への参加、子ども食堂のボランティアもした。新聞等のメディアにも取り上げられ、活動の認知度が高まった。今年度で新しく大学1年生が14人増え、現在計30名で精力的に活動している。

企画名	主催	日程	外部参加者	参加者
春企画@塩谷	V レンジャー	4/4	—	10 人：山崎、廣居、村上、三上、吉沢、青木、宮坂、大小原、大木本、布施
新メンバー歓迎会	V レンジャー	5/9	—	14 人：鎌田、山崎、廣居、大小原、村上、田中、芳賀、高橋、山本、佐藤、宮坂、伊東、寺崎、田代
子ども食堂ボランティア	上大曾てらこや食堂	6/13	—	2 人：大小原、宮坂
子ども食堂ボランティア	宮っこ元気食堂	7/12	—	2 人：宮坂、村上
子ども食堂ボランティア	宮っこ元気食堂	8/9	—	2 人：宮坂、中島
子ども食堂ボランティア	宮っこ元気食堂	8/23	—	1 人：廣居
子ども食堂ボランティア	宮っこ元気食堂	9/13	—	1 人：中村
オンライン企画①	V レンジャー、子どもの部屋たんぼぼ	9/21	—	2 人：宮坂、菅原
オンライン企画②	V レンジャー、子どもの部屋たんぼぼ	9/28	—	2 人：佐藤、芳賀
子ども食堂ボランティア	宮っこ元気食堂	10/11	—	1 人：中島
子ども食堂ボランティア	上大曾てらこや食堂	10/23	—	2 人：中島、宮坂
オンライン企画③	V レンジャー、子どもの部屋たんぼぼ	10/26	—	2 人：芳賀、中島
子ども食堂ボランティア	上大曾てらこや食堂	11/13	—	2 人：中島、高橋
植樹体験@足尾	足尾に緑を育てる会	12/5	子ども 2 人、大人 2 人	14 人：山崎、中村、中島、芳賀、土崎、小林、菅根、山本、佐藤、高橋、菅原、廣居、村上、宮坂
子ども食堂ボランティア	上大曾てらこや食堂	12/11	—	2 人：中島、佐藤
オンライン企画④	V レンジャー、子どもの部屋たんぼぼ	12/27	—	2 人：高橋、廣居
オンライン企画⑤	V レンジャー、子どもの部屋たんぼぼ	12/28	—	1 人：山本
オンライン企画⑥	V レンジャー、子どもの部屋たんぼぼ	1/6	—	2 人：佐藤、廣居
子ども食堂ボランティア	宮っこ元気食堂	1/10	—	2 人：伏本、阿部
子ども食堂ボランティア	宮っこ元気食堂	3/28	—	1 人：菅原
こどもの居場所ボランティア	子どもの部屋たんぼぼ	3/30	—	2 人：佐藤、茨木

（3）講師派遣事業（ボランティアとNPOに関する啓発普及等事業）

ボランティア活動、NPOの啓発普及のため役職員等を講師として派遣した。派遣は**28回**（聴講数のべ723人）で講義回数聴衆とも前期の倍増した。講義内容はコロナや困窮世帯のこと、災害など多様であった。

	回	月日	講座名（内容）	主催等	場所	講師	聴衆
1	8	4/23～	「ボランティア論」	宇都宮短大	宇都宮	矢野（小澤・宮坂）	80
2	2	4 月	「FB 活動について」	シルバー大学中央校	宇都宮	伊東	90
3	4	6/22～	「国際 NPO 起業論」集中講義	宇都宮大学・大学院	事務所（ZOOM）	矢野	32
4	3	7/3-4	「全国ボランティア推進団体会議（民ボラ）」3 講義＝①「原発避難」全体会、②災害分科会、③コロナ禍の中間支援団体の財源	本会含む実行委員会（大阪ボランティア協会）	大阪	矢野	75
5	1	7/17	那須塩原子ども SUNSUN プロジェクト・発足シンポジウム	那須塩原子ども SUNSUN プロジェクト	那須塩原	矢野（塩澤）	100
6	1	9 月	ふれあいコープ職責者学習会「コロナ禍でのフードバンクの活動」講師	（社福）ふれあいコープ	宇都宮	小澤	30

7	1	10月	「障害福祉と支援」司会&講師	障害者のひとり暮らしを考える会	宇都宮	宮坂	20
8	1	11月	NPO論（FBと子どもの貧困）	独協医科大学・看護学部	壬生	矢野	120
9	1	11月	宇都宮ロータリークラブ卓話	宇都宮ロータリークラブ	宇都宮	徳山	30
10	1	12月	「コロナ禍の子どもの貧困」講義	国際ロータリー栃木地区	宇都宮	矢野	6
11	1	12月	FBとは：活動説明会	三栄不動産	宇都宮	伊東	12
12	1	1月	「地球異変下の災害と復興シンポ」講師	関西学院大学災害復興制度研究所	兵庫・西宮	矢野	50
13	2	1月～	震つな・移動寺子屋「27年目のボランティア文化」パネリスト	震災がつなぐ全国ネットワーク	事務所（ZOOM）	矢野	70
14	1	3月	高校生ボランティア講座	NPOこどものとなり佐野	佐野	矢野	8

事業報告 B.【フードバンク】

(1)フードバンク事業（生活困窮者の支援）

賞味・消費期限内の食品を無償でいただき無償で配るフードバンク（FB）活動は、今期は **40.1 トンの食品受贈**があった。企業や農協協同組合そして通販で食品を寄付してする人が増加した。

直接支援を求める人の数はP2に記載されている通りだが、増える相談者に対して相談支援のほかに食品配送、回収、管理ボラなどの運営スタッフを増やしていく必要がある。

月	受贈量 (kg)	寄贈量 (kg)
4月	1878	3174
5月	2338	2647
6月	3284	3434
7月	1638	2468
8月	2438	2961
9月	4549	3651
10月	6075	2947
11月	3425	3833
12月	6665	3342
1月	2361	4684
2月	2394	3606
3月	3119	2582
合計	40,163	39,329
前年 (2019)	36,724	37,135
増減	+3,439	+2,194

コロナ禍でバイト、日雇い、非正規で就労している人の生活が苦しくなっていることで、食品配布会を対面及び宅配便を使って **11回実施、1,353 世帯**に配布した。配布会に伴いアンケート等で大学生からはコロナ禍前は3食食べることができていたが、コロナ禍においては2食しか食べることができない人がいることを実感した。その他外国籍・外国ルーツ人たちについても困窮している人が多いことが判明した。

食品配布会：11回

1.4/10: 84セット 手渡し 2.5/15 72セット 手渡し 3.6/26:201セット 手渡し 4.8/7: 75セット 手渡し 5.9/11: 75セット 宅配 6.10/13 120セット 宅配便 7.11/12 200セット 宅配 8.12/4 121セット 9.1/15 120セット 宅配便 10.1/29 120セット 宅配便 11.2/11 120セット 宅配

① フードドライブの実施、及びきずなボックスの設置

フードドライブの食品受口として**食品受付箱（以下：きずなボックス）**を設置するため公共施設、店舗、会社事務所、病院、寺院等の **23 か所**に設置した。一定の宣伝効果があるが、きずなボックスの食品受取は、管理する店舗の善意とボランティアによる回収が前提なので、今期はコロナ禍の影響もあり3か所増えたのみだった。

フードドライブ（FD）を定期的の実施した（**とちぎコープ、宇都宮市役所ゴミ減量課、ハーベストウォーク**）。また市内・光琳寺では毎月1日に境内で行うラジオ体操時にFDを実施した。3月は新型コロナウイルスの影響で全部中止となった。

一方でFDでの食品量増加に伴い、セカンドハーベスト・ジャパンからの供給される飲料や冷凍食品など「ストック食品の優先順位が低い」ものの受け入れはほとんどしなかった。今後は、新型コロナの影響で困窮者が増えることが予想される。**倉庫、ボランティア、食品、資金の調達**が急務になっている。

「きずなボックス」・「食品受付窓口」設置場所

No	設置場所	団体名(住所)	No	設置場所	団体名(住所)
1	戸祭地域コミュニティセンター	戸祭地区 民生委員・児童委員協議会(宇都宮市戸祭 1 丁目 10-25)	14	さくら・ら心療内科	(宇都宮市桜 3 丁目 1-36)
2	とちぎコープ越戸店(サービスカウンター)	とちぎ生活協同組合(宇都宮市越戸 3 丁目 12-9)	15	協立診療所	栃木保健医療生活協同組合(宇都宮市 宝木)
3	とちぎコープおもちゃのまち店(サービスカウンター)	とちぎ生活協同組合(壬生町至宝 3 丁目 12-31)	16	ふたば診療所	栃木保健医療生活協同組合(宇都宮市)
4	とちぎコープ鶴田店(サービスカウンター)	とちぎ生活協同組合(宇都宮市鶴田町 861)	17	はやぶさ交通㈱	(宇都宮市江曾島町 1 1 8 1-3)
5	ヒカリ座	ヒカリ座(宇都宮市江野町 7-1-3)	18	しのいの郷	社福) 房幸会(宇都宮市上小池町)
6	やさいくだもの村さくら店	(宇都宮市松原 2 丁目 2-51)	19	末日聖徒イエス・キリスト教会	(宇都宮市幸町)
7	宇都宮市役所・ゴミ減量課	宇都宮市(市役所 12 階)	20	浄鏡寺	(宇都宮市塙田 2 丁目)
8	光琳寺(毎月 1 日のみ)	(宇都宮市西原 1 丁目 4-12)	21	アカデミックロード宇都宮校	アカデミックロード AR(宇都宮市伝馬町)
9	恵光寺	(宇都宮市下栗町 2255)	22	栃木県ボランティア活動振興センター	(宇都宮市若草 福祉プラザ 1 階)
10	栃木県社会福祉士会事務所	(宇都宮市若草 福祉プラザ 1 階)	23	宇賀神新聞店(集金日に回収) 電話 028-625-0870	(宇都宮市上戸祭 2 丁目 1-45)
11	宇都宮卸商業団地協同組合事務所	(宇都宮市問屋町 3 1 7 2-1)	24	ファミリーマート(五代二丁目店)	(宇都宮市五代二丁目)
12	JU 栃木	(宇都宮市上欠町 1021-3)	25	ファミリーマート(緑野店)	(宇都宮市緑野町)
13	ミヤラジ	(株)宇都宮コミュニティーメディア(宇都宮市江野町 7-8)			

フードドライブ：20 回

- ・毎月 1 日(金)光琳寺 FD(きずな BOX 設置) 12 回
- ・4/4：とちぎコープおもちゃのまち店 FD(石江、徳山)
- ・5/16：地球思いやりマルシェ FD(徳山)
- ・5/18：いちごハートネット FD
- ・10/2:ECO テック&ライフ栃木 2021 FD

- ・11/14：地球思いやりマルシェ FD(徳山)
- ・11/18：JU 栃木チャリティーオークション FD(木下)
- ・11/7：とちぎコープ越戸店 FD(石江、釜)
- ・3/27：ハーベストウォーク(伊東、白鳳大生2名)

② F B 食品の利用「奨学米プロジェクト」

学齢期の子供がいる低所得の母子家庭等に対し毎月定期的に米を提供し、浮いたお金で学用品などを買ってもらう「奨学米プロジェクト」を実施した。月 1 回の米の他に、合間に**野菜・パンの配達**もボランティアによって実施した。母子家庭のほとんどは働いているが非正規が多く、また生活・通勤に都合で自家用車を持っている場合、生活保護を受けられない。低所得のうえ社会保障の給付の枠組みから外れていて、事実上生活保護以下の暮らしをしている人も多い。

「お母さんたちは毎月定期的に支援者と話すことで困り事を言える状況が生まれ、母子家庭の孤立を防ぐことが主眼である」が、相談体制がうまく構築できず、支援世帯数も増やせていない。日夜働きつめの母との接点の時間がないことが原因である。引き続き**女性支援ボランティア等**を育成し、お母さんの悩みを聴ける体制を整える必要がある。

学齢期にある生活困窮家庭への“奨学米”プロジェクト要項

1. 目的 2010 年度の国の調査では、母子家庭のうち 65%が年収 180 万円以下であり、夫婦 2 人世帯の平均年収では 300 万円以上の差がある。また国民の相対的貧困率は 16.1%であるが母子家庭の貧困率は 54.3%である。様々な事情で身内や地域に頼れない人も多くフードバンクに頼れない(頼らない)人も多い。さらに 2014 年度に本会・フードバンク(FB)宇都宮が、女性(世帯)へ支援した割合は 3 割であり、非常に少ない。 こうしたことから、F B うつつのみやでは学齢期の子供がいる母子家庭等に対し、米による家計負担の支援を定期的に行い、同時に生活の	②対象世帯数 20 世帯。米の確保、倉庫の課題が解決されれば対象者数の増加も検討する。 ③米保有量は 4.8 t (10 k g × 12 月 × 20 世帯) ④配送方法は原則としてボランティア等が相手宅まで届ける。配送の際に相手宅の玄関をまたぐことが関係構築や状況把握の上で重要と考える。(場合によってはフードバンク事務所に本人が来ることも可とする。) ⑤配送日は原則として、火曜日 13:30-17:00。対象者の都合が悪い場合は要相談。
--	---

相談を行うことで困窮母子家庭の生活支援をしていく。 母子家庭等と、本会職員・ボランティアがつながりを持つことによって、何か困った時に頼ることができる関係＝縁を作り、一緒に頑張って解決できるようにすることが重要である。 2、対象者 ・原則として県央地区に住む学齢期の子供がいる母子家庭等、20世帯 ・低所得（例/3人家族で月収20万円、年240万円以下）の世帯であり、身内や友人にたよることが難しい世帯。 ・生活保護世帯は対象外とする。 3、内容 ①1か月白米10-30kgの支援を毎月行う。対象世帯の人数と状況を勘案し決定する。	⑥受付はVネット事務所（028-622-0021）で行う。 ⑦ボランティアは5人程度募集。同じ人が同じ家庭に継続的にかかわる。 ⑧保管は米で行いその都度精米する。保管場所は、当面F B大田原の倉庫とするが、宇都宮近郊で倉庫を探していく。 ⑨配送社はF B所有の車両やボランティアの自家用車とする。 4、広報 ・米募集…インターネット及び、チラシを作成しJ Aやコープ等に営業。 ・対象世帯向け…対象世帯むけのチラシを作成。DV関係N P O、母子家庭関係者に対象世帯の選定、ピックアップの要請をする。 ・ボランティア募集…チラシの他、インターネットでの周知、本会会員・ボランティアに対しては電話、機関紙等での勧誘を行う。 （福祉プラザ、まちびあ、ピックアップ要請団体、若者支援系の団体）
---	--

③広報

きずなセットと「生理用品」をセットで配布したことが大きな反響を呼び、フードバンクの宣伝を高め一定の成功を収めることができた。情報拡散効果が強いtwitterを中心にSNSでほぼ毎日、情報を更新した。フォロワー数も3500人以上になった

④各拠点の事業

全拠点の特徴として、行政や社協などの支援機関を通して食品支援を実施した。

＜フードバンク県北＞支援機関の要請により食品支援の実施。毎月第2土曜日に食品配布を実施。

＜フードバンク日光＞毎月第1水曜日に会議を実施。行政からの困窮者支援依頼を中心に対応している。食品配布会を不定期に3回実施。

F B日光会議：12回 4/1、5/6、6/3、7/1、8/5、9/2、10/7、11/4、12/2、1/6、2/3、3/3	
＜フードバンク那須烏山＞行政、社協からの依頼のあった困窮者へ食品支援を中心に行った。	
フードバンク（ボランティア）会議（毎週木）：49回 4/2、4/9、4/16、4/23、4/30、5/7、5/14、5/21、5/28、6/4、6/11、6/18 6/25、7/2、7/9、7/16、7/30、8/6、8/20、8/27、9/3、9/10	9/17、9/24、10/1、10/8、10/15、10/22、10/29、11/5、11/12、11/19、11/26、12/3、12/10、12/18、12/24、1/7、1/14、1/21、1/28、2/4、2/10、2/18、2/25、3/4、3/11、3/18、3/25

⑤チャリティウォーク県北21、宇都宮22の運営と参加

F Bの支援者の拡大と寄付金造成のためチャリティウォーク（CW）を実施した。今期からは「とちぎコミュニティ基金」主宰で実施し、他団体とともに実行委員会に参加した。（P19）

（2）ユニバーサル就労研究会（生活困窮者の支援）

本会、ふれあいコープ、とちぎコープの3者を中心に、労働者協同組合、独立型社会福祉士事務所、弁護士などを加えて、2019年9月からユニバーサル就労研究会を毎月1回開催してきた。

今期は9月に「ユニバーサル就労ネットワーク栃木」を発足した。次期（2022年度）市の困窮者自立支援事業・就労準備支援の受託にむけて活動を開始した。ネットワークは「中間的就労事業所」を県内に増やしていくために企業・事業所への営業を行う中間支援団体である。本会の独自財源と企業・事業所からの出向の営業担当者を迎えて、2021年9月の受託事業開始を目指す。今後、企業の開拓、内部の受入態勢の整備、伴走支援の人材育成、広報、資金調達など、ほぼすべての点で未着手の状況である。

ユニバーサル就労ネットワーク栃木 設立趣意書（10/）
◆障害者以外にも、自分で働き口を見つけられない人が急増 昔は学校を卒業して、自ら就活して就職したり、失業してもハローワーク等で再就職先を見つけるのが当然とされてきた時代がありました。しかし、現在は、何らかの支援なしでは働く場を見つけられない人が急増しています。 これまでは働くための支援が必要なのは障害者に限定されており、障害者にはさまざまな就労支援制度が充実してきました。現在は、引きこもり、生活困窮、さらにはひとり親、若年性認知症、がん発症、LGBTsなど、働きづらさの要因が多様化、複雑化しています。

宇都宮にあるフードバンクでは、毎日、生活困窮者が食品を求めてやってきます。食べ物が無い理由はさまざまです。多くの人は「適切なサポート」があれば困窮しなかったかもしれません。病気、失業、障害、孤立、ひとり親家庭、車がない、職場の人間関係が苦手、引きこもり、外国ルーツの人、８０－５０問題の当事者、低年金、刑余者・・・

◆ユニバーサル就労は「働きづらさをかかえた人」を職場に迎え入れる仕組み

ユニバーサル就労は、理由を問わず、働きづらい状態にある人を職場に迎え入れる取り組みです。栃木県内ではまだあまり取り組まれていません。先進地である千葉県では２０１４年から「ユニバーサル就労ネットワークちば」が活動を開始し、これまでに１００人が就労しています。この取り組みを栃木県内で開始したいと思い、「ユニバーサル就労ネットワーク栃木（仮）」を設立しました。

◆ＳＤＧｓの「働きがいも経済成長も」、「みんなで取り組む」

ＳＤＧｓの中にも、誰もが働ける場をつくること「働きがいも経済成長も」という項目があります。これは、福祉だけが、企業だけが、行政だけが個別に対応していても実現できません。さらにＳＤＧｓの１７番目の「みんなが力を合わせ、一緒に」とりくむことが必要です。

◆「つなぐ」役割になります。一ネットワークと中間支援一

そのためには、複数の企業・事業所とネットワークを作り、多くの「働きづらさを抱える人」の伴走支援をし、両者を適切に「つなぐ」役割—中間支援組織（センター）—が必要です。みんながいきいきと働ける働きがいのある栃木を創るために、みなさんもぜひユニバーサル就労ネットワーク栃木に参加してください。

■設立準備委員会

○コラボワーク（企業組合 とちぎ労働福祉事業団） ○とちぎコープ生活協同組合 ○一般社団法人 栃木県若年者支援機構

○認定ＮＰＯ法人 とちぎボランティアネットワーク ○公益財団法人 とちぎＹＹＭＣＡ ○一般社団法人 社会福祉士事務所にじみる

○八幡山法律事務所 ○社会福祉法人 ふれあいコープ ○ＮＰＯ法人 フードバンクうつのみや ○一般社団法人 南栃木社会福祉士事務所

■事務局/栃木県宇都宮市埴田2-5-1 共生ビル3F（とちぎボランティアネットワーク内）

電話028-622-0021

C. 【災害救援・復興支援活動】

（１）救援・復興支援事業（災害救援事業）

今期の活動は実施しなかった。佐賀水害については募金活動を実施した（P12）

①復興支援活動：まけないぞうプロジェクト

今期も東日本大震災被災地の復興支援のために「まけないぞう」の制作・販売を行った。寄付でいただいたタオルを、被災地のお母さんたちが手縫いで「ぞう」の形にした壁掛けタオルである。これを本会が買い取って販売し売上の２５％が作り手の収入になり、生きがいやコミュニティづくり、生業の支援になる。当期は 259 頭、51,800 円の売上となった。

（２）三者連携/防災についての会議・研修（ボランティアとＮＰＯに関する啓発普及等事業）

今期は活動・会合がなかった。

2019 年の台風 19 号水害を契機に、県、内閣府ともにわかに「三者連携」会議等が増えたが、県の担当者が平均 2 年で変わり、担当の室長は毎年異動していく栃木県庁の体制そのものが機能不全である。

（３）「とちぎ V ネット災害救援ボランティア基金」（ＮＰＯの活動資金の援助事業）

今期は実施しなかった。

D.【NPO活動推進センター】

(1) NPOに関する相談・協働事業（NPOの育成事業）

①福島からの避難者支援「福島県復興支援員事業」、「福島県外避難への相談・交流・説明会事業」

福島県から「復興支援員設置事業」と「生活再建支援拠点事業」の2つの事業を受託した。栃木県内には福島からの避難者が推定2000人いるが、この世帯に対して復興支援員（非常勤2人）は避難者の訪問支援活動をした。全戸訪問した名簿で毎月2回、要継続支援30人を対象に実施した。また広報誌『とちぎ暮らしの手帖』を3回発行した。

生活再建支援拠点は避難者が来訪し相談できる窓口として週3日開設した。今期はコロナ禍で交流会を実施できなかったため避難者が出演するラジオ番組を実施。毎月第2日曜に「次世代に伝える。原発避難10年目ラジオ」を放送した。さらに、動画でも配信し、3月には3時間の特別番組を実施した。

回	放送日	出演者/居住地/出身地	コーディネーター/ラジオ学生
1	6/13	・出演者：志賀仁（71）下野市在住/双葉町出身の避難者	コーディネーター：北村雅、ラジオ学生：櫻井脩弥
2	7/11	・出演者/三浦秀一（66）、茨城県結城市/南相馬市小高区の避難者	・Co：北村雅、ラジオ社会人：伊藤由晃
3	8/8	・出演者/黒木久美子（4歳）、小山市/福島市出身の避難者	・Co：北村雅、ラジオ学生：佐藤里奈
4	9/12	出演/石黒修市（66）真岡市/富岡町出身。当時知的障害者更生施設長	・Co：北村雅、ラジオ学生：田中悠斗
5	10/10	出演者/①山本悦子（73）、小山市・喫茶店フジ。②澤上幸子/双葉町から故郷愛媛県松山市で避難者を支援する。	・Co：北村雅、ラジオ学生：小浜佳凜
6	11/14	出演/磯村福治（76）小山市、福島県富岡町から避難原発建設メンテランスに従事。出身地は愛知県常滑市。	・Co：北村雅、ラジオ学生：櫻井脩弥
7	12/14	出演/大山香（50代）、宇都宮市/福島県福島市からの自主避難者。	・Co：北村雅、ラジオ学生：小浜佳凜
8	1/13	出演/遠藤雄子（60代）栃木市/福島県川内村から避難。	・Co：北村雅、ラジオ学生：櫻井脩弥、鈴木花梨
9	2/13	出演/榎原比呂志（60代）栃木県栃木市在住/福島県双葉町から避難。	・Co：北村雅、ラジオ学生：櫻井脩弥、鈴木花梨
10	3/13	出演者/①志賀仁、②榎原比呂志、清水菜名子/①双葉町～下野市に、②双葉町から栃木市に。	・Co：北村雅 ラジオ学生/櫻井脩弥、宮坂真耶、鈴木花梨、佐藤優

②SAVEJAPAN プロジェクトの運営「しもつけ自然のアルバム」の制作

2020年10月から損保ジャパン日本興和と日本NPOセンターの運営による「SAVELAPANプロジェクト」の助成を受け、下野市自然に親しむ会と本会との協働による環境保全プロジェクトを実施した。最大で3年間の助成となるが、1年目は下野市の現場での活動とともに、下野コミュニティFM（FM ゆうがお）による広報を行った。本会は特にSDGsのための行動変容を促すための環境保全、生物多様性の5分間番組「しもつけ自然のアルバム」を学生3人（菊地真以、麦倉悠斗、島崎春奈）とともに制作し、ラジオ、動画で配信した。

【下野自然のアルバム：5分間番組/動画】

回	放送日	テーマ	出演者	制作者
1	3/3	「森林博士に聞いてみた！地球温暖化と森林について」	大久保達弘（宇都宮大学農学部森林科学科教授）	菊地真以
2	3/14、17	「ハエの生態を知ってハエを好きになろう？！」	伊村務（ナチュラリスト）	麦倉悠斗
3	3/28、31	「農業とコウノトリ—ふゆみず田んぼとは？」	小山市農政課/稲山、自然共生課/野口	島崎春奈
4	3/21、24	「身近な昆虫食—カメムシ、ケラ…食べたことある？」	栗原隆（栃木県立博物館）	島崎春奈
5	4/11、14	「奥日光のシカ対策」	松本翔一（自然公園財団日光支部）	菊地真以
6	4/25、28	「ミミズの知られざる生態について」	南谷幸雄（栃木県立博物館）	麦倉悠斗

③委員の委嘱などでの運営協力

各種委員に委嘱される等で会議、研修、講座の選考等に協力した。コロナ禍で書面などでの報告が多かった。「栃木県災害ボランティア活動連絡会議」0回、「県社協ボランティア活動振興センター」書面1回。

(2) ボランティアとNPOに関する啓発・普及事業

①『とちコミSDGs通信』『フードバンク通信』『県北通信』の発行

2021年1・2月号から、誌名を『とちコミ・SDGs通信』と変更し紙面の内容を大幅変更した。とちぎコミ

ユニティ基金とSDGsを中心に紙媒体を「特出し」することで、情報誌購読だけの会員増加を狙った。いわばVネットのプラットフォームに「SDGs通信の会員」が乗ったものである。年6回、毎回1000部発行しSDGs関連企業160社にも送付した。

他に、2019年1月から『フードバンク通信』を発行した。これは「今月のSOS」記事を4ページを別刷りにしたもので、編集は本会職員が行い発行は「FBうつのみや」とし、FBうつのみやの機関紙とともに同封することで、FB会員に対しFB以外にも大きな広がりを感じられるような情報提供をしていく

また、2020年1月からは『県北Vネット通信』を創刊。県北のフードバンクのSOS事例を掲載した4ページ通信を発刊した。これらの措置により「とちコミSDGs通信」のプラットフォームとしての価値を見せていく。

さらに、ラジオ、youtube、WEB、SNSと紙媒体とを連動して広報力を強化している。職員、学生ラジオパーソナリティ、新聞切抜き隊、ボランティアによる取材、執筆を行い、担当職員による印刷とボランティア2～3人による製本・発送で成り立っている。

【とちぎコミュニティ基金・SDGs通信】

月	号	特集記事	月	号	特集記事
3-4月	247	特集/とちコミとSDGs	9-10月	250	特集/SDGs 3「すべての人に健康と医療を」/外国人医療の大問題
5-6月	248	特集/SDGs 1「貧困をなくそう」/子どもSUNSUNプロジェクト	11-12月	251	特集/SDGs 4「質の高い教育をみんなに」/生きるための学び・とちぎ自主夜間中学
7-8月	249	特集/SDGs 2「飢餓をゼロに」/アジア学院ルポ/ベジファーム・インタビュー	1-2月	252	特集/SDGs 5「ジェンダー平等を実現しよう」/栃木県女性議員連盟アンケート&Vネット女子座談会

②「みんながけっぶちラジオ」の放送/動画

ラジオ局の運営を、コミュニティFM「ミヤラジ」の開局と同時に2017年3月から開始した。ラジオ学生がゲストに話を聞き、職員等がコメントするスタイルである。取材・放送・ブログ作成までを学生が臨時職員（アルバイト）として担当した。今期は学生4人（田中悠斗、佐藤里奈、小浜佳凜、櫻井脩弥）、社会人1人（伊東由晃）となり、前年のラジオ学生もラジオ学生会議などでサポートに入る体制にした。年末に「学生ラジオ・募集説明会」を実施し、1月からは学生5人（佐藤優、鈴木花梨、矢島彩香、氏家綺莉、中島桃也）で実施している。

番組をyoutube動画で再録しラジオ番組をホームページで毎回公開することにした。また「次世代に伝える。原発避難10年目ラジオ」を毎月第2日曜、11時から放送した。3月には特番として3時間の放送をした。福島県の委託事業の予算で実施した。（⇒P9）

「半径8キロしか聞こえない」コミュニティFMは、放送の広報（ラジオ聴取）力はあまりないが、媒体作成・媒体出演者との関係性に学生が関わることで、動画配信などの新しい活動や、学生自身の成長と本会関係者の変化がある。さらに学生チーム・Vレンジャーや、FBボランティアとの相乗効果により、かかわる学生数が10人以上となっている。学生にもNPOにも有意義な出会いとなった。

【みんながけっぶちラジオ 番組表】

回	月日	テーマ	ゲスト/所属	コメント、学生会
1	4/6	まちの保健室	岡田ケイ/地域包括支援センターきよすみ	徳山、伊東
2	4/13	地方教育を創造するフリースクール	磯翔/アップルバウム	中野、佐藤
3	4/21	医療的ケア	佐藤英治/うりずん	矢野、小浜
4	4/28	子どもへの虐待を無くしたい	畠山由美/だいじょうぶ	矢野、田中
5	5/4	視覚障害者の作業所	佐久間佳子/とちぎライトセンター	徳山、小浜
6	5/11	鹿沼の子ども食堂	加藤美智子/子ども食堂ネットワークかぬま	中野、田中
7	5/18	ダルク NA ミーティング	栃原晋太郎/ダルク	矢野、伊東
8	5/25	認知症への理解を深める	金澤林コ/認知症家族の会	矢野、佐藤
9	6/1	就労支援センター	富沢浩巳/風の丘	中野、伊東
10	6/8	不登校支援と私	吉成/ウエーブ	徳山、田中
11	6/15	外国人の医療	荻津守/宇都宮乳児院	矢野、小浜
12	6/22	高齢化と人口の減少が進む里山	塚本竜也/トチギ環境未来基地	矢野、佐藤
13	6/29	コロナ何でも質問	趙達来/真岡西部クリニック	田中、小浜
14	7/6	若者の仕事づくり	/野州麻	中野、小浜
15	7/13	フードバンクをやってみて	高沢/フードバンクあしがが	徳山、佐藤
16	7/20	星中制服リサイクルバンク	印南弘美/制服バンク	矢野、櫻井

17	7/27	高齢者のアクティブ・ライフ	高倉/NARC栃木	矢野、田中
18	8/3	関係性の貧困	吉川未知/ふらっと☆たからぎ	中野、伊東
19	8/10	チャリティウォーク	高田誠/チャリティウォーク	徳山、田中
20	8/17	困窮者相談支援	小澤勇治/フードバンクうつのみや	矢野、小浜
21	8/24	昭和こども食堂	荻野友香里/キッズハウスいろどり	矢野、佐藤
22	8/31	学生の活動家：地域おこし	枝拓未/中之条町地域おこし協力隊	櫻井、中島V
23	9/7	生きる力を養う塾	市川潤子/自立塾	中野、小浜
24	9/14	不登校児のための居場所	芳村/ひよこの家	徳山、佐藤
25	9/21	Vレンジャーradio：居場所づくり	矢橋和樹/NPOインターン・緑のふるさと協力隊	田中、芳賀V
26	9/28	LGBT 多様な性を考える大学サークル	王/にじみや	矢野、櫻井
27	10/5	社会的処方	千嶋巖/宇都宮医師会	中野、佐藤
28	10/12	若者支援	湯本/若者サポートステーション	徳山、田中
29	10/19	アートは行為を通じて心の中を開く作業	林香君/クリエイティブ・レインボーPJ	矢野、櫻井
30	10/26	コロナ禍のボランティア 挑戦して得たもの	古谷真実/とちぎYMCAボランティア	田中、高橋V
31	11/2	街中の身近な保健室	渡邊カヨ子/NPO法人みんなの保健室	徳山、櫻井
32	11/9	VレンジャーRadio：台湾の子供の貧困	佐藤綾香/宇大4年生	中野、田中
33	11/16	サンタ de ラン	塩澤達俊/とちぎYMCA	矢野、小浜
34	11/23	毎日通う通信制高校/日々輝学園	山本明子/日々輝学宇都宮キャンパス長	矢野、田中
35	11/30	Vレンジャーradio：建築学生団体 UUAD	寺澤基輝/宇都宮大学	佐藤、廣居V
36	12/7	フードバンクのインターン生	伊藤和樹、寺田啓人/ 宇都宮大学生	伊東、櫻井
37	12/14	制服リサイクル会社	皆川/学生服リユースShopさくらや	中野、田中
38	12/21	多胎児の子育て支援	鳥飼蓬子/そらいろコアラ、さくらんぼ小山会	櫻井、山本V
39	12/28	1年のふりかえり	—	曾根、田中、小浜
40	1/4	新春：とちぎVネットについて	矢野正広/とちぎボランティアネットワーク	宮坂、鈴木
41	1/11	フィリピンに歯ブラシと歯科医療を	関口敬人/NGOハローアルソンPJ	徳山、氏家、小浜
42	1/18	Vレンジャーradio：実験教室	斎藤すみれ/実験教室	櫻井、伏本V
43	1/25	青年協力隊&子どもの居場所	熊倉百合子/青年海外協力隊	矢野、中島、田中
44	2/1	「協同労働」多様な働き方	小白井加代子/ワーカーズコープ	徳山、鈴木
45	2/8	自然の中の教育フリースクールはらっぱ	三厨由美/NPO法人みんなのカタチ	中野、矢島
46	2/15	キャンプとボーイスカウト	戸部康彦/ボーイスカウト宇都宮第1団	矢野、中島
47	2/22	ボランティアによる学校 自主夜間中学	大橋衛/とちぎ自主夜間中学・副校長	矢野、矢島
48	3/1	フードバンクを応援する新聞店	宇賀神新聞店	徳山、氏家
49	3/8	空と森のようちえん・あいうえお	栗田/NPO法人みんなのカタチ	中野、矢島
50	3/15	高校生活動家	菊地奏汰/黒磯高校	矢野、氏家
51	3/22	キャンプとYMCA	とちぎYMCA/小野紀夫	矢野、中島
52	3/29	VレンジャーR：しもつけ自然のアルバム	菊地真以、嶋崎春奈、麦倉悠斗/インターン生	宮坂、矢島

（３）震災がつなぐ全国ネットワークへの加盟・運営（ボランティアとNPOに関する啓発普及等事業）

災害時の全国的なボランティアネットワークを構築するため「震災がつなぐ全国ネットワーク（略称＝震つな）」へ加盟し、役職員を同ネットワークの顧問・理事として業務にあたらせた。今期は2回の研修会の講師を引き受けた。

また3年前から全国災害ボランティア支援連絡会（JVOAD）にも加盟した。

（４）ボランタリズム推進団体会議（民ボラ）の運営（ボランティアとNPOに関する啓発普及等事業）

全国の市民活動やボランティア活動の中間支援団体が一堂に会し、市民活動の推進方策、中間支援団体自身の経営について研鑽し話し合う「第38回ボランタリズム推進団体会議（民ボラ）」を7月に大阪で実施した。

E. 【とちぎコミュニティ基金】

（トピック）今期、とちぎコミュニティ基金で配分した**助成総額は 5,770 万円**になった（うち休眠預金事業が 1985 万円）。他にそのほか 47 コロナ基金の 500 万円が大きかった。また、合同ファンドレイジングはこれまで 2 プログラムであったが、チャリティワークを主宰することで 3 つのプログラムとなった。**休眠預金の実施で、県内 NPO からはとちコミへの注目度があがった。**

【コロナ】2020 年 5 月から**合同ファンドレイジング「がんばろう栃木！コロナ支え合い募金」**を実施し今期末（2 年間）で終了した。寄付金は 2 年間で **8,859,851 円(287 件)**となり **14 団体**に配分した。同時に全国コミュニティ財団協会の枠組みで **47 コロナ基金（一般助成）**で **190,150 円**を、本会のコロナ募金と連動して 5 団体に配分した。さらに「**47 コロナ基金（医療助成）**」を非公開・推薦方式で **7 件の医療機関**に対し**総額 450 万円**を配分した。

【緊急支援募金】では、7 月の**佐賀水害**について募金活動を行い **221,400 円**を佐賀県武雄市の NPO おもやいボランティアセンターに助成した。3 月には**ウクライナ難民支援**の募金活動を行い**約 128 万円**（4/25 現在）が集まっている。

また、**サンタ de クリーン&ウォーク**では**過去最高額の寄付 577 万円**が集まった。子どもの貧困の周知を図るため、高校生や大学生のボランティアが「**子どもの貧困特別授業**」と題し、14 の寄付先団体取材した動画を作成した。

（実績概要）

とちぎコミュニティ基金（以下とちコミ）は大きく「**プロジェクト**」「**助成**」「**合同ファンドレイジング**」の**3 部門**がある。今期はプロジェクトは進まなかったが、合同ファンドレイジング（コロナ支え合い募金、サンタ de クリーン&E スポーツ）が活発になった。

昨年度から継続している**がんばろう栃木・コロナ支え合い募金**は NPO の 13 事業でキャンペーンを呼びかけ、3 月末まで寄付を集めた。**寄付総額は 885 万円**になり 3~5 か月ごとに寄付分配を行った。

子ども SUNSUN プロジェクトは **230 万円**の寄付があり、うち、サンタ de ランを「**クリーン&ウォーク**」と企画内容を変えて実施し、**577 万円**を合同ファンドレイジングで集めた。助成部門の「**たかはら子ども未来基金**」は学生インターン助成として **10 人の大学生と 8 団体**に助成した

ゆめ基金では、新たに **3 年継続の調査助成「ゆめ・SDG s 助成」**を創設し、3 プログラムに**総額 45 万円**を配分した。

5 つの助成の合同活動報告会として、3 月にオンラインで「**とちぎのミライをつくる大会**」を実施した。延べ 41 団体の報告と交流会を行った。県内外の NPO 関係者を中心に約 90 人が参加した。

（1）プロジェクト（NPO の活動資金の援助事業）

①子ども SUNSUN プロジェクト＝子どもの貧困撃退円卓会議（宇都宮）

経緯（2017 年）

2017 年 3 月から地域の課題を解決するプロジェクトとして「**子どもの貧困**」をテーマに円卓会議を開催し、2017 年 10 月に調査報告、2018 年 3 月に実施計画を発表した。

（2018 年）

目標数の設定と資源集め事業の立ち上げを行った。宇都宮市内の各中学校区にこども食堂、無料学習支援、居場所、フードバンクの支援拠点セットをつくることを目標とした。そのために宇都宮の概ね中学校区ごとに**地区円卓会議**を開催する計画とした。また、全体の課題を解決する場として定期円卓会議を年 4 回開催。9 月には**清原地区子どもの貧困撃退・円卓会議**が発足し、とちぎ YMC A を中心に、地区内の社会福祉施設、自治会、民生委員児童委員等とともに地域ぐるみの活動になった。また 2018 年度は市外への波及として**大田原子どもの貧困撃退円卓会議**を開催し、調査やファンドレイジング講座を開催した。ファンドレイジングとして、サンタ de ラン&ウォークや通年の子ども SUNSUN メイト（月額寄付）で**総額 846 万円**を集めた。

(2019 年)

5 月に総会を実施した。助成金申請書/ファンドレイジング計画書の公募を行った。定期円卓会議は 8/18「子ども食堂をもっと増やすには」のテーマでワークショップを実施し 20 人が参加した。地区円卓会議として、清原地区円卓会議では子ども食堂キャラバンを開始し、9 月には「子ども食堂チャリティコンサート」を地区で実施し 100 万円の寄付を集めた。宝木地区でも宝木こども未来応援隊が医療生協、村井クリニック、老人ホームの連携で発足し、元デーサービス施設で子ども食堂が定期的に開催されるようになった。寄付は総額 550 万円を集めた。

(2020 年)

コロナ禍のため 5 月に緊急オンライン会議を実施し活動を協議した。総会と定期円卓会議（1 回）を中止し 2019 年度分助成金 92 万円を次期(2021)に配分することにした。定期円卓会議は 2 回実施した。12 月「コロナ禍での子ども食堂の再開」をリアルと ZOOM で実施。2022 年 3 月は「にほんで生きる海外につながる子どもたち」をテーマに ZOOM で開催した。

また 12 月のサンタ de ランは「ラン」を取りやめ、サンタ de クリーン大作成 & e スポーツとして、リアルとオンラインの企画とした。今期は例年になく動画での宣伝や、学生・高校生のボランティアによる寄付集めも行われ、550 万円を集めて 13 団体に分配した。個人・企業からの都度寄付などで子ども S U N S U N プロジェクトの寄付総額は 886 万円となった。

子ども食堂はコロナ禍での弁当配布になった所が多かった。一方で新たに臨時の食堂を行う所もあり宇都宮市内では 2 か所増。本会関係では 2021 年 2 月から市内中心部で宮っ子元気食堂が理事 2 人の尽力により開設した。毎月 2 回の弁当の提供だが、待っている母子家庭等も多数ある。

無料学習支援の増加はなく、訪問型病児保育はコロナ禍で活動ができず休止状態となった。

また、9 月から市の「親と子の居場所」事業が 2 か所開設した。今後、中学校区に 1 か所開設する方向とのことで、この事業の市内への普及とネットワーク化を検討する。フードバンクはコロナ禍であったため、注目度が高まり食品受贈量も拡大し活発に運営している。

(2021 年)

・7 月にオンライン+対面での総会を実施した。9 月には子ども S U N S U N プロジェクト助成金を公募選考し 7 団体に 110 万円を配分した。定期円卓会議は 10 月（親と子の居場所事業）と 3 月（外国ルーツの子どもの貧困調査報告）の 2 回実施した。サンタ de ランの他には新規の活動は行わず、今期は「調査を行う時期」として、外国ルーツの子どもの貧困について「夢 S D G s 助成」の調査助成を活用して調査を行い 3 月の定期円卓会議で内容を公開した。また、子ども S U N S U N プロジェクトは那須塩原市にも波及し、夢 S D G s 助成により那須塩原子どもの貧困撃退円卓会議が立ち上がり調査を行っている。

・12 月のサンタ d e クリーン&ウォークでは高校生・大学生の若者の活躍により、寄付は過去最高額の 577 万円となった。

年度末の 2 月から、次期(2022)4/10 の子ども食堂応援イベント「こども食堂はみんなの居場所キャンペーン 2022」の準備をし、今期 4/10 に実施した。これは、宇都宮市内の音楽グループのイベントに相乗りしたもので、サンタ de ランのイベントとあわせると半期に 1 回のファンドレイジングイベントができることになった。

①総会、定期円卓会議、月例会

7 月 10 日に 2 年ぶりに子ども S U N S U N プロジェクトの総会を開催した。対面とオンラインのハイブリッド方式で 25 人が参加した。S U N S U N プロジェクト助成金の応募要項を公開した。

2 回の定期円卓会議を行った。①11 月 13 日、宇都宮市の委託事業「親と子の居場所事業」について受託した 2 団体（キッズハウスいろどり、ふらっと☆たからぎ）から 13 か月めの報告として成果を課題の整理をした。オンライン方式で実施し約 20 人が参加した。②3 月 22 日に「外国ルーツの子どもの貧困調査報告会」をおこなった。オンライン方式で実施し約 25 人が参加した。

月例会は 5 月（2 回）、6 月（3 回）9 月、12 月、2 月（2 回）3 月に実施した。毎月定例で実施することができず、結果的には

子どもSUNSUN助成金（19-20年度）	
1 宇都宮市学童保育センター	100,000円
2 NPO法人シェアハッピーエール	100,000円
3 NPO法人蔵の街たんぼの会	200,000円
4 子どもの未来応援隊	200,000円
5 そらいろコアラ	200,000円
6 ちゅんちゅんこども食堂すずめのす	200,000円
7 宮っこ元気食堂	100,000円
合計	1,100,000円

隔月となった。しかし複数回は総会や定期円卓会議、4/10「子供食堂応援イベント」開催のための打合せ会議があった。このほかに8月～12月にはサンタ de ランの会議が複数回行われ、11月は助成金審査の打合せの会議があるなどで月例会を開く余裕がなかった。

②子どもSUNSUNプロジェクト助成金

子供食堂などの設立・運営支援のための助成プログラムを改変して募集要項を作成、7月に公募開始、11月に審査会と配分を行った。7団体に総額110万円を配分した。2019・2020年度の2年間の寄付金がコロナ禍で配分できず、2018年度の第1回配分に続き2回めの配分となった。

③「子ども食堂はみんなの居場所キャンペーン2022」の準備

2022年1月末に「音楽イベントと子ども食堂のコラボ企画」が外部から寄せられた。月例会での検討後、次期4月10日に「子供食堂はみんなの居場所キャンペーン2022」を実施することになった。正味2か月の間に、3回の打合せ会議、パートごとに複数回の打合せ・調整を行った。(4/10既に実施済み。参加約200人の盛況なイベントとなった)

「子ども食堂はみんなの居場所キャンペーン2022」趣意書 (2022/4/10 実施)	
1、目的： ①地域の人が支え・集える「みんなの子ども食堂」であることを周知し、困窮家庭の子どもも普通の家庭の子どもも皆が使える場としての子供食堂であることを広める。 ②子ども食堂の数を少なくとも各小学校区に1つ以上に増やしていく。また、ボランティアと寄付で運営されていることを伝え、人とお金の募集を行い「支える人」を増やして運営を安定させる。 2、実施内容： ①4/10のオリオンスクエアを会場としたイベント ●ステージ：七瀬みなみのコンサート、OGサウンズの演奏 など ●フードドライブ（食品受贈）の受付、出張子ども食堂、寄付金の受付 ●子ども食堂サミット ②4/10までの活動：「子ども食堂はみんなの居場所キャンペーン」 …「宇都宮市内の全小・中学校区に1つの子供食堂を作る」を目的とすると87か所となり、推計で約17億4000万円が運営資金として必要となるが、宇都宮の人口（52万人）で割ると一人335円となる。「1人335円で子ども食堂が100か所できる」等を合言葉に子ども食堂の理解と支援を求める。 ○方法1：1人400円を寄付いただく。(封筒を配布。細かいお金だと両替経費がかかるので、大人は2・5人分1000円等)	○方法2：子ども食堂への食品の寄贈を求める。しかし、子ども食堂は食品倉庫がないので、フードバンクと提携して貯蔵性のある食品予め指定して、持ってきてもらう。受付会場はオリオンスクエアだけでなく、各地の子ども食堂や、協力企業、事業所など（封筒寄付も受け付ける） ○方法3：動画、チラシ等でのキャンペーン広報。学生・高校生チームによる動画コンテンツ制作とSNSによる広報。「子ども食堂はみんなの居場所」についての内容であれば自由に制作してもらい、方法1、2についてチャレンジする内容がベスト。 3、日時・場所：4/10、11：00-14：00 宇都宮市オリオンスクエア 4、主催：とちぎコミュニティ基金（子どもSUNSUNプロジェクト） 5、目標：寄付300万円、ボランティア100人、食品受付件数500件 生活用品・学用品100件 6、寄付金の使途：①新規子ども食堂のオープンの助成金（公募での「子どもSUNSUN助成金」）②既存の子ども食堂・フードバンク等の運営費補助（食材費など） 7、寄付金の振込先 (省略) 8、問い合わせ (省略)

②「サンタ de クリーン&ウォーク」の実施

6 回目のサンタ de ラン&ウォークは、昨年度に引き続き、飛沫が広がる懸念からラン企画を中止し「クリーン&ウォーク」と形を変えて開催した。当日は約 250 人が集まった。実行委員会は 4 月～1 月の 10 か月間、16 回実施した。また、今回は高校生や大学生など若者の動きが活発化した。

●大学生・とちぎ YMCA 高校生ボランティアチームつぼみ・日々輝学園の高校生らが「子どもの貧困特別授業」PR 動画作成

●日々輝学園高校のパソコン部制作オリジナルゲームでの協賛金の集め

●イベント当日、若者中心に 7 チーム参加

ボランティアに参加した高校生の中には「イベントをきっかけに子どもの貧困について考えるようになった」との言葉もあり、協力と感心の輪が広がった。イベント当日は、会場付近を通行する人や地元の人たちに向けても支援をよびかけ、大きなインパクトを与えるものとなった。

	2021		2020	
預かり寄付渡先	集めた金額	配分→支払額	集めた金額	配分→支払額
とちぎVネット	1,089,972	1,171,067	802,155	838,243
子どものみらい応援隊	240,000	257,856	150,254	157,014
だいじょうぶ	674,297	724,465	621,402	649,358
とちぎYMCA	356,745	383,287	523,912	547,482
トチギ環境未来基地	71,000	76,282	237,200	247,871
うりずん	335,926	360,919	282,137	294,830
フードバンクうつのみや	552,964	594,105	262,646	274,462
青少年の自立を支える会	20,000	21,488	31,500	32,917
きよはら食堂キャラバン	69,000	74,134	595,000	621,769
ちゅんちゅんこども食堂	220,000	236,368	30,000	31,350
県北子ども食堂連絡協議会	-	-	97,335	101,714
えんがお	26,322	28,280	-	-
宮っこ元気食堂	192,729	207,068	-	-
たんぽぽの会	102,220	109,825	-	-
やぎハウス	77,163	82,904	-	-
計	4,028,338	4,328,049	3,973,541	4,152,308
全体に寄付	1,742,394	-	1,562,869	-
とちコミ経費	-	1,442,683	-	1,384,103
	5,770,732	5,770,732	5,536,410	5,536,411
①集めた金額⇒団体指定の寄付				
②配分→支払額⇒75%分+「全体に寄付」を按分した配分				
①と②の総計は、按分の計算後、割り切れない数字があるので、ずれています。				

■サンタ・事前イベント（11 回） ●街頭募金 5 回 11/26 実行委員企画「サンタ de 街頭募金」53,809 円 12/4 実行委員企画「サンタ de 街頭募金」57,149 円 12/5 実行委員企画「サンタ de 街頭募金」84,820 円 12/12 県北実行委員企画「サンタ de 街頭募金」35,522 円 12/25 県北V ネット企画「サンタ de 街頭募金」円 ●10 月末～ オリジナルゲーム「サンタ de ラン」（日々輝学園高校パソコン部） 協賛：株式会社 adtown、アカデミックロード、共栄、柏建設、うりずん、ひばりクリニック、病児保育かいつぶり、東洋測量設計株式会社、RGP、あおぞら福祉カレッジ	●サンタ de ラン PR「子どもの貧困特別授業」Youtube 動画 35 本 再生回数 計約 1374 回 ●シャケ募金、Bo 金魚（回遊型募金箱）約 20 個作成・寄付約 7 万円 ●ポスター張り（3 回）11/9（14 人）、11/14（20 人）、11/19（11 人） ■当日ボランティア説明会（2 回）12/4（15 人）、12/8（9 人） ■実行委員会（16 回） 3/25（14 人）、4/15（16 人）、5/14（23 人）、6/9（22 人）、6/25（15 人）、7/15（18 人）、8/4（12 人）、8/26（17 人）、9/16（16 人）、10/14（18 人）、10/27（12 人）、11/10（13 人）、11/25（13 人）、12/2（14 人）、12/16（19 人）、1/19（12 人）
--	--

（2）助成（NPO の活動資金の援助事業）

①「花王ハートポケット倶楽部・地域助成」

花王㈱の同助成金を活用し NPO へ助成金を贈る地域助成を行なった。第15回目の助成金配分である。助成金

額は20万円1団体、10万円4団体の60万円である（2019年度助成団体がコロナ禍の影響で活動ができず、返金された10万円分を追加で助成した）。審査は12月14日の第1次審査で4団体を選考し、それらを、花王ハートポケット倶楽部の社員1700人の投票により1番票を集めた団体に20万円を助成することとした。**応募は17団体**だった。3月6日に贈呈式を実施し、前期（2020年）の助成団体の報告会も合わせて実施した。

2021 年度 花王・ハートポケット倶楽部地域助成（栃木地区） —栃木県内の N P O ・市民活動団体を応援—	
花王㈱では社員有志による社会貢献寄付プログラム「ハートポケット倶楽部」を組織し、全国・地域の NPO を社員と企業で応援しています。今年、栃木事業場のハートポケット倶楽部が、栃木県全域の全ての分野で活動する N P O や市民活動団体から、「心温まる活動」「地域で必要とされる活動」を対象に助成します。	
1、助成内容 助成内容 ・助成総額：60万円 ・助成団体数：5団体 ・助成金額 ・助成：20万円＝1団体、10万円＝4団体	②昨年度「メイン助成」を受けた団体でないこと（1年休み後の応募は可）。 ※「NPO データバンク（CANPAN）」への登録は必須ではありません。
2、選考までの流れ ◎応募受付開始：10月1日 ◎応募用紙提出締切：11月20日必着 ◎一次選考：12月中旬。とちぎコミュニティ基金運営委員会により6団体を選出。 ◎二次選考（投票選考）：1月中旬。花王ハートポケット倶楽部に参加している社員に応募申請書を公開し、投票で採択団体を決定します。 ◎贈呈式・レセプション：3月6日。1次審査通過団体においていただき、贈呈式・レセプションを行います。 ◎活動報告：助成金を使った様子を所定の書式で簡潔に報告ください。	4、応募・問い合わせ先 とちぎボランティアネットワーク「花王・ハートポケット倶楽部係」 栃木県宇都宮市埴田 2-5-1 電話 028-622-0021 FAX028-623-6036 tochicomi.org
3、応募団体の条件 ①営利を目的とせず、公益的・社会的な活動をすでに1年以上継続的に行っている栃木県内の NPO ・市民活動団体・ボランティア団体（法人格の有無は問わない）	■選考結果 ★20万円 みんなの学び場おやま ★10万円 もおか環境パートナーシップ会議 NPO法人みんなのカタチ 子育てほっとネット NPO法人子どものとなり佐野
	■年間日程 10/8(金) 助成金の説明会（まちびあ・ぽぽら主催） 12/14(火) 花王助成審査会 3/6(土) とちぎのミライをつくる大会（2020年度花王助成報告会と、2021年度助成贈呈式）

②「たかはら子ども未来基金」

2017年から矢板市の篤志家からの寄付で「たかはら子ども未来基金」を創設し、学生インターン助成を実施した。「境遇や生育環境に関わらず、全ての子どもや若者が等しく人生を拓く機会を得られること」が目的である。子どもの貧困に関するボランティア・NPOの活動に対し、栃木県北地域を中心に助成を行った（2017年から2027年までの10年間継続して寄付を受け、助成を行う予定）。

学生インターン部門には16団体の応募があり8団体に助成した。学生は20人の申込があり10人に助成した。なお、今年は2団体（足尾に緑を育てる会、うりずん）が特別助成枠で2人を受け入れた。

とちぎコミュニティ基金【たかはら子ども未来基金】・学生インターン助成 （申込締切）団体：2021/6/14、学生：2021/7/12
1、たかはら子ども未来基金とは？ 子どもや若者の未来を応援する目的で、2017年に矢板市在住の夫妻が設立した基金です。現在、家庭の経済的困窮が要因となり、子どもや若者の「未来への可能性」を奪う様々な不利が生じています。境遇や生育環境に関わらず、全ての子どもや若者が等しく人生を拓く機会を得られるように「たかはら子ども未来基金」が創設され、特に栃木県北地域の子どもや若者を支えていくことを目指します。
2、2021年度の助成事業（学生インターン助成） 若者とNPOが共に成長できることを目的としています。学生が一定期間、NPOや市民活動団体にスタッフ見習いとして研修（インターンシップ）することを応援します。奨励金で学生が一定期間、活動することで若者の積極的な参加を促し、若者の継続的な応援者を増やします。学生の中には奨学金を借り、アルバイトのために、ボランティアができない人もいます。NPOには学生の受入れで、日常業務の補助だけでなく、特に事業の発展や新規事業の立ち上げを行える団体に助成します。
3、対象団体 ①子どもの食事と居場所を支える活動をする団体。例)こども食堂の運営支援、新規設立支援。②子どもの学習を支える活動をする団体。例)無料学習支援、学びなおしの支援。学用品の物品支援など。③子どもの体験を支える活動をする団体。例)自然体験や文化体験などの子どもの心の成長を支える活動を支援。④若者の社会参加や就労、生活を支える活動をする団体 ⑤例)若者の居場所づくりや就労訓練プログラムを支える活動を支援。困窮学生支援。⑥その他、子どもや若者の未来をつくる活動を支援する団体。例)環境分野の団体で、子どもへの自然体験活動を行っている団体、国際協力分野の団体だが、若者の国際交流活動を行っている団体など。
(1)助成する団体の条件 ■営利を目的とせず、公益的・社会的な活動をすでに1年以上継続的に行う栃木県内のNPO・市民活動団体・ボランティア団体(法人格の有無は問わない) ■県南をのぞく、栃木県内全域を対象とし、特に県北の活動団体を優先して助成します。■対象市町：矢板、塩谷、高根沢、さくら、大田原、那須塩原、那須、那珂川、那須烏山、宇都宮、上三川、壬生、日光、鹿沼、芳賀、市貝、益子、茂木、真岡。(事務所があるか、活動している団体)

(2)選考基準

前出の条件を満たす団体の中から、以下の選考基準で選考します。

1. 子どもや若者の未来の可能性を本気で応援したい団体
2. 地域で必要とされ一般の人に開かれて、参加できる活動
3. 助成を受けることで、活動の基盤を強化できる団体
4. 学生のインターンシップを受け入れる体制が整っている団体（学生が相談できる職員がおり、活動の計画、実施、振り返り、改善をともにできること）
5. 学生と一緒に、既存事業の発展や新規事業の立上げを行える団体

4. 学生インターンの内容

- ・学生受入希望の団体と、NPO 活動に関心の高い学生をマッチング。
- 《助成額》8月～2月のうちの12日以上インターンシップ活動に対し、学生60,000円、団体40,000円を助成します。
- ・助成総額：900,000円（最大でインターン生9人分と団体9団体分）
- *1団体に2人以上の受入れてもらうこともあります。

①第一次審査（団体審査）：選考基準を満たしている団体には、最大9団体に、結果通知をお送りします。

②二次審査（学生審査）：選考基準を満たす学生はマッチングに進みます。

③マッチング手順

A：1人の学生が団体を希望。他に希望する学生がいない場合⇒成立。

B：1団体に複数の学生が希望している場合⇒団体と協議し決定。

C：希望の団体なかった場合⇒不成立。

④助成限度の9人のマッチング成立した場合、審査後、最終結果を通知します。

*特別追加枠について…マッチングの時点で、団体への希望学生が多い場合には、団体が資金を用意すれば、学生にインターンシップに参加してもらえ「追加の枠組」です。オリエンテーションや振り返り会など、同じ枠組みで行います。（想定される例）→学生2人が団体Aにインターンを希望し、1人は助成金を通った場合、もう1人は特別追加枠として、参加。

5. 新型コロナウイルスの対策についてのお願い

- ・新型コロナウイルスの感染防止のために、咳エチケット、消毒、換気、検温などの対策を行い、活動してください。
- ・インターン期間中に栃木県で緊急事態宣言が出た場合、インターンの実施について全部の団体ととちぎコミュニティ基金で打合せをし、実施の継続について決めることがあります。
- ・団体内でコロナウイルス感染者が出た場合、学生のインターンシップを一旦中止し、必ずとちぎコミュニティ基金に相談してください。

■選考結果

- ・坂田亜美（国際医療福祉大学）：キーデザイン（宇都宮）
- ・吉永育未（宇都宮大学）：宇都宮市学童保育センター（宇都宮）
- ・金子葉南（白鷗大学）：学びステーション鹿沼（鹿沼）
- ・矢橋和樹（日本大学）：風車（矢板）
- ・新山莉里加（宇都宮大学）：足尾に緑を育てる会（日光）
- ・相馬希咲（関東学院大学）：和音いのくら児童クラブ
- ・古谷真菜（宇都宮大学）：足尾に緑を育てる会（日光）
- ・久保大樹（宇都宮共和大学）：うりずん（宇都宮）
- ・石川美都（宇都宮共和大学）：うりずん（宇都宮）
- ・白石萌々香（宇都宮大学）：こども食堂ノエル（宇都宮）

■年間日程

- 5/15-6/14 団体の応募期間
- 5/15-7/12 学生の応募期間
- 6/23 団体審査
- 7/15 団体へマッチング通知発送
- 7/31 最終結果通知発送
- 8/20 贈呈式・オリエンテーション
- 8/21～2/28 インターンシップ期間
- 10/7 学生交流会①
- 12/1 学生交流会②
- 12/20 学生交流会③（NPO インターンシップラボ合同）
- 3/6 とちぎのミライをつくる大会（報告会）
- 3/16 学生振り返り会
- 3/18 受入団体振り返り会

③「とちぎゆめ基金助成」「ゆめSDGs助成」

今期は、募集は行わなかった。3年間の継続助成の1年目であり調査助成を行っている。

2020とちぎゆめ基金 「持続可能な地域づくり・SDGs助成」締切 12/25

1. 主旨

この助成は、持続可能な地域社会を作るために、複数の主体が参加して協働する地域課題解決の調査や実施に対して助成を行います。（1年目は調査助成のみ）

国連が決めた「持続可能な社会づくりのための17のゴール（SDGs）」達成は、2030年。複数の目標を地域のみんなで取り組む協働事業の設計（調査）と実施（継続するための仕掛けづくり）のスタートを支援します。みんなで10年取り組めば、地域の課題が解決していく。みなさんの取り組みが他地域へ波及し、持続可能な社会へ変わるきっかけとなることを期待しています。

2、対象となる事業・条件 ・3～5団体以上の協働での応募であること。 ・持続可能な地域社会づくりの企てで、調査、人材育成、「継続する仕組み作り」に取り組む内容であること。 3、伴走支援：必要に応じてとちぎコミュニティ基金が伴走支援をします。 4、助成期間：2020年4月1日～2021年3月31日 5、助成金額・件数：総額50万円 (1)調査助成：1事業10～15万円×3団体程度 (2)継続するための仕掛けづくり助成(2年目以降)：10～20万円×2団体程度 ※今年度は(1)調査助成のみ募集 6、報告書・成果物 調査助成の場合には、報告書等の成果物、イベント等の開催実績報告書が必要です。	7、応募について (1)応募資格：栃木県内で対象事業を行うボランティアグループ、NPO、社会福祉施設、学校、住民組織等（※営利/非営利、法人格不問） (2)応募方法：①応募申請書(所定の様式)に必要事項を記入の上、郵送かメールで。②応募要項・応募申請書はホームページからダウンロード (3)締切：2019年12月25日（水） (4)選考方法と選考基準 ①とちぎゆめ基金・運営委員等からなる選考委員会で決定します。 ②複数団体による応募を優先します ③地域・地方の複数の課題について、多様な主体が協働して課題解決するとともに、地域社会(全体)の持続可能性（SDGs）への促しを進めるもの。 ④広義の福祉を中心とした応募を優先します。 ⑤波及効果があるもの、他地域、後続団体が真似していけるもの。 ⑥選考結果の発表：2020年1月末、文書で連絡。
---	---

④「がんばろう栃木！募金」台風19号復興ボランティア支援

今年は助成を実施しなかった。助成プログラムを検討中である。

⑤佐賀水害支援募金

7月に九州の佐賀県であった水害に対し募金活動をおこない、**230,400円**を武雄市の災害救援活動を行う**NPO おもやボランティアセンター**に助成した。佐賀県は3年前の水害でも被災し、その復興途中で再度被災している。遠隔地であり直接の救援活動ができないので寄付を贈ることにした。

⑥ウクライナ難民支援募金

2月24日に起こったロシアのウクライナ侵攻で発生した難民救援の募金活動を開始した。**約128万円(4/25現在)**の寄付となっている。集まった寄付金は**日本YMCA同盟**を通じてヨーロッパのYMCA同盟経由で各国のYMCAの救援活動に使われる。ウクライナ難民は現在500万人になっている。

(3)合同ファンドレイジング（NPOの活動資金の援助事業）

①「がんばろう栃木！コロナ支え合い募金」

コロナ禍における子ども・家庭を応援する市民団体の支援を強化するために、合同寄付キャンペーンを5月から開始し、13のプログラムへの寄付を募集した（期間は2022年3月末）。現在**8,859,851円(287件)**の寄付があり、3～5か月ごとに寄付の配分をした。

また、全国のコミュニティ財団と連携して開設した「**47コロナ基金**」では全国からの寄付を栃木分助成として、**一般助成190,150円を4団体、医療助成450万円**の募金を7団体に配分した。なお医療助成は本会の調査に基づいて非公募・推薦方式で配分を決定した。

「がんばろう栃木！コロナ支え合い募金」応募要項（2020・5月～2022年3月）		
栃木でがんばるNPOなどの「コロナ対策プログラム」を募集しています。一緒にプログラムを創り、育てましょう。目標プログラム数は30個！とちぎ特設ページで、一緒に寄付を呼びかけて、この非常事態を乗り越えましょう！ 1、参加できる団体 ・栃木県内で活動するNPOならどこでも。（法人格を問いません） ・たとえば、子どものオンライン学習を支える、耕作放棄地を使った体験活動、リフレッシュできる機会をつくる、食を支える などなど、この非常事態を乗り越えるいろいろなアイデアを募集します。	2、合同で寄付を呼びかけるメリット ・認定NPO法人への寄付となり、寄付した方が税制控除を受けられます。 ・一緒に呼びかけることで、より多くの人に活動を伝え、共感者を増やすきっかけになります。 3、寄付の集め方 ・寄付者が、応援したい団体を指定して寄付します。 ・寄付の申込みは、クレジットカードと郵便振替からとします。 ・集まった寄付からとちぎコミュニティ基金の事務局経費（20%）を引いた金額をすべて各団体にお届けします。 ・なるべく1団体125万円を目標として寄付を呼びかけてください。（100万円は団体に、25万円は事務局経費）	
■寄付総額（2022/3月末）8,859,851円(287人) N) だいたいぶ 581,192円 N) うりずん 574,792円 N) トチギ環境未来基地 426,792円 N) オオタカ保護基金「サシバの里自然学校」418,792円	一社) 栃木県若年者支援機構 433,192円 N) チャレンジコミュニティ 514,792円 N) FB うつのみや 1,391,036円 公財) とちぎYMCA 421,992円 一社) えんがお 430,792円	N) キーデザイン 439,455円 N) アニマルセラピー協会 361,855円 N) そらいろコアラ 607,402円 N) もうひとつの美術館 367,455円

47 コロナ基金（一般助成）要項		全国運営：公益財団法人さなぶりファンド
1. 目的 新型コロナウイルス禍により生活困窮や障害者、子ども、医療などで元々大変な人たちが「さらに苦境」に陥ってます。制度の枠外で支えていた栃木の NPO も非常に苦しい状況です。この基金は、コロナの影響を受けても、活動をしていく NPO や市民活動団体の事業継続・変更・強化のためのプログラムに助成します。寄付集めをみんなで取り組むことで、栃木の元気を取り戻していくことを応援します。 2. 対象となる事業・案件 （1）対象事業 下記の活動などに対して、助成します。 ・栃木県内の新型コロナウイルスの影響で生じた課題への取り組みであること 例）（栃木県内の子どものオンライン学習を支える、耕作放棄地を使った体験活動、リフレッシュできる機会をつくる、食を支える、コミュニティ形成、しごとづくり、農山村の定住支援、学生バイトのマッチング支援、医療支援 などに取り組む活動） （2）対象となる経費 ・活動に必要な経費（人件費を含む） ＊人件費は助成額の4割を上限とする。なお、営利事業の人件費は対象になりません。 ＊物資支援は、食材等の提供、医療機関向けのみ認めます。 ＊通信機器の貸出経費は認めますが、個人への寄贈は認めません。 ＊特定の個人への現金の貸付、寄付は対象になりません。 3. 助成期間 2021 年 4 月 1 日～2022 年 6 月 31 日 ＊今回は基金立ち上げの時点から助成期間とします。すでに実施済みの活動への資金充当も可能です。 4. 助成金額・件数 助成総額 15 万円（最大4団体） ＊今後も集まった募金額に応じ継続して募集を行うこともあります。 5. 報告・成果 指定の様式による報告書をご提出していただきます。また、チラシや成果物などもありましたら、あわせてご提出をお願いします。	6. 応募について （1）応募資格：栃木県内で対象事業を行うボランティアグループ、NPO、社会福祉施設、学校、住民組織等（個人での申請は不可） （2）応募方法：指定の応募申請書に必要事項を記入の上、郵送かメールでお送り下さい。（一緒に提出いただく書類）前年度の事業報告書、役員名簿 （3）助成金の使途の書き方について： ①項目→人件費、旅費交通費、印刷費、消耗品費、謝金＊営利組織の場合の人件費は対象になりません。 ②内訳→ 具体的な算出根拠を記入 例：消毒液 50 本×800 円＝40,000 円） （4）応募締切：申込があった時点で審査します。 （5）選考方法と選考基準 ・書類及び必要に応じてヒアリングにより、「がんばろう栃木！コロナ支え合い基金」選考委員会で決定します。 （選考基準） ・公益の増進に資する事業であること ・新型コロナウイルスの影響で生じた課題への対処であること ・助成金の使途が適切であること ・波及効果があり、ほかの地域や後続団体のモデルとなる先駆的な取り組みであれば、なお良い 7. 選考までの流れ ・基金の振込・・・8 月に振り込みます ・基金を使った事業実施期間・・・2022 年 3 月 31 日まで ・活動報告の期限・・・2021 年 3 月時点での活動報告 ・活動報告会・・・調整中 8. 47 コロナ基金による寄付金分配について 47 コロナ基金とは、地域創造基金さなぶりが全国 47 都道府県の NPO を支援する基金です。全国コミュニティ財団協会と連携して、NPO、企業、医療者等への事業に助成を行うものです。コロナ支え合い基金とも連動しています。「47 コロナ基金」で栃木県に指定された寄付を、「がんばろう栃木！コロナ支え合い基金」の活動に上乗せして、助成することとします。	
■選考結果 N) キーデザイン 30,800 円 N) アニマルセラピー協会 30,800 円 N) そらいろコアラ 30,800 円 N) もうひとつの美術館 30,800 円		

②サンタdeクリーン&ウォーク

前述（P14）の通り、子どもSUN SUNプロジェクトの一貫として合同ファンドレイジングを実施した。

③チャリティウォーク県北21、チャリティウォーク宇都宮22

県内のFB団体の合同ファンドレイジングとして今期からとちコミの主宰イベントとして実施した。

コロナ禍であり昨年同様の1日イベントを県北（10/2大田原・那珂川）、県央（10/9宇都宮）の2か所で実施した。寄付総額2,912,128 円、寄付者334人（件）で、県北は参加者84人、ボランティア50人、宇都宮は参加者66人、ボランティア35人だった。

運営のために7月から実行委員会を組織し実行委員会・ボランティア説明会を5回実施した。

	団体名	寄付配分額
1	FB 県北	1,338,267 円
2	FB うつのみや	580,560 円
3	FB 日光	205,804 円
4	FB もおか	31,935 円
5	FB しもつけ	27,530 円
9	経費 25%	728,032 円
	合計	2,912,128 円

第10回チャリティウォーク [県北 21][宇都宮 22]

10/2（土）県北、10/9(土)宇都宮

1、目的・趣旨 フードバンク活動への資金造成（寄付）と理解促進のために1日1日帰りのチャリティイベントを実施する。寄付を集める時には困窮した状況にある人たちの現状や制度の限界を伝えることで、「私たち自身がセーフティネットを作っていく」必要性を理解し、またこうした仕組みの存在があることで「やりなおしがきく社会」をつくる希望となることを伝える。	4、広報 WEBサイトによる広報。①チャレンジャーのイベントを逐次公開 ②フードバンクの周辺にいる困窮者の実情を記事で紹介する（毎週2回更新）
2、日時・場所 ①県北）2021年10月2日（土）・9時～16時頃（雨天実施） ・黒羽支所⇒那珂川水遊園⇒黒羽支所（片道10.5km。往路：川東側左岸、復路：川西側右岸） ②宇都宮）10月9日（土） ・宇都宮市中心部⇒大谷⇒多気山の不動尊（片道11km）⇒宇都宮市中心部終点	5、募集 ①県北 ・参加者：150人（団体：10チーム、個人：100人） ・ボランティア：50人 ・協賛企業（施設）…10社：寄付および参加者への支援飲料、食品など ②宇都宮 ・参加者：200人（団体：15チーム、個人：130人） ・ボランティア：60人 ・協賛企業（施設）…15社：寄付および参加者への支援飲料、食品など
3、参加資格等 ●チャリティウォーク県北21 ●チャリティウォーク宇都宮22 ■参加できる人●（個人）：食品1kg以上の寄贈、と寄付3,000円か5,000円か1万円以上を寄付した人 ●（団体）：1チーム3～5人。食品10kg以上を寄贈し、3万円以上を寄付したグループ ■寄付先の指定：今回参加している県内のFBのどこにでも寄付できます。 ①フードバンク県北 ②フードバンクうつのみや ③フードバンク日光、④フードバンクももか ⑤フードバンク鹿沼 ■両方参加：県北と宇都宮の両方参加する人は、2割引きの寄付額でOKです（5,000円か、8,000円か16,000円以上の寄付） ※食品は、できれば多くの人から集めてください。（ほしいもの：缶詰、レトルト、麺類） ※寄付は、自分で寄付するだけでなく、声をかけて身近な人からも集めてください。	6、目標金額：360万円 ■県北：160万円、（団体30万円、個人50万円、協賛40万円、寄付のみ40万円） ■宇都宮：200万円（団体40万円、個人60万円、協賛40万円、寄付のみ60万円） 7、開催までの日程 ※実行委員会（第2・第4土曜16時～） ①6/26（※この日のみ18：00～） 募集要項決定、協力者の募集（個人・企業・団体等）、参加者募集。 ②7/10：宇都宮コース決め、チラシ・ラフ ③7/24：パンフレット完成。協賛企業募集開始 ④8/14：（参加チーム等によるファンデレイジング開始） ⑤8/28：第1次締切 " ⑥9/11 " ⑦9/25：第2次締切 "（当日ボランティア打合せ会） ・10/2：県北21 ・10/9：宇都宮22

（４）休眠預金活用事業「新型コロナウイルス緊急支援 ひとりにしない、させない助成」（NPOの活動資金の援助事業）

一般財団法人日本民間公益活動連携機構より、当会が資金分配団体として選定され、本県のコロナ対応活動の助成が可能となった。コロナによる「孤立」と「分断」に起因する様々な困難な状況下にいる方の支援を取り組む8団体（総額19,854,644円）の助成を行った。また助成採択団体へは、月1回の活動を振り返るフィードバックミーティング、マネジメント力強化のための研修（全5回）、全体の連携促進（中間発表、成果発表）などを実施し、資金提供だけでなく、助成による活動実績から自ら寄付や会費などの自主財源を集めることができる組織的成長支援を実施した。

「休眠預金活用 新型コロナウイルス対応緊急支援助成」（2021・3月～2022年3月）		
●休眠預金活用 新型コロナウイルス対応緊急支援助成募集要項 1、目的・趣旨 新型コロナウイルス感染拡大によって、困難を抱えた人たちの暮らしはその度合いを増していることを背景に、休眠預金の活用により、様々な困難を抱える人たちの支援や、より誰もが住みやすいまちを作る栃木県内の活動を助成金の提供と伴走支援により応援する。あらゆる人が、「孤独ではない」と感じられる社会を創るために。 2、助成額・助成期間・対象地域 本助成による実行団体への助成総額は、総額2,900万円。また、1実行団体あたりの助成額は、50万円～500万円。 3、助成期間（実行団体の事業実施期間）：資金提供契約日～2022年2月28日の間の活動を助成。 4、支援活動範囲：栃木県内での活動に対して。	5. 選定基準 資金分配団体は、以下の選定基準に基づき選定を行います。 （ア）ガバナンス・コンプライアンス：包括的支援プログラムに示す事業を適確かつ公正に実施できるガバナンス・コンプライアンス体制等を備えているか （イ）事業の妥当性：事業対象となる社会課題について、問題構造の把握が十分に行われており、事業対象グループ、事業設計、事業計画（課題の設定、目的、事業内容）が解決したい課題に対して妥当であるか。 （ウ）実行可能性：業務実施体制や計画、予算が適切か （エ）継続性：助成終了後の計画（支援期間、出口戦略や工程等）が具体的かつ現実的か （オ）先駆性（革新性）：社会の新しい価値の創造、仕組みづくりに寄与するか （カ）波及効果：事業から得られた学びが組織や地域、分野を超えて社会課題の解決につながることを期待できるか （キ）連携と対話：多様な関係者との協働、事業の準備段階から終了後までの体系的な対話が想定されているか	
■助成総額 8団体 総額19,854,644円 N）とちぎみらいwithピア 2,017,954円 N）サロンみんなの保健室 903,000円	N）FB うつのみや 5,000,000円 一社）えんがお 3,276,000円 N）風車 820,000円	N）キーデザイン 2,557,100円 N）那須高原自然学校（コンソーシアム）4,667,120円 N）子どもの育ちを応援する会 613,470円

F.【とちぎ県北ボランティアネットワーク】

（概況）2021年度はコロナ禍により、子ども食堂は4-8月弁当、9-10月中止、11-2月は食堂開始、3月から弁当と、休止・開始・弁当状況により活動が変化した。ボランティアベースでの運営であり、意思疎通が難しかった。一方で**フードバンク県北**は出庫が1.2倍増加した。また**F B 食品の定期配布会**を毎月実施し困窮者のアセスメントをおこなった。チャリティウォークも実施し昨年を上回る寄付があった。さらにサンタ de ランの事後イベントとしてクリスマスウォークを初開催した。参加者には好評であり、また60万円の寄付を集めた。

年度末になり「日本財団子ども第3の居場所事業」の助成金を獲得し次年度の運営体制の構築に着手した。

この他に若者の自活力向上「ヤスイの食卓」や、「竹藪から竹林にプロジェクト」などボランティアによる自発的な活動が盛んになった。

（1）生活困窮者支援（生活困窮者の支援）

①フードバンク県北

フードバンク県北では、2021年度は**7.9 トンを受贈、うち 6.7 トン（595 件）を生活困窮者に寄贈**した。昨年よりも件数が増加。コロナ禍で立ち直りができない人が多く長期の困窮状態が続いている。

食品配布会を毎月第2土曜日に実施し、困窮者と徐々に困窮世帯との関係性ができ、支援のきっかけを探れるようになった。

10月の「チャリティウォーク県北21」を主宰し、参加70人寄付100万円を集めた。フードバンク県北の知名度が向上した。

若手のボランティアが多くなったことで、宇都宮の本部との連絡や「ヤスイの食卓」での交流・定着が進んだ。

2020年度							2021年度						
			(kg)							(kg)			
受入			出庫				受入			出庫			
月	件数	個数	重量	件数	個数	重量	月	件数	個数	重量	件数	個数	重量
4月	14	633	397.0	55	589	339.0	4月	43	928	522.1	74	943	496.3
5月	11	1276	589.6	35	369	462.0	5月	25	758	419.1	50	743	391.8
6月	24	720	420.8	32	355	321.5	6月	28	1323	309.0	47	809	353.7
7月	21	351	406.8	25	324	191.6	7月	29	436	452.1	61	915	553.8
8月	42	640	335.8	68	1440	654.1	8月	42	1127	316.9	42	715	390.5
9月	48	570	698.6	50	497	379.0	9月	57	837	1403.0	50	929	745.5
10月	50	825	1496.5	46	651	487.2	10月	88	1121	1625.7	39	771	644.2
11月	20	87	448.8	41	452	459.5	11月	55	601	636.1	50	1442	679.3
12月	51	1015	1389.1	53	687	513.8	12月	35	688	538.7	44	934	653.8
1月	32	426	458.6	46	573	374.0	1月	31	497	512.7	49	784	396.0
2月	27	1464	755.2	63	753	610.4	2月	20	839	819.2	43	887	847.3
3月	39	888	453.6	59	990	611.4	3月	24	674	377.6	46	934	511.5
合計	379	8895	7,850.4	573	7680	5,403.5	合計	477	9829	7,932.2	595	10806	6,663.7
月平均	31.6	741.3	654.2	47.8	640.0	450.3	月平均	39.8	819.1	661.0	49.6	900.5	555.3
前年度比	117%		205%	142%		140%	前年度比	126%		101%	104%		123%

（2）子どもと親の困窮対策（生活困窮者の支援）

①「子ども食堂」の運営と「学習支援」

子ども食堂は毎週火・金に実施した。火曜日は子どもサロンとして学習支援中心、金曜日は子どもと地域の人々が来られるようにした。しかし、コロナ禍で8・9月と、2・3月に休止し、また4・8月と3月は弁当にした。1年を通して難しい運営を迫られた。さらに12月からは毎週金曜日は休止し週1回になった。

年度末になり、日本財団の「子供第3の居場所事業」の受託が決まり、事業準備のため食堂再開とスタッフの補充をおこなった。

子どもサロン/地域サロン まとめ (2021)						備考
月	回数	利用数	ボラ数	うち学習ボラ	うちFBボラ	
4月	9	116	63	11	-	
5月	7	115	53	9	-	
6月	9	158	56	5	12	
7月	8	141	42	5	8	
8月	4	73	21	0	6	
9月	-					8/24-9/28間休み
10月	8	123	65	10	8	
11月	8	93	64	8	5	
12月	3	45	14	6	1	
1月	3	50	12	0	10	
2月	1	19	4	0	3	2/1-3/15の間休み
3月	2	40	8	0	6	

3. 事業報告【その他の事業】

実施しなかった。

4. 財政・組織運営

(1) 会員

会員数は**535人（団体27、支持200、賛助308）**、会費は**209万円**になった。会員数はほぼ横ばい状態である。会費収入は昨年より+3万円である。

通常の会員拡大の方策は、①団体会員などの新規会員の拡大、②現会員の継続の2つである。会費の振り込み手続きが面倒であることも予想され、「**つつい未納**」になることが多い。**クレジットカード**での振り込み（ホームページから手続き）、会員総会、Vネットの集い等で**現金で納入**できることも周知している。更に会員更新のお知らせやお礼状を郵送で送ったことも未納者や退会者を最小限に抑えている。

会員拡大は事務局の職員が中心に行うことが多く、声をかける人が限定されているのも会員増加につながっていない、会員になる目的をもっと打ち出せるようにしなければならない。

対応策として従来の人を集める手法に代わる活動を打ち出し、ネット環境を使い多くの人と接点を増やす。また、とちコミの事業やフードバンクなど**ボランティアやファンドレイジングと連動した活動**にできるように事業を変えている。

(2) 寄付

年間寄付額は1,903万円になった（前期2,673万円）。

とちコミの助成「**たかはら子ども未来基金**」に継続的に拠出する寄付（毎年100万円）があった。

また、NPO法人会計基準によるボランティアの活動時間を「ボランティアによる役務の提供の評価額」とし、最低賃金で換算して寄付として充当した。今期は**ボランティア活動評価益は295万円**となり前期より46万円増加した。

現在の寄付金の項目は以下の通り。

① 一般寄付	通常の寄付（災害救援ベンダーの寄付も含む）	銀行引落し 年1回とマンスリーサポーター（毎月引落）の方法が選べる。	オンライン寄付 ホームページからクレジット決済ができる。マンスリーサポーターになれる
② 年末年始募金	年末年始のキャンペーン時の寄付。12月1日～1月末まで		
③ 災害救援ボランティア基金	災害救援目的の寄付		
④ コロナ支えあい基金	コロナ禍に取り組む団体への寄付		
⑤ サックスVクラブ	Vネット“後援会”寄付金(後述)		
⑥ フードバンク寄付	フードバンク事業に対する寄付	オンライン寄付 ホームページからクレジット決済ができる。マンスリーサポーターになれる	
⑦ プレミアム寄付コース	A：SOSを出している人の人生寄り添いコース：50,000円 B：創意工夫のある郷土づくりコース：100,000円		
⑧ とちぎコミュニティ基金	「とちコミ」のメイン寄付。認定NPO法人の利点を活かして、本会特別会計で預かっている ①とちコミ寄付 ②SUNSUN プロジェクト寄付		

(3) 事業収入

受託事業収入は**530万円718万円**と昨年より188万円減少。また**助成金は3,437万円**と休眠事業の助成金が大幅に増えた。

バランスのとれた財源構成が重要だが、安定した委託事業等はない。大局的には社会的苦難な状況の時こそ存在意義を発揮し、本来事業を伸ばすことが必要である。寄付をのばすなど、中期計画に沿った努力が必要である。

(4) 組織

① 会員総会

支持会員・団体会員による会員総会は5月30日に実施した。

定期会員総会は132人出席（うち委任状117人）があり会員総会が成立した。議案のすべてが原案どおり可決成立した。また本会員総会に先立って、5月23日に監事による業務監査・会計監査が実施され、会員総会で「適切に事業運営、適正に会計処理」されている旨の監査報告がなされた。

② 来年どうするか会議（創出会議）、来年これしたいコンペ（企画会議）

本会職員とボランティアスタッフを集め来年度の事業を考える**来年どうするか会議**をワールドカフェ方式で開催した。部門を超えて人が交わることで新たなアイデアを生み出すきっかけになった。来年どうするか会議に続き、必要な予算を話し合うために来年これしたいコンペを実施した。予算の話よりも事業とボランティアのマッチングが主題の会議になった。

月日	会議名/出席人数
11/20	来年なににするか会議 / 23人 （進行：宮坂）
3/12	来年これしたいコンペ / 20人 （進行：小澤）

③ 理事会

理事会を3回開催した。

月日	議題/出席者
5/23 監査	菅又、菊池
5/26 第1回理事会	① 2020年度事業報告・決算について ② 理事の退任について 矢野、廣瀬、徳山、柴田、柴田、荻津、山本、大木本
11/19 第2回理事会	① 上半期の事業報告について / 矢野、中野、荻津、大金、柴田、山本、飯島、荻津
3/26 第3回理事会	① 2022事業計画・予算について / 矢野、徳山、大金、塚本、藤田、廣瀬、飯島、荻津

⑤ 職員会議・ケース検討会

第2・4水曜10時から、**職員会議**を毎月2回開催した。うち1回は運営委員会とした。総合相談支援センター運営の情報共有と事業執行についての会議をおこなった。**ケース検討会**は第1・第3水曜に総合相談支援センターのケースの情報共有を行った。対面だけでなく、オンライン(zoom)でも参加できるようにした。

●運営委員会・職員会議	4/14、4/28、5/12、5/26、6/14、6/28、7/14、7/28、8/11、8/25、9/8、9/22、10/13、10/27、11/10、11/24、12/8、12/22、1/12、1/26、2/9、2/23、3/9、3/23
●ケース検討会	4/7、4/21、5/19、6/2、6/16、7/7、7/21、8/4、8/18、9/1、9/15、10/6、10/20、11/3、11/17、12/1、12/15、1/5、1/19、2/2、2/16、3/2、3/16

⑥ 若者会議、Vレンジャー

(ア) 若者会議

Vネットに関わる学生や若者ボランティアが増えたことを受け、交流や新たな活動の創出を目的に、若者を対

象に会議2回をおこなった。対象は、ラジオ学生やVレンジャー、フードバンクのボランティア等である。

5月に行った若者会議は、ボランティア・リーダーを対象に、**ボランティアマネジメントやチーム運営**について、講義とワークショップ形式で行った。

2月に行った若者会議では、**企画・運営から学生4人とともに行った**。役割分担をし、当日までに打合せを3回行った。積極的に行動する同年代の話を聞いたり、ボランティアや子どもの貧困について話し合ったりすることで、「**自分ももっと視野を広げて行動したい**」、「**ボランティアに対する見方を共有できた**」などの感想を聞くことができた。企画に携わった学生も、協力して運営する大変さと楽しさを味わえたようだった。

日時	内容	参加者
5/22	ボランティア・リーダーWS（大木本進行）	計8人参加 〈zoom〉伊藤、伊東、山本、櫻井、木原、田中、大木本、宮坂
2/12	第1部 先輩に聞く「ボランティアの魅力」 第2部 ボランティアとは○○だ！WS 第3部 フードバンクと貧困勉強会	計19人参加 〈対面〉寺田、宮坂、伊藤、高橋、櫻井、 〈zoom〉松葉、伊東、神山、勅使河原、國安、鈴木、村上、芳賀、中村、斎藤、藤倉、土崎、若者サポートステーション、星野

（イ）Vレンジャー

Vレンジャー会議は月に1～3回おこなった。企画についての打ち合わせや、企画直前は準備をおこなった。さらに、会議の他に親睦を深めるための時間を設けたり、新メンバーが参加した際は随時活動の紹介をしたりした。

月 / 回数	詳細
4月 会議3回 企画1回	4/2 会議（山崎、廣居、大小原、伊東、布施、宮坂、村上）、4/4 春企画（山崎、廣居、村上、三上、吉沢、青木、宮坂、大小原、大木本、布施）、リーダーチーム打合せ（5人山崎、廣居、村上、大木本、宮坂）、会議（4人山崎、村上、伊東、宮坂）
5月 会議2回 企画1回	5/7 会議（山崎、廣居、村上、宮坂、伊東）、5/8 新歓（7人山崎、廣居、村上、田中、大小原、伊東、田中、+参加者4人+学生取材班2人=13人）、5/19 会議（山崎、廣居、村上、大小原、佐藤、山本、芳賀、鎌田、大木本、伊東、宮坂）
6月 会議0回 活動1回	6/12 上大曾子ども食堂ボランティア（大小原、宮坂）
7月 会議3回 活動3回	7/11 夏企画下見@しのい（大小原、芳賀、高橋、山本、廣居）、7/14 会議（10人宮坂、山崎、芳賀、中島、佐藤、廣居、村上、菅原、大小原、伊東）、7/22 夏企画下見@矢板（大小原、高橋、廣居、芳賀、中島、菅原）、7/24 大田原スマイルハウス会夏祭り手伝い参加（大小原、村上、中島、宮坂）、7/26 会議（9人大小原、村上、廣居、山崎、中島、山本、芳賀、宮坂、佐藤）、7/28（水）子どもの居場所たんぼ小田と打合せ@zoom（佐藤、宮坂）
8月 会議3回 ラジオ関係1回	8/7 ラジオ企画会議（中島、山崎、櫻井、矢野、宮坂）、8/11 会議（山崎、菅原、廣居、伊東、宮坂、zoom 芳賀、山本）、8/21 会議（芳賀、大小原、廣居、山本、高橋、宮坂、阿部）、8/27 ラジオラジオ取材同席（枝、櫻井、山崎、中島、宮坂）
9月 会議1回 活動1回	9/4 会議（山崎、廣居、村上、中島、大小原、zoom 高橋、芳賀、宮坂）、9/21 オンラインお話企画（子どもの部屋たんぼぼ子ども4人、小田、菅原、宮坂）
10月 会議3回 活動1回	10/5 オンライン企画打合せ（子どもの部屋たんぼぼ小田、菅原、芳賀、中島、佐藤、廣居、宮坂）、作戦会議（山崎、村上、芳賀、宮坂）、10/21 会議（山崎、山本、佐藤、新山、中村、大小原、宮坂）、10/23 上大曾てらこや屋食堂（中島、宮坂）
11月 会議2回 活動1回	11/10 オンライン企画振り返り会（子どもの部屋たんぼぼ小田+1、芳賀、宮坂）、会議（山崎、中村、高橋、大小原、山本、中島、阿部、宮坂、布施 zoom 廣居、村上、芳賀、福島）、11/13 上大曾子ども食堂（高橋、中島、宮坂）
12月 会議1回 企画1回	12/5 足尾企画（山崎、中村、中島、芳賀、土崎、小林、曾根、山本、佐藤、高橋、菅原、廣居、村上、宮坂、柴田ご家族4人、+足尾の方々）、12/11 会議（山本、高橋、佐藤、山崎、中島、廣居、高橋、菅原、阿部、芳賀、宮坂）
1月 会議1回	1/13 会議（山本、山崎、佐藤、中島、芳賀、斎藤、伏本、中村、伊東、宮坂 zoom 高橋、廣居）
2月 会議2回	2/21 リーダー打合せ（高橋、佐藤、宮坂）、2/25 会議（芳賀、中村、中島、佐藤、高橋、伏本、山本、斎藤、高橋、茨木、宮坂）
3月 会議2回	3/21 リーダー会議（高橋、佐藤、宮坂）、3/22 会議（高橋、佐藤、茨木、福島、勅使河原、中島、山崎、芳賀、小野、坂田、斎藤、廣居、宮坂）

（5）チームの会議・活動日

①新聞切り抜き隊+しみん情報玉手箱

…毎週水曜日 13時半から活動を行う。各自新聞の切り抜きを持ち寄り、ファイリング、要約、パソコンへ入力を行う。情報の収集・提供のためのボランティアチーム現在 3～4 人。

②フードバンク会議

…毎週木曜15:00から会議を行った。(詳細は、F B で報告)

③サンクスVクラブ(後援会)

サンクスVクラブは年間2万円以上の寄付をいただいた人が来られる寄付感謝会である。メンバー制をとっているが、クラブ員の高齢化のため、参加が少ない。年2回の定例会(親睦会)を行う「ゆるやかな」つながりが持てる会であるが、参加方法、内容などの見直しが必要である。今期はコロナ禍ということで開催を見送った。

サンクス"V"クラブ 会則 2005年7月30日 (第1条) 本会はサンクス"V"クラブと称する。 (第2条) 本会の事務局を宇都宮市塙田2丁目5番1号とちぎボランティアネットワーク内に置く。 (第3条) 本会はとちぎボランティアネットワークの応援をすることを目的とする。 (第4条) 本会は前条の目的を達成するため次の事業を行う。	1. 寄付に関すること 2. クラブ員の親睦に関すること 3. その他、目的達成に関すること。 (第5条) 本会は栃木県内のボランティア、NPO、企業及び本会の目的に賛同するものを会員とする。 (第6条) 本会に次の役員を置く。 [1] 代表 1名 [2] 副代表1名以上	[3] 会計 1名 (第7条) 本会の経費は寄付金、その他の収入をもってこれに当てる。 (第8条) 本会の会計年度は毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。 役員名簿 代表:高橋昭彦さん 副代表:高木敏江さん 会計&事務局:菊池順子
サンクスVクラブ 9/27 (24人)、3/28 (13人)		

監査報告

2021年度の業務および、一般会計決算書、特別会計決算書は監査の結果、適正に処理されていることを報告します。

2022年 月 日 監事

監事

特定非営利活動に係る事業会計 活動計算書

NP0法人とちぎボランティアネットワーク

[税込] (単位: 円)

全事業所

自2019年4月1日 至2020年3月31日

特定非営利に関わる事業		その他の事業	合計
I 経常収益			
1、受取会費			
支持会員	849,000		
賛助会員	761,000		
団体会員	432,000	2,042,000	
2、受取寄付金			
一般寄付	3,519,987		
アナザーレーン寄付	770,156		
登録講師寄付	0		
若者未来基金寄付	57,000		
フードバンク寄付	2,740,043		
災害寄付	5,227,057		
とちコミ寄付	7,290,178	19,604,421	
3、受取助成金	8,396,716	8,396,716	
4、ボランティア受入評価益	2,457,493	2,457,493	
5、事業収益			
事業収益	6,469,745		
その他事業収益		6,469,745	
6、その他収益			
受取利息	175		
雑収益	118,030	118,205	
経常収益 計	39,088,580	0	39,088,580
II 経常費用			
1、事業費			
(人件費)			
給料手当	15,503,200		
ボランティア受入評価費用	2,457,493		
法定福利費	1,658,244		
福利厚生費	22,934		
人件費計	19,641,871		
(その他経費)			
売上原価	452,769		
業務委託費	888,425		
諸謝金	105,000		
印刷製本費	1,096,908		
会議費	71,753		
旅費交通費	1,300,570		
通信運搬費	437,892		
消耗品費	2,108,579		
修繕費	352,485		
水道光熱費	485,431		
地代家賃	1,524,000		
賃借料	211,294		
減価償却費	148,366		
保険料	226,238		
諸会費	233,300		
租税公課	36,900		
研修費	18,016		
支払手数料	37,116		
支払助成金	2,169,628		
支払寄付金	1,932,939		
雑費	116,463		
その他経費計	13,954,072		
事業費計	33,595,943		

その他経費計	13,954,072		
事業費計		33,595,943	
2、管理費			
(人件費)			
給料手当	0		
法定福利費	0		
福利厚生費	21,325		
人件費計	21,325		
(その他経費)			
印刷製本費	93,023		
会議費	32,768		
旅費交通費	21,281		
通信運搬費	1,119,111		
事務用品費	259,450		
消耗・備品費	249,097		
修繕費	0		
水道光熱費	232,796		
地代家賃	1,062,000		
賃借料	395,572		
広告宣伝費	1,080		
渉外費	10,000		
新聞図書費	33,374		
保険料	22,290		
諸会費	3,000		
租税公課	1,420		
支払手数料	930,165		
諸謝金	110,000		
委託費	798,920		
雑費	58,664		
その他経費計	5,434,011		
管理費 計		5,455,336	
経常費用 計		39,051,279	0
当期経常増減額		37,301	37,301
Ⅲ 経常外収益			
経常外収益 計	0	0	0
Ⅳ 経常外費用			
過年度損益修正損	746,002		
経常外費用 計		746,002	0
税引前当期正味財産増減額	△ 708,701	0	△ 708,701
法人税、住民税及び事業税	141,400	0	141,400
経理区分振替額	0	0	0
当期正味財産増減額	△ 850,101	0	△ 850,101
前期繰越正味財産額	25,512,758	0	25,512,758
次期繰越正味財産額	24,662,657	0	24,662,657

財 産 目 録

NPO法人とちぎボランティアネットワーク

[税込] (単位：円)

全事業所

2020年 3月 31日 現在

I 資産の部

1. 流動資産

(現金・預金)

現金 一般	221,601
現金 災害	0
現金 とちコミ	190,043
現金 県北	116,652
普通預金 一般	8,144,209
普通預金 災害	0
普通預金 とちコミ	9,468,780
普通預金 県北	1,974,103
郵便振替 一般	11,797

現金・預金 計	20,127,185
---------	------------

(売上債権)

未 収 金	5,497,081
-------	-----------

売上債権 計	5,497,081
--------	-----------

(その他流動資産)

その他流動資産	600,000
---------	---------

その他流動資産 計	600,000
-----------	---------

流動資産合計

26,224,266

【固定資産】

(有形固定資産)

什器 備品	144,793
-------	---------

有形固定資産 計	144,793
----------	---------

(投資その他の資産)

敷 金	208,000
-----	---------

投資その他の資産 計	208,000
------------	---------

固定資産合計

352,793

352,793

資産の部 合計

26,577,059

II 負債の部

【流動負債】

未払費用	1,575,161
------	-----------

預 り 金	197,841
-------	---------

源泉所得税	(82,291)
-------	----------

雇用保険料	(20,550)
-------	----------

住民税	(95,000)
-----	----------

未払法人税等	141,400
--------	---------

流動負債 計

1,914,402

負債の部 合計

1,914,402

正味財産

24,662,657

監査報告

2019年度の業務および、一般会計決算書、特別会計決算書は監査の結果、適正に処理されていることを報告します。

2020年 5月23日

監事

趙 建 未

監事

菅 又 里 美

貸 借 対 照 表

NPO法人とちぎボランティアネットワーク
全事業所

[税込] (単位：円)
2020年 3月31日 現在

資 産 の 部		負 債 ・ 正 味 財 産 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
1、流動資産		1、流動負債	
（現金・預金）		未払費用	1,575,161
現金 一般	221,601	前 受 金	0
現金 災害	0	預 り 金	197,841
現金 とちコミ	190,043	未払法人税等	141,400
現金 県北	116,652	流動負債 計	1,914,402
普通預金 一般	8,144,209	負債の部合計	1,914,402
普通預金 災害	0		
普通預金 とちコミ	9,468,780	正 味 財 産 の 部	
普通預金 県北	1,974,103	2、正味財産	
郵便振替 一般	11,797	前期繰越正味財産額	25,512,758
現金・預金 計	20,127,185	当期正味財産増減額	△ 850,101
（売上債権）		正味財産 計	24,662,657
未 収 金	5,497,081	正味財産の部合計	24,662,657
売上債権 計	5,497,081		
（その他流動資産）			
前払 費用	0		
その他流動資産 計	600,000		
流動資産合計	26,224,266		
2、固定資産			
（有形固定資産）			
什器 備品	144,793		
一括償却資産	0		
有形固定資産 計	144,793		
（投資その他の資産）			
敷 金	208,000		
投資その他の資産 計	208,000		
固定資産合計	352,793		
資産の部合計	26,577,059	負債・正味財産の部合計	26,577,059

特定非営利活動に係る事業会計 活動計算書

NPO法人とちぎボランティアネットワーク

[税込] (単位: 円)

全事業所

自2020年4月1日 至2021年3月31日

特定非営利に関わる事業		その他の事業	合計
I 経常収益			
1、受取会費			
支持会員	806,000		
賛助会員	795,000		
団体会員	460,000	2,061,000	
2、受取寄付金			
一般寄付	6,898,703		
とちコミ寄付	18,697,947		
県北寄付	1,634,624	27,231,274	
3、受取助成金	311,000	311,000	
4、ボランティア受入評価益	2,921,952	2,921,952	
5、事業収益			
事業収益	8,066,482		
その他事業収益		8,066,482	
6、その他収益			
受取利息	198		
雑収益	2,034,832	2,035,030	
経常収益 計	42,626,738	0	42,626,738
II 経常費用			
1、事業費			
(人件費)			
給料手当	11,311,630		
ボランティア受入評価費用	2,921,952		
法定福利費	1,455,943		
福利厚生費	7,072		
人件費計	15,696,597		
(その他経費)			
売上原価	16,900		
業務委託費	564,100		
諸謝金	5,000		
印刷製本費	1,108,435		
会議費	8,400		
旅費交通費	215,067		
通信運搬費	1,295,122		
消耗品費	537,793		
修繕費	11,550		
水道光熱費	419,611		
地代家賃	1,356,000		
賃借料	84,365		
減価償却費	157,725		
保険料	444,836		
諸会費	189,000		
租税公課	9,600		
研修費	4,400		
支払手数料	320,342		
支払助成金	5,575,973		
支払寄付金	4,977,968		
雑費	213,514		
その他経費計	17,515,701		
事業費計	33,212,298		
2、管理費			
(人件費)			

給料手当	1,798,200		
法定福利費	283,213		
福利厚生費	0		
人件費計	2,081,413		
(その他経費)			
印刷製本費	0		
会議費	931		
旅費交通費	2,120		
通信運搬費	485,065		
事務用品費	255,508		
消耗・備品費	119,854		
修繕費	3,300		
水道光熱費	226,986		
地代家賃	426,000		
賃借料	374,880		
広告宣伝費	17,600		
渉外費	0		
新聞図書費	67,699		
保険料	10,960		
諸会費	27,000		
租税公課	1,050		
支払手数料	289,929		
諸謝金	0		
委託費	891,000		
雑費	9,890		
その他経費計	3,209,772		
管理費 計	5,291,185		
経常費用 計	38,503,483	0	38,503,483
当期経常増減額	4,123,255		4,123,255
Ⅲ 経常外収益			
経常外収益 計	0	0	0
Ⅳ 経常外費用			
過年度損益修正損	0		
経常外費用 計	0	0	0
税引前当期正味財産増減額	4,123,255	0	4,123,255
法人税、住民税及び事業税	141,400	0	141,400
経理区分振替額	0	0	0
当期正味財産増減額	3,981,855	0	3,981,855
前期繰越正味財産額	24,662,657	0	24,662,657
次期繰越正味財産額	28,644,512	0	28,644,512

財務諸表の注記

NPO法人とちぎボランティアネットワーク

1. 重要な会計方針

財務諸表の作成は、NPO法人会計基準(2010年7月20日 2011年11月20日 一部改正 NPO法人会計基準協議会)によっています。

- (1) 固定資産の減価償却の方法:有形固定資産は、法人税法の規定に基づいて定率法で償却をしています。
- (2) 事業別損益の状況:事業別損益の状況は、2の通りです。
- (3) ボランティアによる役務の提供:ボランティアによる役務の提供は、「3、活動の原価にあたって必要なボランティアによる役務の提供の内訳」に記載しています。
- (4) 消費税等の会計処理:消費税は税込み経理により処理しています。

2. 事業別損益の状況 事業別損益は以下の通りです。

	一般会計												とちぎコミュニティ基金特別会計	休眠預金活用活用事業	県北事務所 特別会計											
	講師派遣 事業	ボランティ ア情報の 発行	ボランティ アコーディネ ート	復興支援 員	生活再建 支援拠点	フードバン ク	SAVE JAPAN	その他他 団体育成	うつのみ や復興支 援C	災害全般	共通（一 般）	一般会計	こどもプロ ジェクト	とちコミ共 通	とちぎコ ミュニティ 基金	休眠預金 活用事業	休眠預金 事業合計	こども食堂 （県北）	フードバン ク（県北）	共通（県 北）	県北支部	全事業所 （共通）	全事業所			
《経常増減の部》																								《経常増減の部》		
【経常収益】																								【経常収益】		
1.受取会費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2,009,000	2,009,000	0	0	0	0	0	0	0	52,000	49,000	0	2,061,000	受取会費		
2.受取寄付金	0	0	0	0	0	2,985,303	0	0	0	173,560	3,739,840	6,898,703	8,447,756	10,250,191	18,697,947	0	0	0	1,302,774	331,850	1,634,624	0	27,231,274	受取寄付金		
3.ボランティア受入評価益	0	380,438	0	0	0	199,602	0	0	0	0	684,106	1,264,146	0	1,657,806	1,657,806	0	0	0	0	0	0	0	2,921,952	ボランティア受入評価益		
4.受取助成金等	0	0	0	0	0	130,000	0	0	0	0	131,000	261,000	0	0	0	0	0	50,000	0	0	50,000	0	311,000	受取助成金等		
5.事業収益	87,103	0	0	1,619,000	5,445,239	0	0	0	0	88,690	167,747	7,407,779	0	32,200	32,200	0	0	0	22,153	0	22,153	604,350	8,066,482	事業収益		
5.その他収益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	314,815	314,815	0	90	90	0	0	0	0	120,021	120,021	1,600,104	2,035,030	その他収益		
経常収益	87,103	380,438	0	1,619,000	5,445,239	3,314,905	0	0	0	262,250	7,046,508	18,155,443	8,447,756	11,940,287	20,388,043	0	0	50,000	1,324,927	503,871	1,875,798	2,204,454	42,626,738	経常収益 計		
【経常費用】																									【経常費用】	
【事業費】																										【事業費】
(人件費)																										(人件費)
人件費	0	468,730	0	1,152,000	2,450,000	3,566,350	0	0	238,000	0	3,844,565	117,119,645	0	2,880,000	2,880,000	106,800	106,800	0	0	0	0	149,613	14,856,058	人件費計		
ボランティア評価費用	0	380,438	0	0	0	199,602	0	0	0	0	684,106	1,264,146	0	1,667,806	1,667,806	0	0	0	0	0	0	0	2,931,952	ボランティア評価費用		
人件費計	0	849,168	0	1,152,000	2,450,000	3,765,952	0	0	238,000	0	4,528,671	118,383,791	0	4,547,806	4,547,806	106,800	106,800	0	0	0	0	149,613	17,788,010	人件費計		
(その他経費)																									(その他経費)	
【売上原価】																										【売上原価】
期首商品・製品棚卸高 計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	期首商品・製品棚卸高 計		
商品仕入高	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16,900	0	16,900	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16,900	商品仕入高		
材料仕入高	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	材料仕入高		
当期仕入高 計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16,900	0	16,900	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16,900	当期仕入高 計		
期末商品・製品棚卸高 計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	期末商品・製品棚卸高 計		
売上原価 計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16,900	0	16,900	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16,900	売上原価 計		
業務委託費(事業)	0	457,600	26,400	0	26,400	0	0	0	0	31,700	0	542,100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	22,000	564,100	業務委託費(事業)		
諸謝金(事業)	0	0		0	0	0	0	0	0	0	5,000	5,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5,000	諸謝金(事業)		
印刷製本費(事業)	0	197,276		39,270	156,454	67,780	0	0	117,940	0	431,611	1,010,422	11,132	69,902	81,034	0	0	0	4,729	12,250	16,979	0	1,108,435	印刷製本費(事業)		
会 議 費(事業)	0	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8,400	8,400	8,400	0	8,400	会 議 費(事業)		
旅費交通費(事業)	0	0	0	67,585	25,677	24,303	0	0	4,270	2,365	77,689	201,889	0	1,995	1,995	0	0	0	3,443	7,740	11,183	0	215,067	旅費交通費(事業)		
通信運搬費(事業)	0	0	0	34,647	115,349	55,467	0	0	59,302	18,035	713,410	996,210	0	208,961	208,961	0	0	0	8,914	68,827	77,741	12,210	1,295,122	通信運搬費(事業)		
消耗品 費(事業)	0	0	940	65,893	29,890	2,446	0	0	88,611	24,492	85,806	288,078	33,340	5,369	38,709	0	0	0	83,341	120,835	204,176	0	530,963	消耗品 費(事業)		
消耗品備品費(事業)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3,310	3,520	6,830	0	0	0	0	0	0	0	6,830	消耗品備品費(事業)		
修 繕 費(事業)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6,600	4,950	11,550	0	11,550	修 繕 費(事業)		
水道光熱費(事業)	0	0	0	0	0	62,417	0	0	0	0	218,832	281,249	0	5,910	5,910	0	0	68,122	0	61,826	129,948	2,504	419,611	水道光熱費(事業)		
地代 家賃(事業)	0	0	0	0	0	1,348,000	0	0	0	0	8,000	1,356,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,356,000	地代 家賃(事業)		
賃 借 料(事業)	0	0	0	0	0	1,000	0	0	55,190	0	11,055	67,245	14,870	2,250	17,120	0	0	0	0	0	0	0	84,365	賃 借 料(事業)		
保 険 料(事業)	0	0	0	0	0	126,300	0	0	313,690	0	-5,570	434,420	0	5,600	5,600	0	0	4,816	0	4,816	0	444,836	保 険 料(事業)			
諸 会 費(事業)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7,000	152,000	159,000	0	30,000	30,000	0	0	0	0	0	0	0	189,000	諸 会 費(事業)		
租税 公課(事業)	0	0	0	0	0	0	0	0	200	0	9,400	9,600	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9,600	租税 公課(事業)		
研 修 費(事業)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4,400	4,400	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4,400	研 修 費(事業)		
支払手数料(事業)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	600	29,982	30,582	0	246,638	246,638	0	0	0	550	0	550	42,572	320,342	支払手数料(事業)		
支払助成金(事業)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	56,750	56,750	0	5,108,023	5,108,023	0	0	0	0	0	0	411,200	5,575,973	支払助成金(事業)		
支払寄付金(事業)	0	0	0	0	0	838,243	0	0	0	0	838,243	2,810,663	1,329,062	4,139,725		0	0	0	0	0	0	0	4,977,968	支払寄付金(事業)		
雑 費(事業)	0	0	4,258	0	0	0	0	0	40,000	0	14,223	58,481	0	26,987	26,987	0	0	0	33,080	20,500	53,580	74,466	213,514	雑 費(事業)		
その他経費計	0	654,876	31,598	207,395	354,861	2,524,956	0	0	679,203	101,092	1,960,313	6,514,294	2,873,315	7,044,217	9,917,532	0	0	68,122	145,473	305,328	518,923	564,952	17,515,701	その他経費計		
事業費 計	0	1,504,044	31,598	1,359,395	2,804,861	6,290,908	0	0	917,203	101,092	6,488,984	124,898,085	2,873,315	11,592,023	14,465,338	106,800	106,800	68,122	145,473	305,328	518,923	714,565	35,303,711	事業費 計		

3. 活動の原価算定にあたってのボランティアによる役務の提供の内訳 4. 使途が制約された寄付金等の内訳

内容	時間	金額(最低賃金)	金額	根拠
事務局 イベント	1,944	853	1,657,806	出席記録による
新聞切り抜き	446	853	380,438	〃
ℓ情報製本・発注	802	853	684,106	〃
フードバンク	234	853	199,602	〃

内容	前期繰越額	当期受入額	当期減少額	次期繰越額
災害	3,869,126	262,250	101,093	4,030,283
とちコミsun	922,672	8,902,474	6,807,849	3,017,297
とちコミコロナ	0	7,494,041	5,619,835	1,874,206
とちコミ災害	3,220,838	0	0	3,220,838
ゆめ基金	1,847,229	906,150	0	2,753,379

5. 固定資産の増減の内訳

科目	期首価額	取得	減少	期末価額
什器備品	144,793	4,114,702	3,969,909	144,793
合計	241,321	4,114,702	3,969,909	144,793

財 産 目 録

NP0法人とちぎボランティアネットワーク

[税込] (単位：円)

全事業所

2021年 3月 31日 現在

I 資産の部

1. 流動資産

(現金・預金)

現金 一般	203,310
現金 災害	0
現金 とちコミ	344,132
現金 県北	53,073
普通預金 一般	3,977,544
普通預金 災害	0
普通預金 とちコミ	16,704,633
普通預金 県北	3,067,574
普通預金 休眠預金	35,621,400
郵便振替 一般	446,830

現金・預金 計	60,418,496
---------	------------

(売上債権)

未 収 金	5,081,696
-------	-----------

売上債権 計	5,081,696
--------	-----------

(その他流動資産)

その他流動資産	0
---------	---

その他流動資産 計	0
-----------	---

流動資産合計

65,500,192

【固定資産】

(有形固定資産)

建物附属設備	431,166
什器 備品	238,030

有形固定資産 計	669,196
----------	---------

(投資その他の資産)

敷 金	100,000
-----	---------

投資その他の資産 計	100,000
------------	---------

固定資産合計

769,196

769,196

資産の部 合計

66,269,388

II 負債の部

【流動負債】

未払費用	1,802,080
前受金	35,621,400
預 り 金	59,996
源泉所得税	(20,926)
雇用保険料	(22,170)
住民税	(16,900)
未払法人税等	141,400

流動負債 計	37,624,876
--------	------------

負債の部 合計

37,624,876

正味財産

28,644,512

NPO法人とちぎボランティアネットワーク
全事業所

[税込] (単位: 円)
2021年 3月 31日 現在

貸 借 対 照 表

NP0法人とちぎボランティアネットワーク

[税込] (単位: 円)

全事業所

2021年 3月31日 現在

資 産 の 部		負 債 ・ 正 味 財 産 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
1、流動資産		1、流動負債	
(現金・預金)		未払費用	1,802,080
現金 一般	203,310	前 受 金	35,621,400
現金 災害	0	預 り 金	59,996
現金 とちコミ	344,132	未払法人税等	141,400
現金 県北	53,073	流動負債 計	37,624,876
普通預金 一般	3,977,544	負債の部合計	37,624,876
普通預金 災害	0		
普通預金 とちコミ	16,704,633	正 味 財 産 の 部	
普通預金 県北	3,067,574	2、正味財産	
普通預金 休眠預金	35,621,400	前期繰越正味財産額	24,662,657
郵便振替 一般	446,830	当期正味財産増減額	3,981,855
現金・預金 計	60,418,496	正味財産 計	28,644,512
(売上債権)		正味財産の部合計	28,644,512
未 収 金	5,081,696		
売上債権 計	5,081,696		
(その他流動資産)			
前払 費用	0		
その他流動資産 計	0		
流動資産合計	65,500,192		
2、固定資産			
(有形固定資産)			
建物附属設備	431,166		
什器 備品	238,030		
有形固定資産 計	669,196		
(投資その他の資産)			
敷 金	100,000		
投資その他の資産 計	100,000		
固定資産合計	769,196		
資産の部合計	66,269,388	負債・正味財産の部合計	66,269,388

特定非営利活動に係る事業会計 活動計算書

NPO法人とちぎボランティアネットワーク

[税込] (単位: 円)

全事業所

自2021年4月1日 至2022年3月31日

特定非営利に関わる事業		その他の事業	合計
I 経常収益			
1、受取会費			
支持会員	890,000		
賛助会員	829,000		
団体会員	380,000	2,099,000	
2、受取寄付金			
一般寄付	3,067,507		
災害寄付	48,000		
登録講師寄付	0		
若者未来基金寄付	0		
フードバンク寄付	443,200		
コロナ基金	1,365,800		
その他寄付	14,109,927	19,034,434	
3、受取助成金	34,373,149	34,373,149	
4、ボランティア受入評価益	3,012,456	3,012,456	
5、事業収益			
事業収益	5,980,925		
その他事業収益		5,980,925	
6、その他収益			
受取利息	189		
雑収益	863,200	863,389	
経常収益 計	65,363,353	0	65,363,353
II 経常費用			
1、事業費			
(人件費)			
給料手当	13,016,750		
ボランティア受入評価費用	3,012,456		
法定福利費	1,474,351		
福利厚生費	33,242		
人件費計	17,536,799		
(その他経費)			
売上原価	0		
業務委託費	2,251,440		
食料購入費	167,516		
諸謝金	736,580		
印刷製本費	1,581,565		
会議費	0		
旅費交通費	453,175		
通信運搬費	956,578		
消耗品費	433,313		
修繕費	27,942		
水道光熱費	375,226		
地代家賃	1,295,500		
賃借料	11,120		
減価償却費	126,320		
保険料	276,665		
諸会費	32,000		
租税公課	10,000		
研修費	48,480		
支払手数料	279,315		
支払助成金	27,873,983		
支払寄付金	5,663,443		
雑費	262,591		
その他経費計	42,862,752		

事業費計		60,399,551		
2、管理費				
(人件費)				
給料手当	1,560,000			
法定福利費	0			
福利厚生費	0			
人件費計	1,560,000			
(その他経費)				
印刷製本費	23,110			
会議費	0			
車両燃料費	2,200			
通信運搬費	465,579			
事務用品費	223,476			
消耗・備品費	0			
修繕費	0			
水道光熱費	72,330			
地代家賃	352,500			
賃借料	284,344			
広告宣伝費	0			
渉外費	0			
新聞図書費	53,788			
保険料	22,290			
諸会費	52,000			
租税公課	0			
支払手数料	281,583			
諸謝金	0			
委託費	902,000			
助成金支出	1,020,000			
雑費	1,500			
その他経費計	3,756,700			
管理費 計	5,316,700			
経常費用 計	65,716,251	0		65,716,251
当期経常増減額	△ 352,898			△ 352,898
Ⅲ 経常外収益				
経常外収益 計	0	0	0	0
Ⅳ 経常外費用				
過年度損益修正損	0			
経常外費用 計	0	0	0	0
税引前当期正味財産増減額	△ 352,898	0		△ 352,898
法人税、住民税及び事業税	141,400	0		141,400
経理区分振替額	0	0		0
当期正味財産増減額	△ 494,298	0		△ 494,298
前期繰越正味財産額	28,644,512	0		28,644,512
次期繰越正味財産額	28,150,214	0		28,150,214

財 産 目 録

NP0法人とちぎボランティアネットワーク
全事業所

[税込] (単位：円)
2022年 3月 31日 現在

I 資産の部

1. 流動資産

(現金・預金)

現金 一般	80,177
現金 災害	0
現金 とちコミ	488,934
現金 県北	187,960
普通預金 一般	3,339,746
普通預金 災害	0
普通預金 とちコミ	15,522,608
普通預金 県北	4,268,064
普通預金 休眠預金	9,655,924
普通預金 エコパース	264,060
郵便振替 一般	58,747

現金・預金 計	33,866,220
---------	------------

(売上債権)

未 収 金	6,816,928
-------	-----------

売上債権 計	6,816,928
--------	-----------

(その他流動資産)

その他流動資産	0
---------	---

その他流動資産 計	0
-----------	---

流動資産合計

40,683,148

【固定資産】

(有形固定資産)

建物附属設備	400,204
什器 備品	142,672

有形固定資産 計	542,876
----------	---------

(投資その他の資産)

敷 金	100,000
-----	---------

投資その他の資産 計	100,000
------------	---------

固定資産合計	642,876
--------	---------

642,876

資産の部 合計

41,326,024

II 負債の部

【流動負債】

未払費用	3,359,803
預 り 金	160,631
源泉所得税	(33,055)
雇用保険料	(22,061)
住民税	(105,515)
仮 受 金	9,513,976

未払法人税等	141,400
--------	---------

流動負債 計

13,175,810

負債の部 合計

13,175,810

正味財産

28,150,214

貸 借 対 照 表

NP0法人とちぎボランティアネットワーク
全事業所

[税込] (単位：円)
2022年 3月31日 現在

資 産 の 部		負 債 ・ 正 味 財 産 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
1、流動資産		1、流動負債	
(現金・預金)		未払費用	3,359,803
現金 一般	80,177	前 受 金	0
現金 災害	0	預 り 金	160,631
現金 とちコミ	488,934	仮 受 金	9,513,976
現金 県北	187,960	未払法人税等	141,400
普通預金 一般	3,339,746	流動負債 計	13,175,810
普通預金 災害	0	負債の部合計	13,175,810
普通預金 とちコミ	15,522,608		
普通預金 県北	4,268,064	正 味 財 産 の 部	
普通預金 休眠預金	9,655,924	2、正味財産	
普通預金 ユニバーサル	264,060	前期繰越正味財産額	28,644,512
郵便振替 一般	58,747	当期正味財産増減額	△ 494,298
現金・預金 計	33,866,220	正味財産 計	28,150,214
(売上債権)		正味財産の部合計	28,150,214
未 収 金	6,816,928		
売上債権 計	6,816,928		
(その他流動資産)			
前払費用	0		
その他流動資産 計	0		
流動資産合計	40,683,148		
2、固定資産			
(有形固定資産)			
建物附属設備	400,204		
什器 備品	142,672		
有形固定資産 計	542,876		
(投資その他の資産)			
敷 金	100,000		
投資その他の資産 計	100,000		
固定資産合計	642,876		
資産の部合計	41,326,024	負債・正味財産の部合計	41,326,024